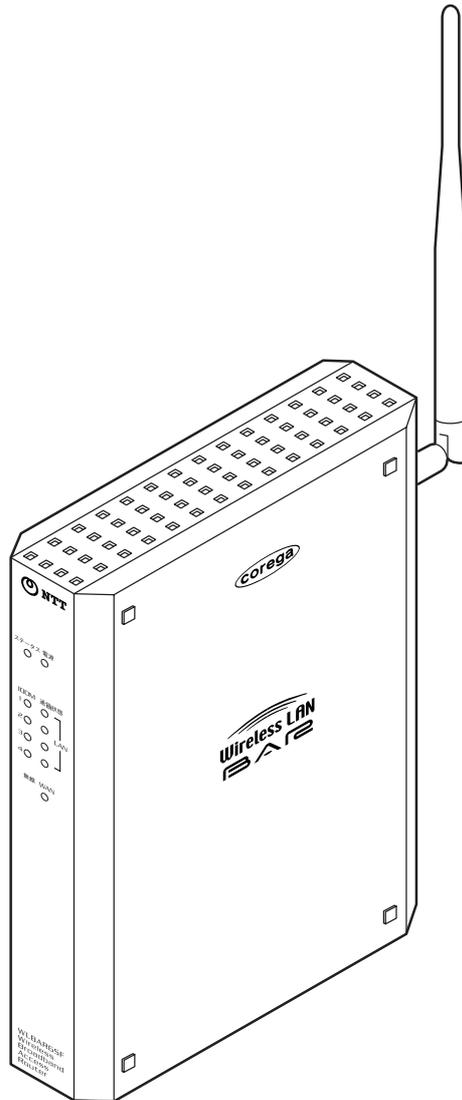




CG-WLBARGSF

取扱説明書



CG-WLBARGSF および CG-WLCB54GSF は株式会社コレガの商品名です。
WBC WLBARGSF および WBC WLCB54GSF は西日本電信電話株式会社の商品名です。

安全にご使用いただくために必ずお読みください

本書には、あなたと他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みになってください。

本書中のマーク説明

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
 お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかつたり、機能停止を招く内容を示しています。

- ご使用の際は取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品（取扱説明書、ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。また海外で保守サービスおよび技術サービスは行っておりません。国内で使用する場合でも、日本語環境によるご利用のみのサービスとなっております。
This product is designed for only use in Japan and we are not offering maintenance service and technical service of this product in any foreign country. It works properly in only Japanese Operating System.
- 本製品の使用に起因してお客様またはその他第三者に生じた結果的損害、付随的損害および逸失利益に関しましては、弊社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品を分解したり改造したりすることは、絶対に行わないでください。
- 本書に他社製品の記載がある場合、これは参考を目的としたものであり、記載製品の使用を強制するものではありません。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、添付の「NTT 通信機器お取扱相談センタ」シールをご覧になり、お取扱相談センタへお申しつけください。
- この取扱説明書、ハードウェア、ソフトウェアおよび外観の内容について将来予告なしに変更することがあります。



警告

- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐにACアダプタをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認して添付の「NTT通信機器お取扱相談センタ」シールをご覧になり、お取扱相談センタに修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
- 本製品・ACアダプタをぬれた手でさわったり、水をかけないようにご注意ください。火災・感電の原因となることがあります。
- 万一、本製品を落としたり、本製品を破損した場合は、ACアダプタをコンセントから抜いて、添付の「NTT通信機器お取扱相談センタ」シールをご覧になり、お取扱相談センタに修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
- 万一、内部に水などが入った場合は、すぐにACアダプタをコンセントから抜いて、添付の「NTT通信機器お取扱相談センタ」シールをご覧になり、お取扱相談センタにご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
- 本製品の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐにACアダプタをコンセントから抜いて、添付の「NTT通信機器お取扱相談センタ」シールをご覧になり、お取扱相談センタにご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本製品を分解・改造したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。内部の点検・修理は添付の「NTT通信機器お取扱相談センタ」シールをご覧になり、お取扱相談センタにご依頼ください。
- ふろ場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- AC100Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手でACアダプタを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- ACアダプタのコードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。また、重い物を乗せたり、加熱したりするとコードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。ACアダプタのコードが傷んだら、添付の「NTT通信機器お取扱相談センタ」シールをご覧になり、お取扱相談センタに修理をご依頼ください。
- テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ACアダプタのプラグにほこりが付着していないことを確認してコンセントに差し込んでください。また、半年から1年に1回は、ACアダプタのプラグを点検してください。ほこりにより火災・感電の原因となることがあります。なお、点検は添付の「NTT通信機器お取扱相談センタ」シールをご覧になり、お取扱相談センタにご相談ください。
- 本製品のそばに花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。
- ACアダプタ（電源プラグ）を電源コンセントに差し込むときは、確実に差し込んでください。ACアダプタの刃に金属などが触れると、火災・感電の原因となることがあります。

 **警告**

- ACアダプタは、必ず付属のものをお使いになり、それ以外のものは絶対にお使いにならないでください。
- ACアダプタのコードが傷んだ（芯線の露出、断線など）状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐにACアダプタを抜いて、添付の「NTT 通信機器お取扱相談センタ」シールをご覧になり、お取扱相談センタに修理をご依頼ください。
- 異常音がしたり、本製品が熱くなった状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐにACアダプタをコンセントから抜いて、添付の「NTT 通信機器お取扱相談センタ」シールをご覧になり、お取扱相談センタに点検をご依頼ください。
- 本製品を医療機器や高い安全性が要求される用途では使用しないでください。人が死亡または重傷を負う可能性があり、社会的に大きな混乱が発生する恐れがあります。

 **注意**

- 直射日光の当たるところや、暖房機器・ボイラーなどのため著しく温度が上昇するところには置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
- 調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- 本製品やACアダプタを熱器具に近づけないでください。本製品やコードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- お近くに雷が発生したときは、ACアダプタをコンセントから抜いてご使用を控えてください。雷によっては、火災・感電の原因となることがあります。
- 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと本製品の内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使い方はしないでください。
 - ・じゅうたんや布団の上に置く
 - ・テーブルクロスなどをかける
 - ・本棚、タンスの中、押入の中などの風通しの悪い場所に置く
- 長期間ご使用にならないときは、ACアダプタをコンセントから抜いてください。
- 本製品に乗らないでください。特に小さなお子様のいる家庭ではご注意ください。壊れてけがの原因となることがあります。
- 付属品のCD-ROMをオーディオ用プレイヤーで使用しないでください。大音量によりスピーカの破損や耳の障害の原因となることがあります。
- お手入れをするときは、安全のため必ずACアダプタをコンセントから抜いてください。
- 大量のデータ通信を行うと、通信ができなくなることがあります。
- 高い信頼性を要求される、幹線通信機器や電算機システムでは使用しないでください。社会的に大きな混乱が発生する恐れがあります。

STOP

お願い

- 次のような場所でご使用や保管はしないでください。
 - ・ 急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
 - ・ 湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所
 - ・ 振動の激しい場所
 - ・ 以下の環境条件に適応しない場所
 - 温度：0～40℃
 - 湿度：90%以下（結露なきこと）
- 本製品・ケーブルは、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがあります。コネクタの接点部分、ポート、部品などを素手で触らないでください。
- ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼってよごれをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。
- 落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。
- 製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。本製品が正常に動作しないことがあります。
- 電気機器・AV・OA 機器など磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）。
 - ・ 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなる場合があります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
 - ・ テレビ・ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
 - ・ 放送局や無線局などが近く、雑音等が大きいときは、本製品の設置場所を移動してみてください。
- 塩水がかかる場所、硫化水素、亜硫酸ガス、アンモニアが発生する場所で使用しないでください。故障の原因となることがあります。
- 本製品をご使用中、AC アダプタをさわると温かく感じるがありますが、故障ではありませんので、安心してご使用ください。
- 管理者パスワードやネットワーク名（ESSID）は、必ず変更してください。
 - ・ 管理者パスワードを変更しないと、ネットワーク上の誰からでも本製品の設定を行うことができ、セキュリティの面から非常に危険です。
- 無線LANのセキュリティの設定および無線アクセスポイントのアクセス制限の設定は必ず行ってご使用ください。
 - ・ 無線LANのセキュリティ設定を行っていない場合は、第三者により通信の内容を盗み見られることや、お客さまのパソコンに不正に侵入される可能性がありますので、本製品をご利用時には、お客さま自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行うことをお勧めいたします。本製品のセキュリティの設定に関する詳細は、本製品に同封の取扱説明書等をご覧ください。
- 周囲の環境（壁、家具等）によって使用範囲が狭くなることがあります。

電波に関するご注意

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。

また設置の前に、「安全のために」を必ずお読みください。

- 心臓ペースメーカーの近くで、本製品をご使用にならないでください。心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 医療機器の近くで、本製品をご使用にならないでください。医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。電子レンジによって、本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の製品仕様に記載してある使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 2 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、電波の発信を停止したうえで、添付の「NTT 通信機器お取扱相談センタ」シールに記載されている連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置（例：パーティションの設置など）についてご相談してください。
- 3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、お取扱相談センタ（添付の「NTT 通信機器お取扱相談センタ」シールに記載）へお問い合わせください。

無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ID やパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報
- メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、本製品を使用することをお勧めします。

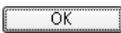
本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本製品	CG-WLBARGSF または CG-WLCB54GSF を指します。
「 」 - 「 」 - 「 」	「 」 で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[]	[] で囲んである文字は、画面上のボタンを表します。 例：  → [OK]

●正式名称について

本書で使用しているソフトウェア名の正式名称は以下のとおりです。

<Windows>

Windows[®] Microsoft[®] Windows[®] Operating system

Windows[®] XP Microsoft[®] Windows[®] XP Home Edition operating system および Microsoft[®] Windows[®] XP Professional operating system

Windows[®] 2000 Microsoft[®] Windows[®] 2000 Professional operating system

Windows[®] Me Microsoft[®] Windows[®] Millennium Edition operating system

Windows[®] 98SE Microsoft[®] Windows[®] 98 Second Edition operating system

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

目次

安全にご使用いただくために必ずお読みください	2
本書の読み方	7
PART1 まず準備が必要	10
はじめに	10
同梱品一覧	11
各部の名称と機能	12
使用環境を確認する	14
本製品の機能	16
PART2 ネットワークに接続しよう	17
ステップ手順	17
本製品を接続しよう	18
本製品を設置する場所について	18
本製品の電源を入れるには	18
パソコン、回線終端装置（モデム等）と本製品を接続する（有線接続）	19
回線終端装置（モデム等）と本製品を接続する（無線接続）	20
CG-WLCB54GSFのユーティリティをインストールする（無線接続）	21
簡単ルーター接続ソフト(CD-ROM)を使う	27
フレッツ・光プレミアムでご利用になるときは	31
Step1 設定変更を行うパソコンを接続する	31
Step2 本製品の設定を変更する	32
Step3 加入者網終端装置（CTU）と接続する	33
加入者網終端装置（CTU）と接続後に設定ユーティリティを使うには	34
PART3 設定ユーティリティを見てみよう	35
設定ユーティリティの起動、終了のしかた	35
起動のしかた	35
終了のしかた	36
設定ユーティリティの全体構成について	36
[保存]、[追加]、[削除]、[更新]をクリックしたときは	37
設定画面の各機能	37
トップページ	37
簡単設定	38
WAN 側設定	38
LAN 側設定	54
無線 LAN 設定	56
パスワード設定	62
動作モード設定	62
状態表示	63
詳細設定	70

PART4 こんなときにはこの設定	89
ネットワークゲームをするには	89
UPnPに対応したネットワークゲームの場合	89
UPnPに対応していないネットワークゲームの場合	90
音声／ビデオチャットなどのツールを使うには	91
Windows Messenger、MSN Messenger	91
外部にサーバを公開するには	92
バーチャルサーバを使用する	92
ダイナミックDNSを使用してURLでアクセスする	92
マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには	93
プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する	93
プロバイダとフレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／ フレッツ・グループ（NTT西日本）のLAN型払い出しに接続する	94
複数固定IPサービスを利用するには（Unnumbered利用）	95
その他のルーティング設定例	96
スタティックルートの設定	96
RIPの設定	97
PART5 トラブルや疑問があったら	98
解決のステップ	98
取扱説明書や契約書を再確認する／管理者に確認する	99
Q&A	99
インターネットに接続できない	99
パソコン同士が繋がらない	101
本製品の設定ユーティリティが起動しない	101
本製品の設定ユーティリティにログインできない	101
ファームウェアのアップデートに失敗した	102
パソコンのIPアドレスを調べたい	102
本製品のログイン名（ユーザー名）、パスワードを変更したい	103
最新のファームウェアを入手してアップデートしたい	103
本製品の設定を保存したい／元に戻したい	106
本製品を再起動したい	107
本製品を工場出荷時の状態に戻したい（初期化）	108
それでも解決しなかったら…	109
付録.....	110
製品仕様書	110
MAC アドレスについて	112
本製品のお問い合わせについて	112
おことわり	113

はじめに

このたびは、「CG-WLBARGSF」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
本書は、CG-WLBARGSF および CG-WLCB54GSF を正しくご利用いただくための手引きです。
必要なときにいつでもご覧いただけるように、大切に保管してください。

添付マニュアルのご紹介

CG-WLBARGSF および CG-WLCB54GSF には、次の取扱説明書が添付されています。
CG-WLBARGSF および CG-WLCB54GSF の各取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。

● CG-WLBARGSF 取扱説明書（本書）

安全にお使いいただくためのご注意や、添付品の内容、各部の名称と機能、サポートに関する情報、本製品の基本的な設定手順などを説明しています。
また、PART3ではWEPやWPAなどのセキュリティ設定やダイナミックDNSなどの高度な設定手順を説明しています。基本的な設定が完了したあとにご覧ください。

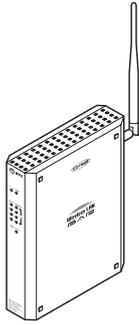
● CG-WLCB54GSF 取扱説明書

セキュリティ設定など、CG-WLCB54GSF の詳細な機能説明や設定方法、トラブルシューティングなどを説明しています。

同梱品一覧

1

まず準備が必要



・CG-WLBARGSF 本体



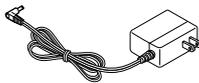
・簡単ルーター接続ソフト (CD-ROM)



・CG-WLCB54GSF



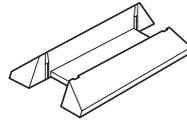
・ユーティリティディスク (CD-ROM)



・ACアダプタ



・LANケーブル



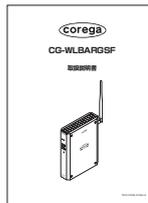
・スタンド



・電波干渉注意シール



・「NTT 通信機器お取扱相談センター」シール



・CG-WLBARGSF 取扱説明書 (本書)



・CG-WLCB54GSF 取扱説明書



・保証書



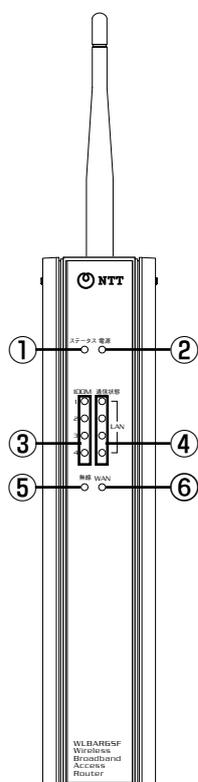
本製品底面の製品ラベルに記載されている **2.4DS/OF4** は次の内容を意味しています。

使用周波数帯域	2.4GHz帯
変調方式	DS-SS方式/OFDM方式
想定干渉距離	40m以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」、「アマチュア局」帯域を回避可能

各部の名称と機能

< CG-WLBARGSF >

●前面●



①ステータス LED(緑)

システムの状況が表示されます。

点灯：常時点灯の場合、セルフテストの結果異常がありました。

消灯：本製品は正常に動作しています。

②電源 LED(緑)

本製品の電源が入っているときに、緑色に点灯します。

③100M LED(橙)

本体背面のLAN ポートの動作速度が表示されます。

点灯：100Mbps で接続が確立されています。

消灯：10Mbps で接続が確立されています。

④通信状態 LED(緑)

本体背面のLAN ポートの状態が表示されます。

点灯：ケーブルが正しく接続され、相手側通信機器と正常に接続されています。

点滅：データ通信中です。

消灯：ケーブルが正しく接続されていません。または、相手側通信機器と正常に接続されていません。

⑤無線 LED(緑)

無線接続しているパソコンとの接続状態が表示されます。

点灯：無線で通信ができる状態です。

点滅：データ通信中です。

消灯：無線で通信ができない状態です。

⑥WAN LED(緑)

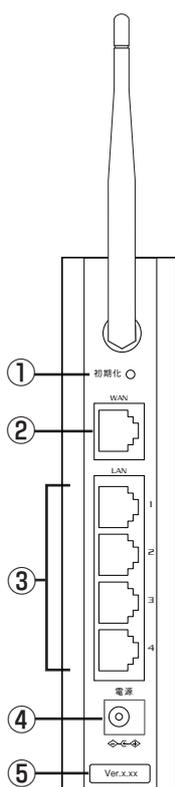
本体背面のWAN ポートの状態が表示されます。

点灯：ケーブルが正しく接続され、相手側通信機器と正常に接続されています。

点滅：データ通信中です。

消灯：ケーブルが正しく接続されていません。または、相手側通信機器と正常に接続されていません。

●背面●



①初期化スイッチ

本製品の再起動、または設定内容を工場出荷時の状態に戻す場合に使用します。

操作方法については、「本製品を再起動したい」(P.107)、「本製品を工場出荷時の状態に戻したい(初期化)」(P.108)をご覧ください。

②WAN ポート

本製品と回線終端装置(モデムなど)または既存のネットワークを接続するためのポートです。

③LAN ポート

パソコンやハブを接続するためのポートです。1~4までの4つのポートがあります。100Mbps/10Mbpsの切り替えは、オートネゴシエーション機能によって自動的に行われます。

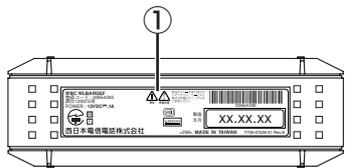
④電源ジャック

添付の専用ACアダプタを接続するためのコネクタです。

⑤ファームウェアバージョンラベル

本製品の工場出荷時に設定されているファームウェアのバージョンが記載されています。

●底面●



① 製品ラベル

本製品を安全にご使用いただくための重要な情報が記載されておりますので、必ずお読みください。

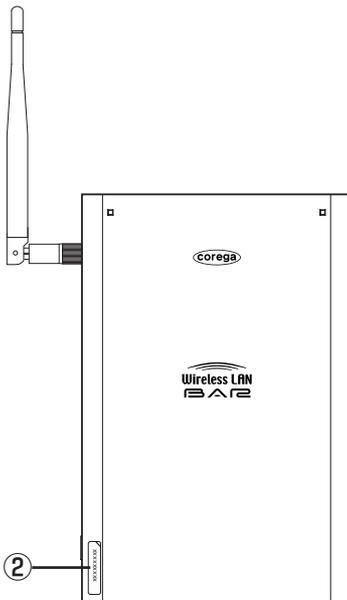
② MAC アドレスラベル

本製品のWAN側ポートのMACアドレスが記載されています。

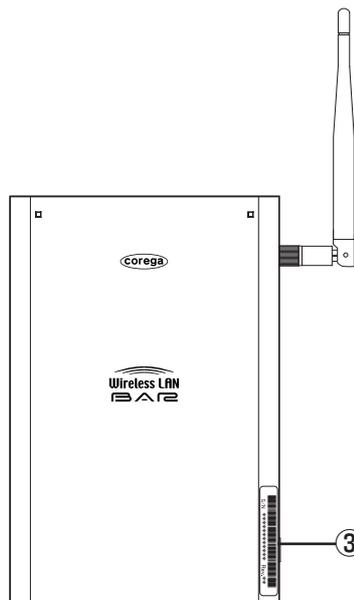
③ シリアル番号ラベル

本製品のシリアル番号とリビジョンが記載されています。シリアル番号とリビジョンは、お取扱相談センターへのお問い合わせの際に必要となります。

●左側面●



●右側面●



< CG-WLCB54GSF >

●前面●

状態		① Power LED (緑)	② Link LED (緑)
通信相手先の検索中です。		交互に点滅	
通信相手先と正常にリンクしている状態です。		同時に点滅	
通信中です。	XP/2000	速めの点滅	速めの点滅
	Me/98SE	点滅	高速点滅
本製品を取り外すことが可能です。	XP/2000	点滅	消灯
	Me/98SE	消灯	消灯



※ XP/2000:Windows XP/2000、Me/98SE:Windows Me/98SE
 ※ Windows XP以外のOSを使用して、「本製品の省電力モード」の設定を「速度優先」または「最大」に設定した場合、通信待機状態が続くとLink LEDが消灯します。

●裏面●

③製品ラベル

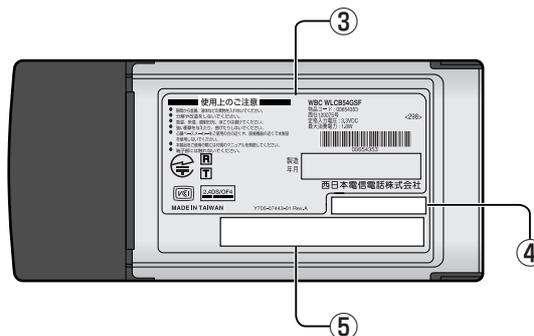
本製品を安全にお使いいただくための重要な情報が記載されています。必ずお読みください。

④MACアドレスラベル

本製品のMACアドレスが記載されています。

⑤シリアル番号ラベル

本製品のシリアル番号(製造番号)とリビジョンが記入されています。シリアル番号とリビジョンは、お取扱相談センターへのお問い合わせの時に必要な情報です。



使用環境を確認する

チェック1



プロバイダとの契約、工事は完了していますか？

本製品を使ってインターネットに接続するには、Bフレッツ、フレッツ・ADSLなどの回線を使ったインターネット接続サービスへの加入が必要です。また、プロバイダによる工事が完了するまでは、インターネットへの接続はできません。

チェック2



回線終端装置（モデムなど）やケーブルはそろっていますか？

回線と接続するには、回線の種類に応じた回線終端装置（モデムなど）が必要になります。また、回線への接続が正しくできているか、確認してください。確認方法については、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。

チェック3



設定に必要な情報は準備できていますか？

本製品の設定を行う際に、各サービス別に以下の情報が必要です。プロバイダとの契約時に、以下のような情報が提供されますので契約書類などで確認し、メモしておいてください。不明な場合はご契約のプロバイダにお問い合わせください。

● PPPoE 接続の場合（B フレッツ、フレッツ・ADSL など）

- ・ユーザー名
- ・パスワード
- ・サービス名（プロバイダから指定された場合のみ）
- ・DNS サーバの IP アドレス（プロバイダから指定された場合のみ）



上記の名称は、プロバイダによって異なる場合があります。

例：ユーザー名→アカウント、ユーザー ID、ログイン ID など
ご不明な点は、ご契約のプロバイダに確認してください。

チェック4



パソコンの環境はそろっていますか？

● LAN コネクタ（10BASE-T/100BASE-TX ポート）（有線接続の場合）

LAN コネクタがない場合は、ご利用のパソコンに合わせて次のいずれかの方法で、LAN コネクタを増設してください。増設方法については、パソコン、またはLANボード、LANカード、LANアダプタの取扱説明書を参照してください。

- ・ 拡張スロット（PCIバスまたはISAバス）にLANボードを取り付ける
- ・ PCカードスロットにLANカードを取り付ける
- ・ USBコネクタにLANアダプタを取り付ける

● 無線LAN（802.11g/802.11b）（無線接続の場合）

無線LAN機能がない場合は、ご利用のパソコンに合わせて次のいずれかの方法で、無線LAN機能を増設してください。増設方法については、パソコンまたは無線LANボード、無線LANカード、無線LANアダプタ、無線LANイーサネットコンバータの取扱説明書を参照してください。

- ・ 拡張スロット（PCIバス）に無線LANボードを取り付ける
- ・ PCカードスロットに無線LANカードを取り付ける
- ・ USBコネクタに無線LANアダプタを取り付ける
- ・ LANコネクタに無線LANイーサネットコンバータを取り付ける

● OS

本製品は、Windows XP/2000/Me/98SE/98/95/NT 4.0、Mac OS、UNIX、Linuxなど、TCP/IPをサポートするOSに対応しています。

● Webブラウザ

本製品の設定は、Webブラウザ（Microsoft Internet Explorer 5.5以降）で行います。パソコンにMicrosoft Internet Explorer 5.5以降がインストールされているか、確認してください。



Windows 98/95/NT4.0、Mac OS、UNIX、Linuxでは、本製品の設定はできません。

本製品の機能

本製品には、次のような機能があります。

- ・B フレッツ、フレッツ・ADSL 対応
- ・WAN ポート、LAN ポートともに 10BASE-T/100BASE-TX 対応
- ・NAT/IP マスカレード機能で、複数のパソコンから同時にインターネット接続可能
- ・2つのルーティング方式（スタティック、RIP）に対応
- ・DHCP クライアント/サーバ機能で簡単導入
- ・「簡単ルーター接続ソフト」による簡単インターネット接続
- ・簡単 Web 設定
- ・詳細なアクセス制限が可能
- ・E-Mail 機能にてログ情報を送信可能
- ・NTP に対応
- ・DDNS（ダイナミック DNS）対応
- ・Web 管理ツールによりファームウェアのアップグレードが可能
- ・UPnP（Windows Messenger、MSN Messenger など）に対応

本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

ここでは、付属の「簡単ルーター設定ソフト」を使って、ネットワーク設定を行います。

「簡単ルーター設定ソフト」は、本製品に接続するためのネットワーク設定や Web ブラウザ (Internet Explorer) の設定、本製品の設定を行ってくれるソフトです。

ステップ手順

●有線

●無線

パソコン、回線終端装置 (モデムなど) と本製品を接続 (P.19)

回線終端装置 (モデムなど) と本製品を接続 (P.20)

CG-WLCB54GSF をインストールする (P.21)

「簡単ルーター接続ソフト」(CD-ROM)を使う (P.27)

※ネットワークの設定が正しく行われない方、またはこのステップ手順に合わない方は「簡単ルーター接続ソフト」画面内の「取扱説明」をクリックし、「手動セットアップ」をご覧ください。

完了

フレッツ・光プレミアムでご利用になる場合は、「フレッツ・光プレミアムでご利用になるときは」(P.31) を最初に設定して、アクセスポイントとしてご使用ください。

無線でご利用の際は、付属の無線 LAN アダプタ (CG-WLCB54GSF) を使用してください。他の無線 LAN アダプタでは、付属の「簡単ルーター接続ソフト」はご使用になれません。

本製品を接続しよう

■本製品を設置する場所について

- ・「安全にご使用いただくために必ずお読みください」をお読みになり、使用時の注意等についてご確認ください。
- ・本製品の上面にある通気口は、放熱のため塞がないでください。
- ・本製品を安定させて設置する場所が見つからない場合は、付属の縦置きスタンドを本製品に取り付けることで、本製品を立てて設置できます。

●設置に適した場所

- ・水平で落下の恐れがない場所（机の上など）
- ・風通しのよい涼しい場所

●設置に適さない場所

- ・直射日光が当たる場所
- ・暖房器具の近くなど
- ・高温多湿でホコリの多い場所
- ・パソコンやモデムなど、発熱する機器の上

■本製品の電源を入れるには

●本製品の電源の取りかた

本製品の電源は、たこ足配線などを避け、他の機器と別系統で取るようにしてください。必ず付属の専用ACアダプタを使用し、AC100Vの電源コンセントに接続してください。それ以外のACアダプタやコンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

●本製品の電源の入れかた／切りかた

本製品背面の電源ジャックにACアダプタのDCプラグを接続し、電源プラグを電源コンセントに差し込むと電源が入ります。ACアダプタの電源プラグを電源コンセントから抜くと電源が切れます。



- ・本製品には電源スイッチがありません。電源プラグを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。
- ・ACアダプタの電源プラグを電源コンセントに差し込んだままDCプラグを抜かないでください。感電事故を引き起こす恐れがあります。
- ・電源プラグを電源コンセントに接続した時に、WAN LEDと全LAN LEDが点灯したままになってしまった場合は、もう一度電源プラグを電源コンセントに入れ直してください。

■パソコン、回線終端装置(モデムなど)と本製品を接続する

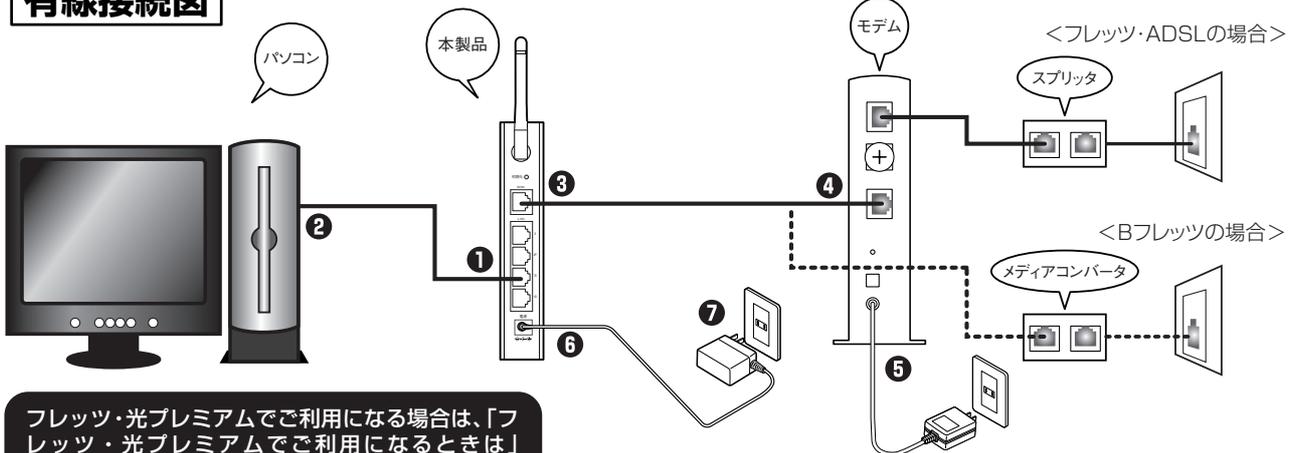
有線接続

本製品と回線終端装置(モデムなど)、パソコンなどをネットワークに接続する場合はLANケーブルで接続してください。

●推奨ケーブルについて

すべてのケーブルが機器間を接続するのに適切な長さであることを確認します。本製品とパソコンを接続するLANケーブルの長さは100m以内にしてください。また、ケーブルは、カテゴリ5のLANケーブル(ストレートタイプ)を使用してください。

有線接続図



フレッツ・光プレミアムでご利用になる場合は、「フレッツ・光プレミアムでご利用になるときは」(P.31)をご覧ください。

※スプリッタ内蔵モデムの場合はスプリッタ不要です。

2

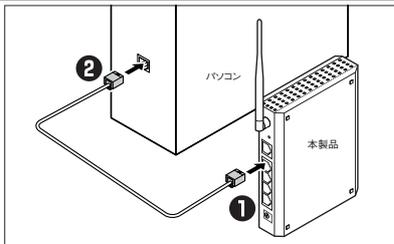
ネットワークに接続しよう

1 準備 パソコンの準備をする

パソコンに「LANポート」が付いているか確認。本製品との接続用のLANケーブルを用意。

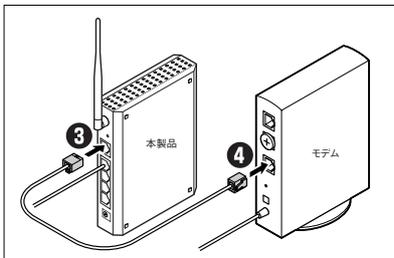
2 接続

本製品に接続するモデム、パソコンなどの電源をすべて切っておきます。



- 1 本製品のLANポートにLANケーブルを接続。
- 2 パソコンのLANポートにLANケーブルを接続。

3 接続

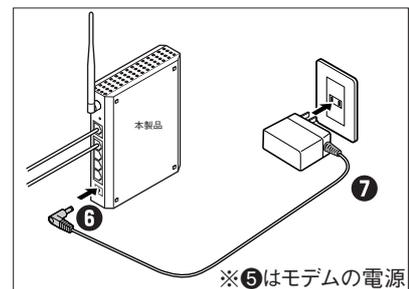


- 3 本製品のWANポートにLANケーブルを接続。
- 4 モデムまたはメディアコンバータのLANポートにLANケーブルを接続。

※ モデム側のポート名は、LANポートのほか、PCポートあるいはETHERNETポートとなっている場合があります。詳しくはそれぞれのモデムの取扱説明書をご参照ください。

※ モデムと回線をモジュラケーブルで接続しておきます。

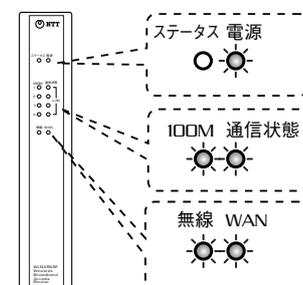
4 接続



- 5 6 7 モデム、本製品の順で、ACアダプタを接続。電源が入りましたら、パソコンの電源を入れます。

5 確認

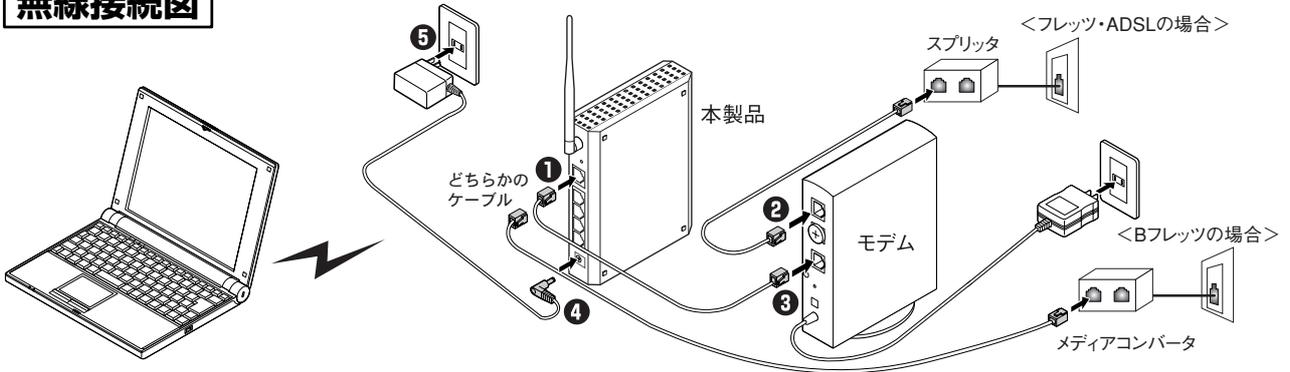
接続できたか確認する



前面の電源LED、LAN側の100M LEDと通信状態LED、無線LED、WAN LEDが点灯していれば、モデムまたはメディアコンバータ、パソコンと接続完了です。

※ 100M LEDは、100M対応のLANポートに接続すると点灯します。お客様の通信機器の環境によって、点灯しない場合があります。

無線接続図

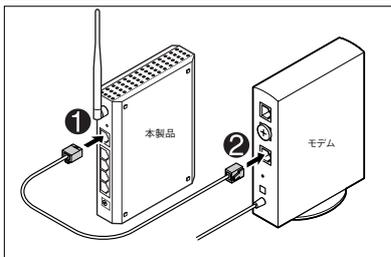


フレッツ・光プレミアムでご利用になる場合は、「フレッツ・光プレミアムでご利用になるときは」(P.31)をご覧ください。

※スプリッタ内蔵モデムの場合はスプリッタ不要です。

1 接続

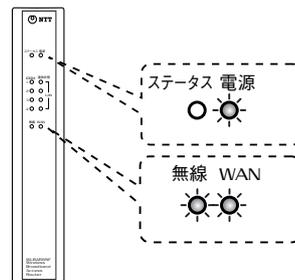
本製品に接続するモデム、パソコンなどの電源をすべて切っておきます。



- ① 本製品のWANポートにLANケーブルを接続。
- ② モデムまたはメディアコンバータのLANポートにLANケーブルを接続。
- ※ モデム側のポート名は、LANポートのほか、PCポートあるいはETHERNETポートとなっている場合があります。詳しくはそれぞれのモデムの取扱説明書をご参照ください。
- ※ モデムと回線をモジュラケーブルで接続しておきます。

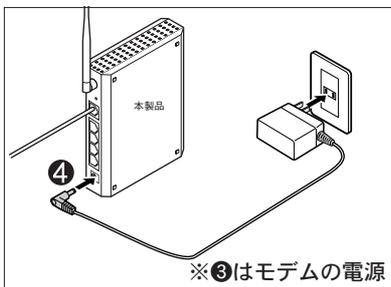
3 確認

接続できたか確認する



前面の電源LED、無線LED、WAN LEDが点灯していれば、モデムまたはメディアコンバータと接続完了です。

2 接続



- ③④⑤ モデム、本製品の順で、ACアダプタを接続。電源が入りましたら、パソコンの電源を入れます。

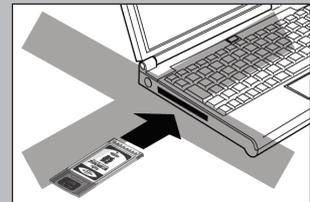
CG-WLCB54GSFのユーティリティを インストールする

無線接続

「CG-WLBARGSF」を無線でご利用になる場合は、無線LANアダプタの設定が必要です。付属の「CG-WLCB54GSF」のユーティリティをパソコンにインストールしてください。インストール方法は、パソコンのOSによって異なります。



「1.ユーティリティをインストールする」の前に、無線LANアダプタをパソコンに装着しないでください。インストール前に無線LANアダプタを装着してしまい、ハードウェアの検出ウィザードが起動した場合は、[キャンセル]をクリックしてウィザードを中止してください。



CG-WLCB54GSF 以外の無線LANアダプタを設定済みのパソコンに、CG-WLCB54GSFをインストールした場合、既に設定済みの無線LANアダプタが使用できなくなることがあります。この場合、ドライバを再インストールするなどの作業が必要ですのでご注意ください。

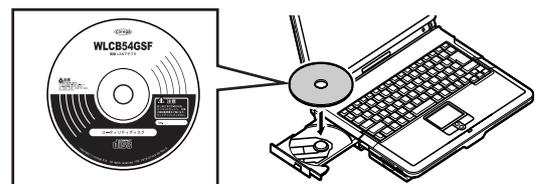
1. ユーティリティをインストールする



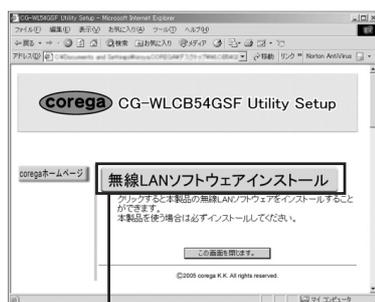
- ・現在使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。
- ・Windows XPの場合は「コンピュータの管理者」または同等の権限を持つユーザー名でログオンしてください。
- ・Windows 2000の場合は「Administrator」またはAdministratorsグループのユーザー名でログオンしてください。
- ・CG-WLCB54GSFはインストール作業が終わるまでパソコンに挿し込まないでください。

1. ユーティリティディスクをCD-ROMドライブに入れます。

自動的に手順2の画面が表示されます。(しばらく待っても表示されない場合は、「マイコンピュータ」のCD-ROMのアイコンをダブルクリックしてください。)



2. [無線LANソフトウェアインストール] をクリックして、次に表示された画面の「インストールのご注意」をお読みになってから、お使いのOSに合わせて [Windows XP/2000用] または [Windows Me/98SE用] をクリックします。



クリック

お使いのOSを
クリック



3. お使いのOSによって手順が異なります。次の手順でインストール作業を続けてください。

Windows XP (SP2) の場合

① 次の画面が表示された場合、[はい] をクリックします。



弊社で動作を確認しております。

クリック



- ・パソコンにより表示されないことがあります。
- ・「今後、このメッセージを表示しない」のチェックを外すと、Internet Explorer のアクティブコンテンツが起動するたびに表示されます。

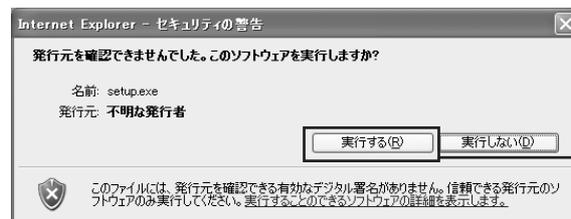
② 次の画面が表示されますので、[実行] をクリックします。



弊社で動作を確認しております。

クリック

③ [実行する] をクリックします。



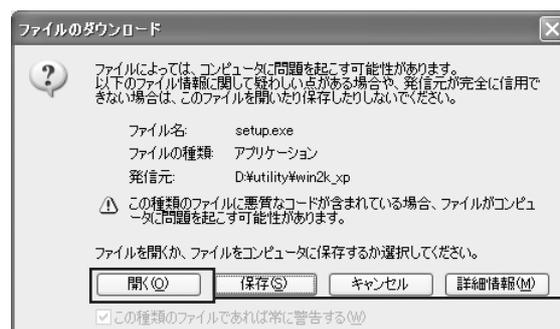
弊社で動作を確認しております。

クリック

④ インストール画面が起動します。画面の指示に従ってインストールを続けてください。

Windows XP (SP1) の場合

① 次のような画面が表示されますが、そのまま [開く] をクリックします。

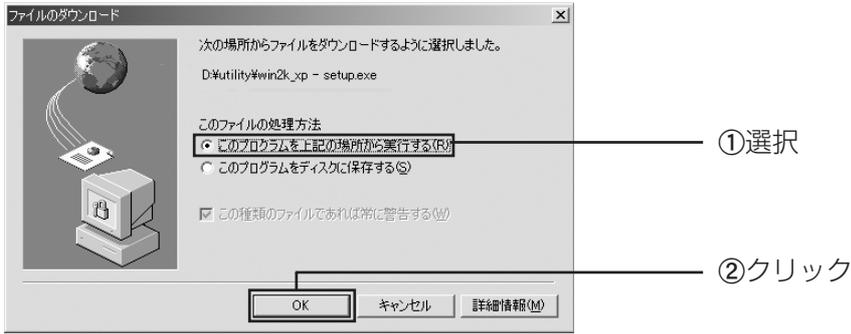


弊社で動作を確認しております。

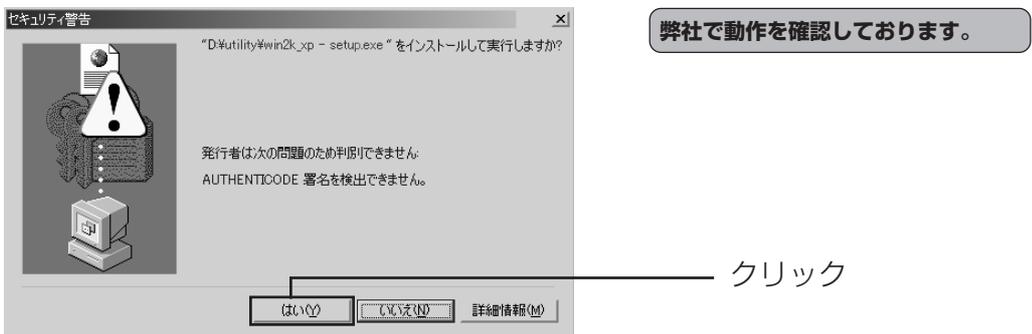
クリック

Windows 2000/Me/98SE の場合

①「このプログラムを上記の場所から実行する」を選択して、[OK] をクリックします。

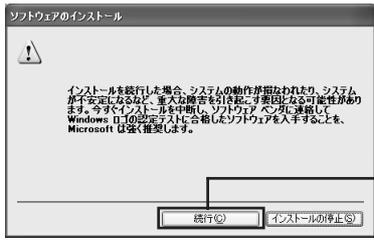


②セキュリティ警告が出ますが、そのまま [はい] をクリックします。



4. その後「InstallShield wizard」の画面がいくつか出てきますので、[次へ] をクリックしていきます。

Windows XP/2000の場合、次のような画面が表示されますが、そのまま [続行] または [はい] をクリックしてください。 弊社で動作を確認しております。

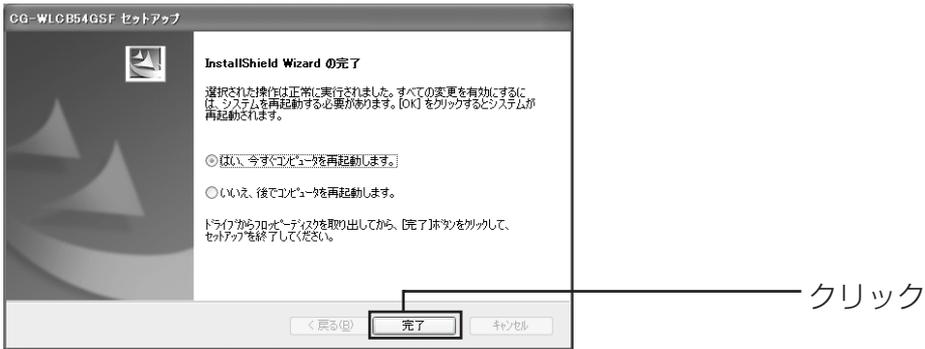


クリック



クリック

5. 「InstallShield ウィザードの完了」の画面が表示されたら、[完了] をクリックします。



6. パソコンを再起動します。再起動を促す画面が表示されなくてもパソコンを再起動させてください。
7. パソコンが起動したら、CD-ROM ドライブからユーティリティディスクを取り出します。

2.CG-WLCB54GSF をパソコンに挿し込む

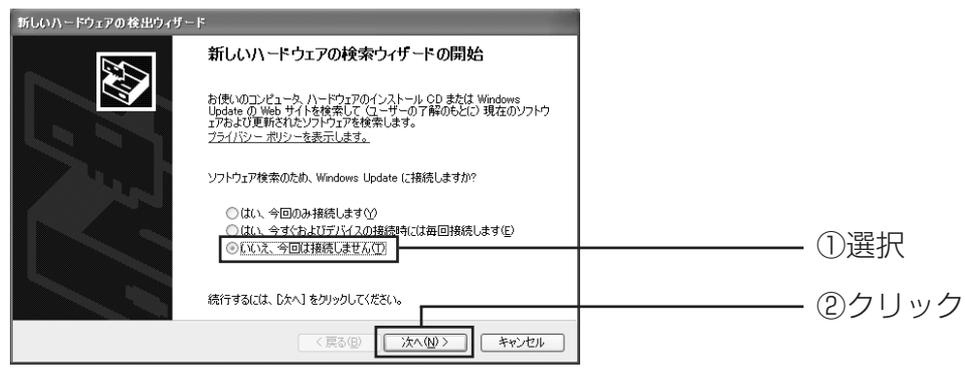
1. パソコンが起動したら、パソコンの PC カードスロットに CG-WLCB54GSF をまっすぐに挿し込み、手ごたえがあるまで押し込みます。

 パソコンにより挿し込む位置や向きが異なります。

2. 画面の指示にしたがって、自動インストールを行います。

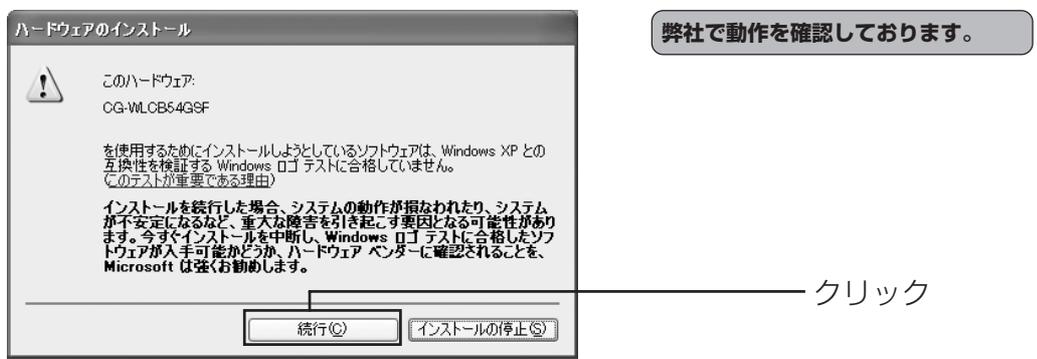
Windows XP の場合

- ① 「新しいハードウェアの検出ウィザード」が開始されます。SP2 で「ソフトウェア検出のため、Windows Update に接続しますか？」が表示されたときは、「いいえ、今回は接続しません」を選択して、[次へ] をクリックします。



 パソコンにより表示されないことがあります。

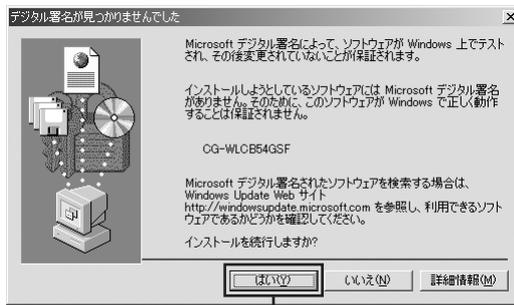
- ② 「インストール方法を選んでください」では「ソフトウェアを自動インストールする (推奨)」を選択して、[次へ] をクリックします。
- ③ セキュリティ警告が出ますが、そのまま [続行] をクリックします。



- ④ ドライバのインストールが完了したというメッセージ画面になります。[完了] をクリックします。
- ⑤ パソコンを再起動します。

Windows 2000 の場合

- ① Windows 2000 の場合、「デジタル署名が見つからない」というメッセージが出ますが、そのまま [はい] をクリックします。



弊社で動作を確認しております。

クリック

- ② パソコンを再起動します。

Windows Me / 98SE の場合

- ① ハードウェア検出ウィザードが自動的に開始されます。



注意

- Windows 98SE では OS の CD を挿入するようメッセージが表示される場合があります。その時は以下のようにしてください。

1. CD-ROM ドライブに Windows 98SE の CD-ROM を入れ替え、[OK] をクリックします。



クリック

2. 「ファイルのコピー元」に以下のように入力し [OK] をクリックします。



「D:¥WIN98」
お使いのパソコンの種類によって、「C:
¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」
と入力する場合もあります。



※ ドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。
「マイコンピュータ」をダブルクリックして確認してく
ださい。

- ※ お使いのパソコンの機種によって、この方法では解決しない場合があります。そのときは、お使いのパソコンメーカーにお問い合わせください。

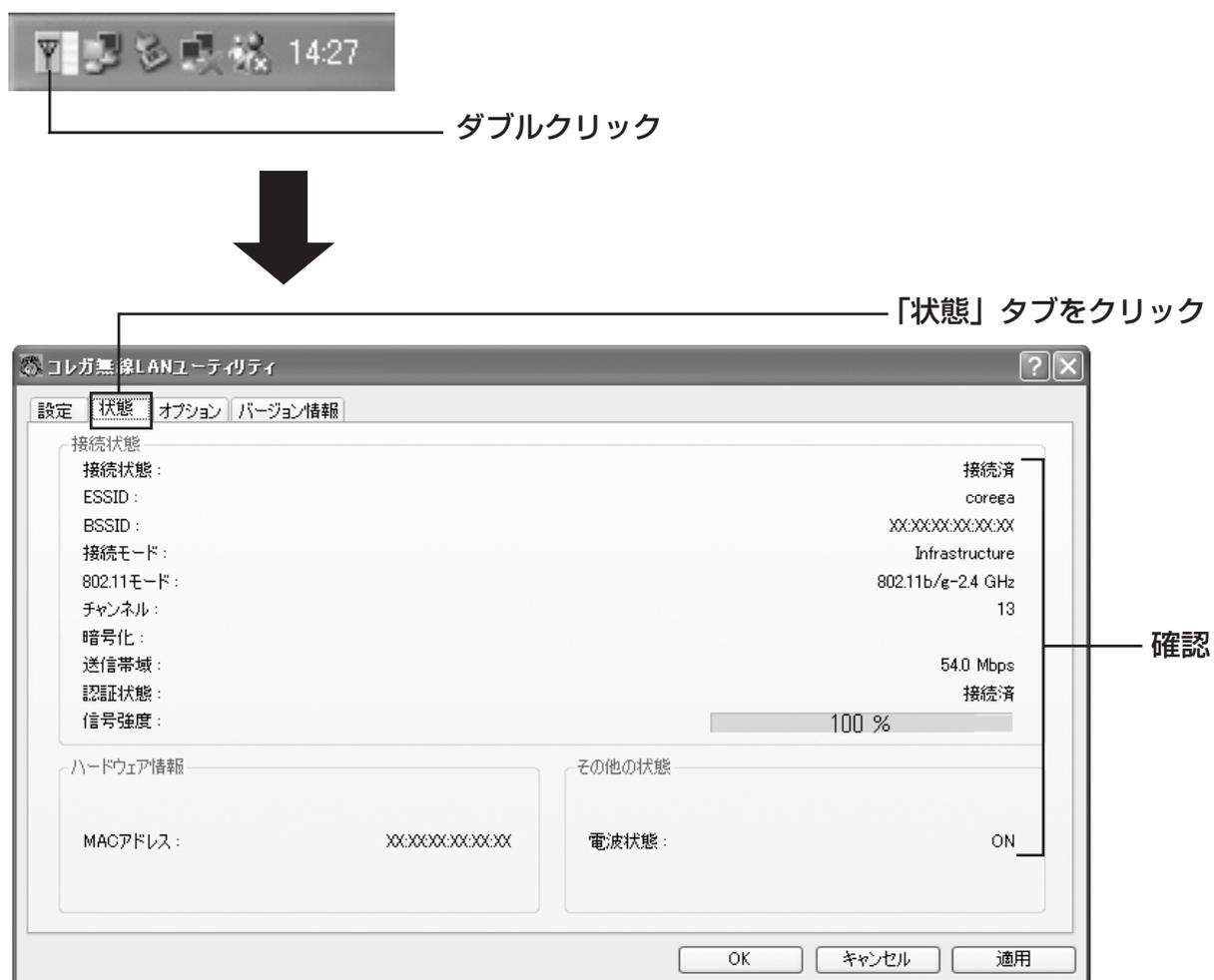
- ② パソコンを再起動します。

3. 無線の電波状態を確認する



本製品と接続する無線 LAN 機器の設定が完了していることを確認してください。

タスクバーにある  のアイコンをダブルクリックして、CG-WLCB54GSFのユーティリティ画面を開き、「状態」タブをクリックします。下の画面のようにになっていることを確認してください。



簡単ルーター接続ソフト(CD-ROM)を使う

無線接続
有線接続



簡単ルーター接続ソフトを使用できる OS は以下のとおりです。

Windows XP/2000/Me/98SE

ご使用の前に P.108 の手順に従ってルータの設定を工場出荷時の状態に戻してください（ご購入直後は必要ありません）。

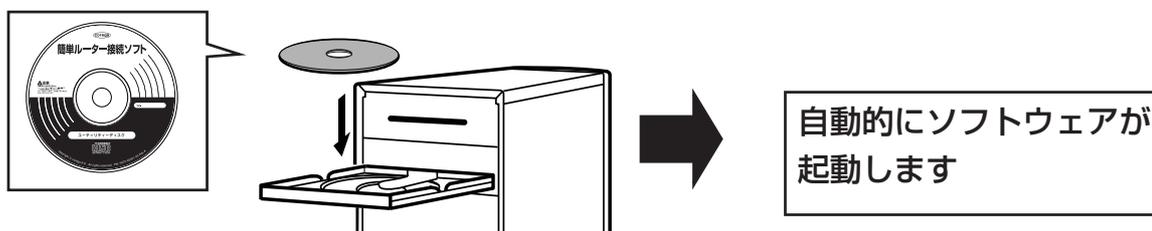
設定用パソコンでセキュリティソフト(ウイルス駆除ソフト、ファイアウォールソフトなど)が起動していると、ルータの設定が正常にできない場合があります。設定の際は、セキュリティソフトを一時的に停止させてください。

無線の接続状態が不安定なときは、一度有線で接続して（P.19をご覧ください）から、「簡単ルーター接続ソフト」をご使用になることをお勧めします。

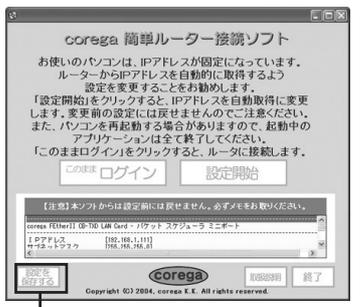


- Windows XP の場合は「コンピュータの管理者」または同等の権限を持つユーザー名でログインしてください。
- Windows 2000 の場合は「Administrator」または Administrators グループのユーザー名でログインしてください。

1. パソコンの CD-ROM ドライブに簡単ルーター接続ソフト (CD-ROM) を入れる



※本ソフトによってパソコンの設定が変わります。下の画面が表示されたときは、ネットワークの現在の設定をテキスト形式で保存してから [設定開始] をクリックしてください。設定内容は、画面左下の [設定を保存する] をクリックすると保存することができます。



※「簡単ルーター接続ソフト」がうまく動作しない場合は、手動でパソコンのネットワーク設定および CG-WLBARGSF の設定をしてください。手動での設定方法は「簡単ルーター接続ソフト」に収録されています。画面内の [取扱説明] をクリックして、「手動セットアップ」をご覧ください。

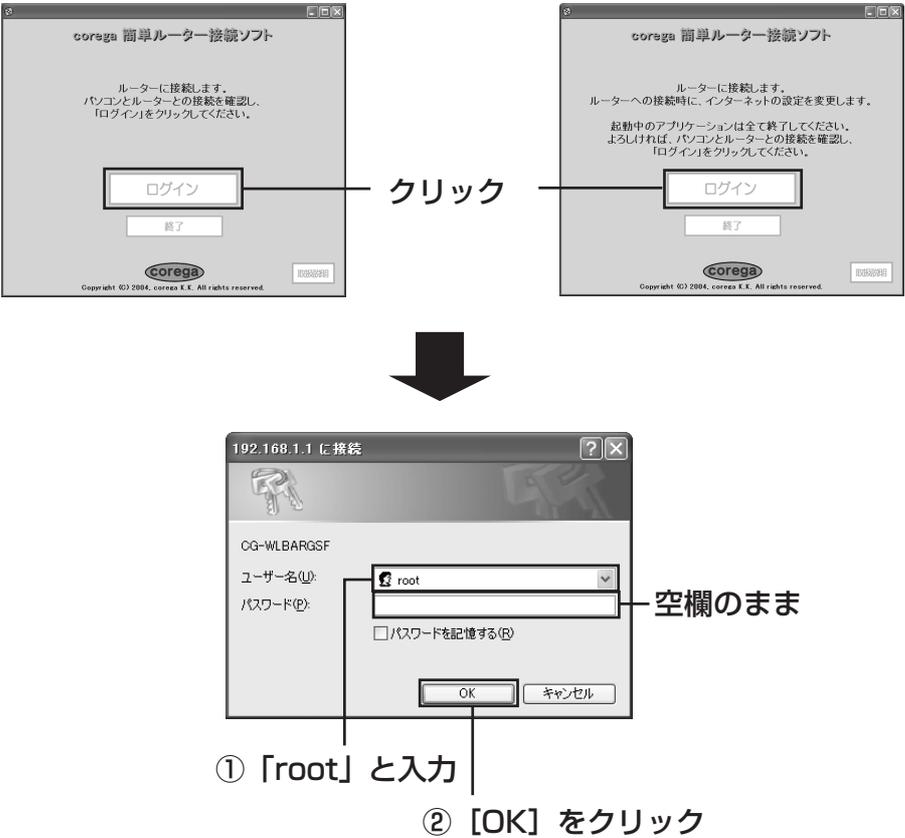
クリックすると現在の設定をテキストで保存できます。

設定が完了すると再起動を促す画面が表示されますので再起動をします。

再起動後、CD-ROM ドライブに CD を入れ直すと次ページの画面が出ますので、次に進んでください。

2. ログインしてユーザー名を入力

ソフトウェアが起動すると、次のどちらかの画面が表示されます。[ログイン] をクリックし、ユーザー名に「root」と入力して [OK] をクリックします。

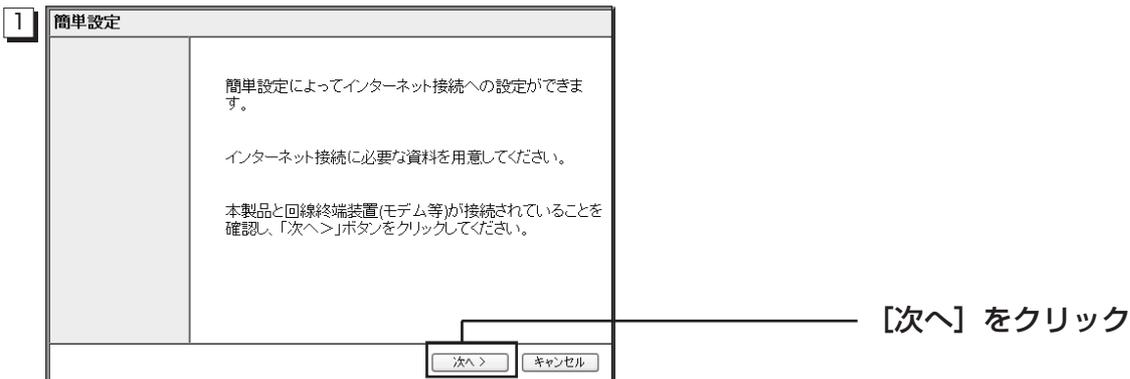


※上の画面は、Windows XP のものです。他 OS も同じ手順で行ってください。



- ・工場出荷時の状態では、ユーザー名「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。
- ・ユーザー名、パスワードは変更できます。詳しくは「本製品のログイン名(ユーザー名)、パスワードを変更したい」(P.103)をご覧ください。

3. ルータの設定をする



2 簡単設定 - インターネット接続(WAN側設定)

インターネット接続への設定(WAN側設定)をしてください。

インターネットへの接続方法を選んでください。

- PPPoE
- IP自動取得(DHCP)
- IP固定設定

①ご利用の回線やプロバイダに合わせて選択します。
 例1: Bフレッツ、フレッツ・ADSLの場合
 「PPPoE」を選択
 例2: Yahoo! BBやCATVの場合
 「IP自動取得(DHCP)」を選択

② [次へ] をクリック

3 簡単設定 - PPPoE

プロバイダからの資料を元に設定してください。

プロバイダから届いた設定方法を元に接続ユーザ名と接続パスワードを入力してください。

接続ユーザ名:

接続パスワード:

フレッツ・スクウェアをご利用になる場合は、地域を選択してください。

フレッツ・スクウェア:

①「ユーザーID※1 @プロバイダのドメイン名」の形式※2 で入力

②「パスワード※3※4」を入力

③フレッツ・スクウェアを利用する場合は、「西日本」または「東日本」から選択します
 フレッツ・スクウェアを利用しない場合は「利用しない」を選択します

④ [次へ] をクリック

契約書を確認!

①「ユーザーID※1 @プロバイダのドメイン名」の形式※2 で入力

②「パスワード※3※4」を入力

コレがるうた様

コレガインターネットサービス

.....

.....

.....

ユーザーID
myname

パスワード
password02

凡例
ABCDEFGHIJKLMNPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789

※1 プロバイダによって「アカウント」「ユーザーアカウント」などと表記される場合もあります。

※2 プロバイダによって形式が異なることがあります。

※3 ここのパスワードは、インターネット接続用のパスワードです。メール送受信用のパスワードは入力しないでください。

※4 パスワードは「●」または「*」で表示されます。

4 簡単設定

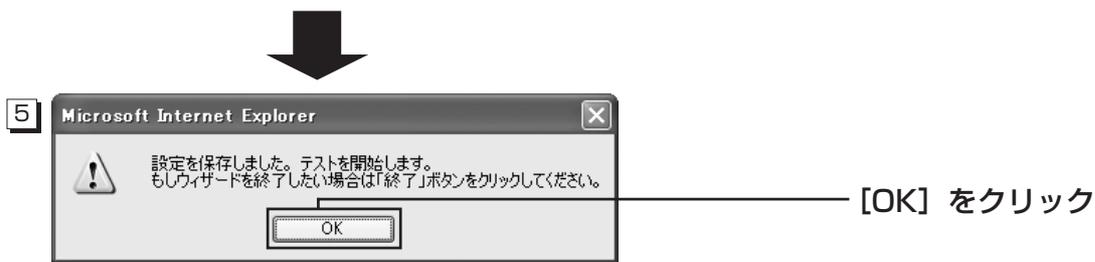
設定を保存します

設定を保存した後、インターネットに接続できるかテストする。

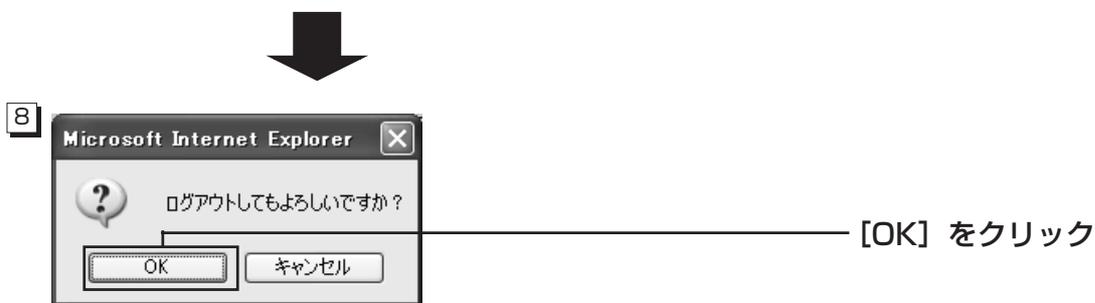
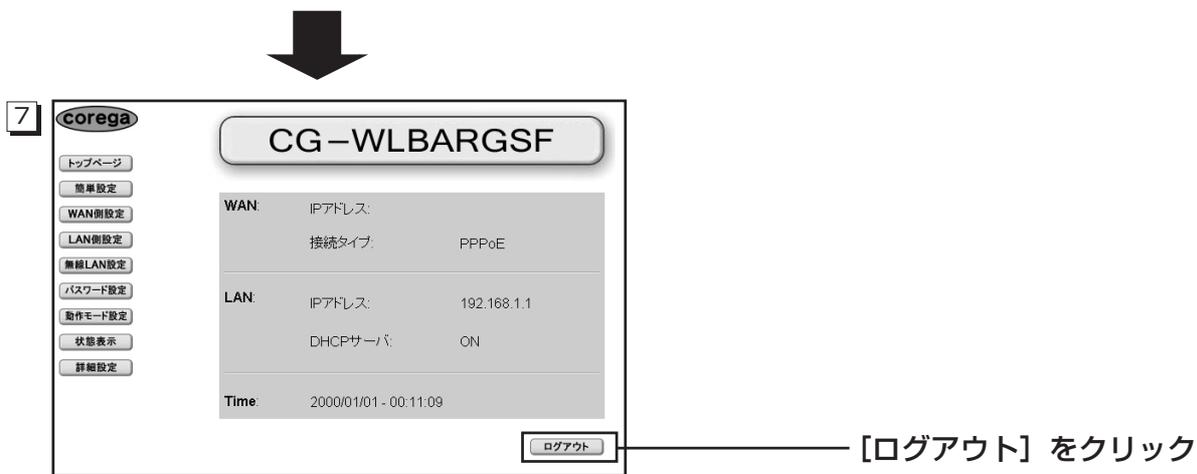
設定内容を保存するには「保存」ボタンをクリックしてください。

テスト結果

[保存] をクリック



 接続テストに失敗したときは、本製品を工場出荷時の状態に戻して (P.108)、もう一度、P.27 からやり直してください。



⑨ CD-ROM ドライブから「簡単ルーター接続ソフト」(CD-ROM) を取り出します。

フレッツ・光プレミアムでご利用になるときは

フレッツ・光プレミアム用の加入者網終端装置（CTU）は、ルータ機能を搭載しています。本製品をルータ機能付きの加入者網終端装置（CTU）に接続する場合には、10/100BASE-TXのスイッチングハブおよび無線LANアクセスポイントとしてご利用いただけます。加入者網終端装置（CTU）と接続する前に、本製品の設定変更が必要です。

■ Step1 設定変更を行うパソコンを接続する

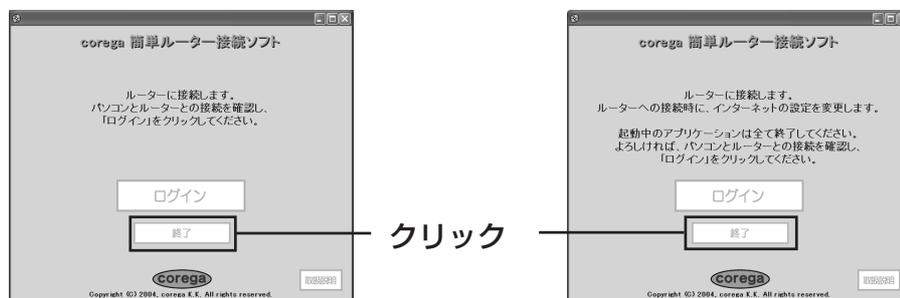
本製品の設定変更を行うためのパソコンを接続します。

- 1 本製品のLANポートと設定を行うパソコンのLANポートを同梱のLANケーブル（ストレートタイプ）で接続し、本製品のACアダプタを電源コンセントに接続します。



設定変更前に、加入者網終端装置（CTU）と接続しないでください。

- 2 パソコンの電源を入れて、Windows が起動したら、CD-ROMドライブに添付の「簡単ルーター設定ソフト」（CD-ROM）を挿入します。
「簡単ルーター設定ソフト」が、パソコンのネットワーク設定とWebブラウザ（Internet Explorer）の設定を自動的に行います。
- 3 下記のどちらかのログイン画面が表示されたら、[終了] をクリックします。



下の画面が表示されたときは、① [設定を保存する] をクリックして、ネットワークの現在の設定をテキスト形式で保存してから、② [設定開始] をクリックしてください。



※「簡単ルーター接続ソフト」がうまく動作しない場合は、手動でパソコンのネットワーク設定を「IPアドレスを自動的に取得する」にしてください。手動での設定方法は「簡単ルーター接続ソフト」に収録されています。画面内の[取扱説明]をクリックして、「手動セットアップ」をご覧ください。

設定が完了すると、再起動を促す画面が表示されますので再起動をします。

■ Step2 本製品の設定を変更する

設定ユーティリティを使用して、本製品のIPアドレスの変更と、動作モードの変更を行います。

- 1 Web ブラウザを起動し、アドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードの [Enter] キーを押します。



「192.168.1.1」を入力し、[Enter] キーを押します

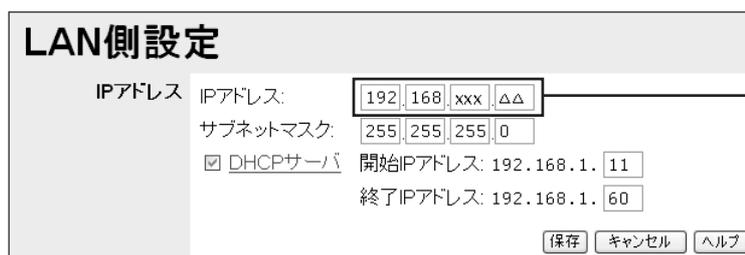
- 2 ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力して、[OK] をクリックします。



工場出荷時の状態では、ユーザー名は「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。

設定ユーティリティが起動します。

- 3 設定ユーティリティの左側のメニューから [LAN 側設定] をクリックします。
- 4 「IP アドレス」を「192.168.XXX.△△」に変更します。

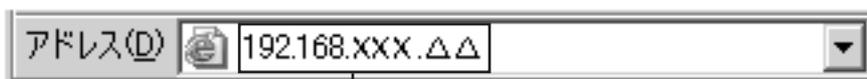


「192.168.xxx.△△」に変更します



IP アドレスのXXX部分は、加入者網終端装置のIPアドレスをご覧になり、同じ数字を入れてください。
△△部は、他の機器と重複しない値を設定してください。

- 5 [保存] をクリックして、設定を反映させます。
- 6 Webブラウザのアドレス入力欄に「192.168.XXX.△△」と入力し、キーボードの [Enter] キーを押します。

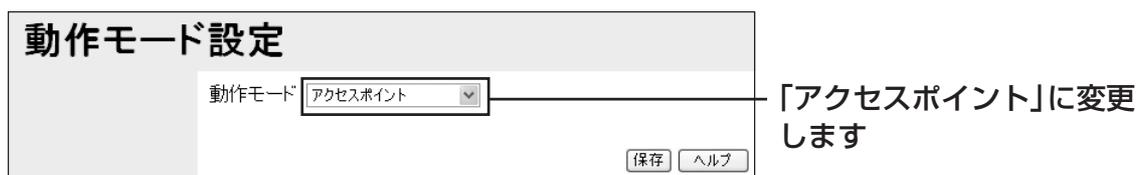


「192.168.xxx.△△」を入力し、[Enter] キーを押します



手順4で設定したIPアドレスを入力します。

- 7 設定ユーティリティの左側のメニューから [動作モード設定] をクリックします。
- 8 「動作モード」を「アクセスポイント」に変更します。



- 9 [保存] をクリックして、設定を反映させます。



動作モードを「アクセスポイント」にすると、本製品の DHCP サーバ機能がオフになり、設定用パソコンとのネットワーク接続ができなくなります。この状態でもう一度、設定ユーティリティを起動するときは、設定用パソコンの IP アドレスを「192.168.1.10」などの同一サブネット内に手動設定してください。

- 10 設定ユーティリティの左側のメニューから [トップページ] をクリックします。
- 11 画面右下の [ログアウト] をクリックして、設定ユーティリティおよび Web ブラウザを終了します。



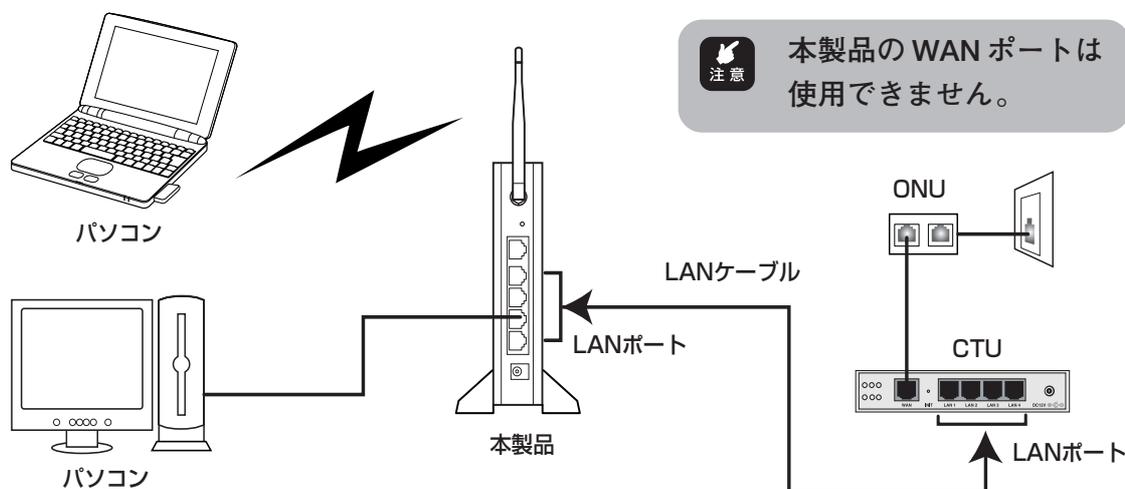
Web ブラウザの (閉じるボタン) で終了しないでください。必ず、[ログアウト] をクリックして終了してください。

Step3 加入者網終端装置(CTU)と接続する

加入者網終端装置 (CTU) の LAN ポートと本製品の LAN ポートを同梱の LAN ケーブル (ストレートタイプ) で接続します。



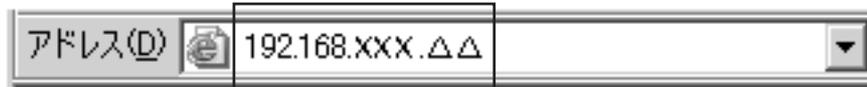
本製品と加入者網終端装置 (CTU) を接続する場合は、本製品やパソコン、加入者網終端装置 (CTU) の電源を切った状態で行ってください。接続が終わったら、本製品、加入者網終端装置 (CTU)、パソコンの順に電源を入れます。



以上で、本製品を 10/100BASE-TX のスイッチングハブおよび無線 LAN アクセスポイントとしてご利用いただけます。

■ 加入者網終端装置(CTU)と接続後に設定ユーティリティを使うには

- 1 設定に使用するパソコンを本製品の LAN ポートに接続して、Web ブラウザを起動します。
- 2 Web ブラウザのアドレス入力欄に「192.168.XXX.△△」と入力し、キーボードの [Enter] キーを押します。



本製品の IP アドレスを入力します



Step2 の手順 4 で設定した IP アドレスを入力します。

- 3 ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されたら、本製品のユーザー名とパスワード (P.103) を入力して、[OK] をクリックします。



工場出荷時の状態では、ユーザー名は「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。

- 4 設定ユーティリティが起動します。



本製品の再起動を伴う設定変更後に通信が不可となった場合、本製品に接続しているサーバ、端末などの再起動または LAN ケーブルの抜き差しが必要となる場合があります。

本製品を使っていて「高度な機能を使いこなしたい」「設定ユーティリティの詳細な情報が知りたい」と思ったときは、このPARTで項目を探してください。

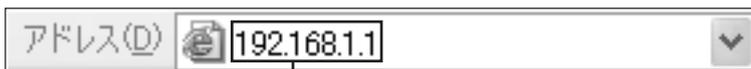


ウィルス対策ソフトなどをご使用の場合、本製品の設定ユーティリティが正常に動作しない場合があります。正常に動作しない場合は、ウィルス対策ソフトの取扱説明書をご覧ください。ウィルス対策ソフトの設定を変更してください。

設定ユーティリティの起動、終了のしかた

■ 起動のしかた

- 1 本製品に接続したパソコンで、Internet Explorer を起動します。
- 2 Webブラウザのアドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。



入力します。



フレッツ・光プレミアムでご利用になる場合は、「LAN側設定」の「IPアドレス」(P.54)で設定したアドレスを入力します。

- 3 ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザー名の欄に「root」と入力し、[OK] をクリックします。



①この欄に「root」と入力します

②[OK] をクリックします

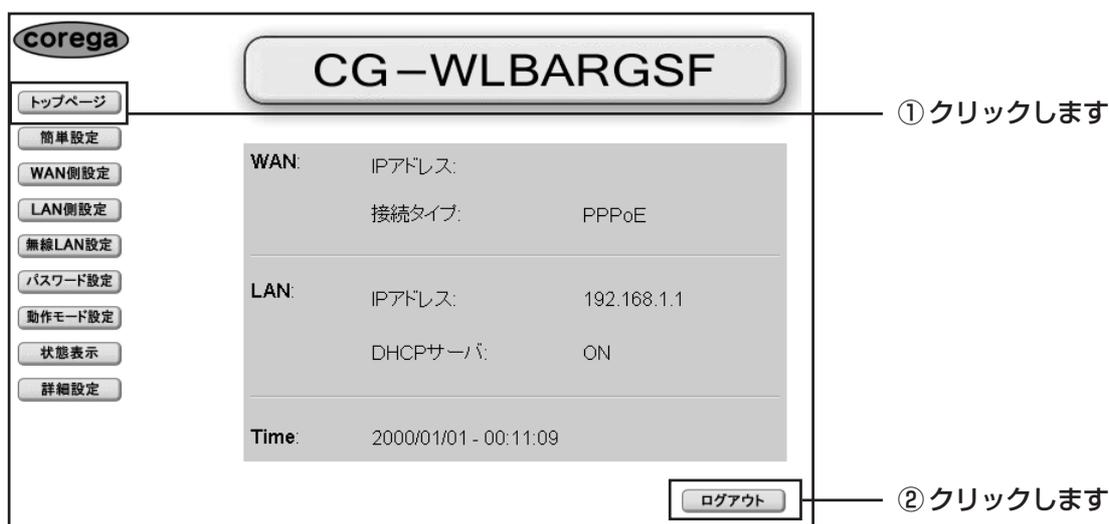


- ・工場出荷時の状態では、ユーザー名は「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。
- ・ユーザー名、パスワードは、セキュリティを高めるために変更することをお勧めします。詳しくは「本製品のログイン名（ユーザー名）、パスワードを変更したい」(P.103)をご覧ください。

- 4 設定ユーティリティが起動します。

■終了のしかた

- 1 左側のメニューから [トップページ] をクリックします。
- 2 画面右下の [ログアウト] をクリックします。
- 3 確認ダイアログが表示されたら [OK] をクリックして、設定ユーティリティおよびInternet Explorer を終了します。



設定ユーティリティの全体構成について

トップページ	WAN側、LAN側の現在の設定を表示する。 設定ユーティリティを終了する。	P.37	
簡単設定	まずインターネットに接続する。	P.38	
WAN側設定	インターネット(WAN)側の設定をする。	P.38	
LAN側設定	パソコン(LAN)側の設定をする。	P.54	
無線LAN設定	無線LANの設定をする。	P.56	
パスワード設定	本製品の設定変更を制限する。	P.62	
動作モード設定	ルータ機能を設定する。	P.62	
状態表示	現在の接続状態を表示する	P.63	
詳細設定	アドバンスドインターネット	ネットワークアプリケーションを利用できるようにする。	P.70
	スペシャルアプリケーション	アプリケーションを登録して利用できるようにする。	P.71
	バーチャルサーバ	インターネット上にサーバを公開する。	P.72
	ダイナミックDNS	バーチャルサーバにURLで アクセスできるようにする。	P.74
	アクセス制限	パソコンのアクセスを制限する。	P.75
	セキュリティ	外部からの不正なアクセスを防ぐ。	P.79
	PCデータベース	接続しているパソコンを表示する。	P.81
	ルーティング	ルーティングテーブルを設定する。	P.84
	リモート設定	インターネット上から本製品の設定をできるようにする。	P.85
	その他各種設定	本製品のその他の設定をする。	P.86

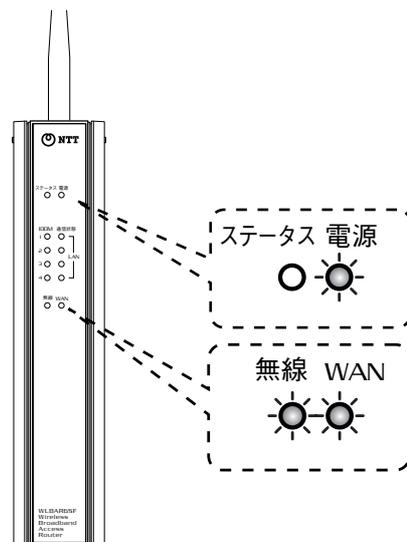
【保存】、【追加】、【削除】、【更新】をクリックしたときは

各設定画面で設定を終えた後、【保存】、【追加】、【削除】、【更新】をクリックすると、設定した内容を本製品に書き込み、本製品が再起動します。本体前面のステータス LED が消灯し、電源 LED と無線 LED、WAN LED が点灯するまでお待ちください。



- ・「無線 LAN」の設定が「無効」の場合は、無線 LED は点灯しません。
- ・100M LED と通信状態 LED の LED 表示は、システム構成により異なります。

各 LED の状態を確認してから、次の動作に移ってください。なお、各 LED が上記の状態になったあとも、画面が正常に表示されないときは、Web ブラウザのアドレス欄に「192.168.1.1」と入力して【Enter】キーを押してください。



設定画面の各機能



- ・設定内容について詳しくは、ヘルプを参照してください。
- ・入力可能な文字の「半角」とは、半角の英数字・記号『0～9、a～z、A～Z、半角スペース、!＂＃\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{|}~』を指します。

■ トップページ ～WAN側、LAN側の現在の設定を表示する/設定ユーティリティを終了する～

設定ユーティリティ起動時の画面です。WAN 側、LAN 側の現在の設定が表示されます。また、設定ユーティリティを終了するときは、必ず「トップページ」の画面に戻って画面右下の【ログアウト】をクリックしてください。



【ログアウト】… 設定ユーティリティを終了します。

■簡単設定 ～まずインターネットに接続する～

簡単にインターネット接続の設定を行います。設定の詳細については、「PART2 ネットワークに接続しよう」「簡単ルーター接続ソフト (CD-ROM) を使う」の「3. ルータの設定をする」(P.28) をご覧ください。すでに本製品の設定を行っている場合は、工場出荷時の状態に戻してください (P.108)。

■WAN側設定 ～インターネット(WAN)側の設定をする～

WAN側のIPアドレス、デフォルトゲートウェイアドレス、DNSサーバアドレス、PPPoEの設定などインターネットに接続するための基本となる設定を行います。ご契約されたプロバイダに合わせて設定してください。「簡単設定」で設定済みの場合は、その設定内容が表示されます。



通常は「簡単設定」から設定を行ってください。

- 1 メニューから [WAN側設定] をクリックします。

項目名	内容
①接続タイプ	WAN側への接続タイプを選択します。ご契約のプロバイダに合わせて接続タイプを選択してください。 <ul style="list-style-type: none">・ マルチ PPPoE : PPPoEセッションを同時に2つ使用する場合に選択します。・ PPPoE/Unnumbered IP : PPPoE接続、またはUnnumbered IP機能による PPPoE 接続を使用する場合に選択します。・ IP自動 (DHCP) / IP固定 : DHCPを利用する場合、または固定IPアドレスで接続する場合に選択します。

[次へ] …………… 選択した接続タイプの設定画面に移ります。

- 2 選択が終了したら、[次へ]をクリックします。

・マルチ PPPoE 接続の場合 (P.39)

PPPoEセッションを同時に二つ使用する場合です。



- ・本製品は、1つのブロードバンド回線で、通常インターネットに接続する PPPoE 接続 (セッション1) とは別に、特定の接続先に他の経路 (セッション2) で接続できます。これによりプロバイダと接続したまま、同時に PPPoE を利用したサービスを利用することができます。
- ・ PPPoE サービスを提供している回線が、Bフレッツ・ベーシックタイプなどのように、複数の接続に対応している必要があります。

・ PPPoE 接続の場合 (P.47)

PPPoEと呼ばれる接続手順を使ってインターネットに接続する場合は、B フレッツ、フレッツ・ADSLなどで接続する場合は、この接続タイプを選択します。

・ Unnumbered IP 機能による PPPoE 接続の場合 (P.48)

プロバイダから複数のWAN側のIPアドレス（グローバルIPアドレス）を取得し、PPPoE接続する場合は、



Unnumbered IP機能とは、プロバイダから取得した複数のWAN側のIPアドレス（グローバルIPアドレス）をパソコンに割り当てて使用することができる機能です。パソコンをインターネットに公開することにより、Webサーバやメールサーバ、DNSサーバなどを運用することができます。

・ DHCP を利用する場合 (P.52)

プロバイダからIPアドレスが特に指定されていない場合（Yahoo! BB、CATVなど）です。DHCP機能を利用して、IPアドレスが自動的に割り当てられます。

・ 固定 IP アドレスで接続する場合 (P.53)

プロバイダから固定IPアドレスを取得している場合は、

● マルチ PPPoE 接続の場合

- 1 メニューの [WAN 側設定] をクリックします。
- 2 「接続タイプ」で「マルチ PPPoE」を選択し、[次へ] をクリックします。

WAN側設定 - マルチPPPoE

使用するアカウントのセッションを選択してください。各アカウントの設定は「アカウント」ボタンをクリックしてください。

	アカウント1	アカウント2	アカウント3	アカウント4	アカウント5	アカウント未選択
セッション-1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
セッション-2	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>

①

②

③

※画面は、マルチPPPoE接続の場合の入力例です。

項目名	内容
①アカウント	PPPoE アカウントを登録します。本製品は5つのPPPoEアカウントを登録することができます。 ※同時に接続できるセッションは2つまでです。
②アカウント未選択	セッションを使用しません。選択したセッションは、PPPoE接続しません。
③セッション	接続するセッションごとに使用するアカウントを選択します。セッション1およびセッション2は同時に複数のアカウントを選択することはできません。

- [戻る] …………… 「接続タイプ」選択画面に戻ります。
- [次へ] …………… 「アカウント」設定画面になります。
- [保存] …………… 設定した内容を保存します。
- [キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。
- [ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。

3 設定が終了したら [保存] をクリックします。

4 [次へ] または、[アカウント 1] ~ [アカウント 5] をクリックします。



- PPPoE サービスを提供している回線が、Bフレッツ・ベーシックタイプなどのように、複数の接続に対応している必要があります。
- 利用するために契約や登録が必要なサービスがあります。事前にそれらを完了しておいてください。
- セッション 2 の接続では登録済アプリケーション (P.70)、スペシャルアプリケーション (P.71) のご利用はできません。その他マルチ PPPoE 機能利用時の制限事項については、この PART の「PPPoE 機能でのご利用制限」(P.51) をご覧ください。

5 アカウントの設定を行います。

WAN側設定 - マルチPPPoE

アカウント PPPoE設定: アカウント2

セッション	セッション選択: セッション2 <small>使用するセッションを選択してください。</small>	①
アカウント	PPPoE接続名: アカウント2	②
	ユーザー名: guest@flets	③
	パスワード: ●●●●●●	④
オプション	接続方法: 常時接続	⑤
	無通信タイム: 0 分	⑥
LAN TYPE	<input checked="" type="checkbox"/> 有効 IPアドレス: [][][][][]	⑦
	サブネットマスク: [][][][][]	⑧
BIG UDP	<input checked="" type="checkbox"/> 有効 パケットサイズ: 3000 (3000 - 30000)	⑨
DNS	<input type="radio"/> 自動取得	⑩
	<input checked="" type="radio"/> マニュアル設定 優先DNSサーバ: [][][][][] 代替DNSサーバ: [][][][][]	⑪
接続先設定	<input checked="" type="checkbox"/> 有効 (セッション2のみ) <input type="checkbox"/> NetBios有効 [IPアドレス追加] [ドメイン追加] [ポート追加]	⑫

接続先設定にて設定データを「登録」した場合には、後は必ず「保存」ボタンを押してください。

※画面は、[アカウント2]をクリックした場合の入力例です。



詳しい設定方法については、PART4の「マルチ PPPoE で2つの接続先を使い分けるには」(P.93) をご覧ください。

項目名	内容
① PPPoE 設定	PPPoE アカウントを選択することができます。「PPPoE 設定」アカウントリストから設定内容を変更したいアカウントを選択し、②～⑩の設定を行います。
②セッション選択	①の「PPPoE 設定」で選択したアカウントで使用するセッションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定なし：選択したアカウントで PPPoE 接続しない場合を選択します。 ・ セッション 1：通常インターネットを利用するためのプロバイダの設定をするときを選択します。 ・ セッション 2：インターネット接続をしたまま、PPPoE を利用したサービスを使用する場合を選択します。⑩の「IP アドレス追加」、「ドメイン追加」、「ポート追加」のいずれかをクリックして、接続先を指定します。
③ PPPoE 接続名	①の「PPPoE 設定」を任意の名前で登録できます。「PPPoE 設定」アカウントリストから未設定のアカウントを選択した場合、選択したアカウント（アカウント 1～5）が自動的に表示されます。 ※入力可能な文字は、半角で 19 文字（全角で 9 文字）までです。
④ユーザー名	プロバイダより指定されたユーザー名（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。B フレッツやフレッツ・ADSL の場合、「@」から後ろもすべて入力します。 ※入力可能な文字は、半角で 60 文字までです。
⑤パスワード	プロバイダより指定されたパスワード（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。パスワードは画面上では「*」や「●」で表示されます。 ※入力可能な文字は、半角で 25 文字までです。
⑥接続方法	インターネットへの接続方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 常時接続：常に PPPoE 接続した状態になります。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ・ トリガー接続：パソコンからインターネットへの接続要求があったときに、自動的に PPPoE 接続を開始します。 ・ 手動接続：「状態表示」から「詳細」をクリックして表示される「詳細情報 - PPPoE」画面で「接続」をクリックすることで PPPoE 接続を開始します。
⑦無通信タイマ	⑥の「接続方法」で「トリガー接続」や「手動接続」を選択した場合、PPPoE 接続で無通信状態になってから自動的に PPPoE 接続を切断するまでの時間を設定します。0～60 分の間で設定してください。 ※入力可能な文字は、半角数字の 0～9 です。 ※0 分を設定すると自動では切断しません。「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は、「0」分になります。

項目名	内 容
⑧ LAN TYPE	<p>②の「セッション選択」でセッション2を選択し、NTT東日本が提供するフレッツ・グループアクセス、またはNTT西日本が提供するフレッツ・グループのLAN型払い出しを使用する場合にチェックを付けます。</p> <p>IPアドレス 「有効」にチェックを付けたときに設定します。セッション2で接続したネットワークのグループ管理者より割り当てられたIPアドレスを入力します。 ※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。</p> <p>サブネットマスク 「有効」にチェックを付けたときに設定します。セッション2で接続したネットワークのグループ管理者より割り当てられたサブネットマスクを入力します。 ※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。</p>
⑨ BIG UDP	<p>「有効」にチェックを付けると、3000バイトを超えるパケットサイズでのデータ通信ができます。3000バイトを超えるパケットサイズで通信を行うインターネットサービスをご利用になる場合、インターネットサービスに合わせて設定してください。</p> <p>パケットサイズ パケットサイズの最大値を3000～30000バイトまで変更できます。 ※通常は、設定を変更する必要はありません。 ※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。</p>
⑩ DNS	<p>自動取得 プロバイダからDNSサーバを自動設定するような指示があった場合に有効にします。特に指定されていない場合は、「自動取得」を選択します。</p> <p>マニュアル設定 プロバイダからDNSサーバのIPアドレスを指定された場合に有効にします。「マニュアル設定」を有効にすると「優先DNSサーバ」と「代替DNSサーバ」の各入力欄が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 優先DNSサーバ：プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバのIPアドレスを入力します。 ※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。 ・ 代替DNSサーバ：プロバイダから指定されたセカンダリDNSサーバのIPアドレスを入力します。 ※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。 <p>※指定されたDNSサーバが1つの場合、優先DNSサーバにアドレスを入力してください。3つ以上のDNSサーバアドレスを設定する場合は、3つ目以降を「詳細設定」－「その他各種設定」の「バックアップDNSサーバ」に入力してください。</p>

項目名	内容
①接続先設定	<p>セッション2を利用して通信する特定の接続先を指定する場合は、「有効」にチェックを付けます。[IPアドレス追加]、[ドメイン追加]、[ポート追加] をクリックして表示される、それぞれの「接続先設定」画面で接続先を登録します。詳しくはP.44をご覧ください。</p> <p>※②の「セッション選択」でセッション2を選択したときのみ「有効」になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [IPアドレス追加]：特定の接続先をIPアドレスで指定する場合にクリックします。 ・ [ドメイン追加]：特定の接続先をドメイン名で指定する場合にクリックします。 ・ [ポート追加]：接続するポートを指定する場合にクリックします。 ・ [NetBios有効]：フレッツ・グループアクセス (NTT東日本) / フレッツ・グループ (NTT西日本) を利用し、Windowsでファイルを共有する場合にチェックを付けます。 <p>※NetBios 関連のポート (135、137、138、139、445、3389) が有効になります。</p> <p>※NetBios 関連のポート番号を変更することはできません。</p>

[戻る] …………… 「セッション」選択画面に戻ります。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。

[キャンセル] …… 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。

[ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。



セッションやアカウントの設定は、最後に保存した設定が有効になります。

6 設定が終了したら [保存] をクリックします。

7 [戻る] をクリックし、「セッション」 選択画面に戻ります。

■ 「WAN 側設定・マルチ PPPoE」 ①「接続先設定」画面について

セッション2 を利用して通信する場合の接続先を設定します。

・接続先を IP アドレスで指定する場合

1 「WAN 側設定・マルチ PPPoE」 の「接続先設定」で [IP アドレス追加] をクリックします。

※画面は、「セッション2」で利用する接続先をIPアドレスで指定する場合の入力例です。

項目名	内容
① IP アドレス	セッション2 で通信する接続先を IP アドレスの範囲で指定します。 ※入力可能な文字は、半角数字の 0～9 です。 セッション2 で通信する接続先の IP アドレスの範囲を入力して、[追加] をクリックします。単独で IP アドレスを設定する場合は、終了アドレスに「0」を入力してください。②の「ネットワーク」と合わせて最大20個まで登録できます。登録した接続先を有効にするには、リストに表示されている IP アドレスをクリックし、反転表示させてから、[登録] をクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー＋クリックで複数選択が可能です。
② ネットワーク	セッション2 で通信する接続先を、ネットマスクの範囲で指定します。 ※入力可能な文字は、半角数字の 0～9 です。 セッション2 で通信する接続先のネットワークアドレスとサブネットマスクのビット数を入力して、[追加] をクリックします。①の「IP アドレス」と合わせて最大20個まで登録できます。登録した接続先を有効にするには、リスト表示されているネットマスク範囲をクリックし、反転表示させてから、[登録] をクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー＋クリックで複数選択が可能です。

- [追加] …………… 入力したIPアドレスまたは、ネットワークをリストに追加します。
- [全て選択] …… リストに表示されている接続先を全て選択します。
- [選択取消し] … 選択状態を解除し、何も選択していない状態にします。
- [削除] …………… リストで選択している接続先を削除します。
- [全て削除] …… リストに表示されている接続先を全て削除します。
- [登録] …………… 設定した内容を登録します。
- [ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。
- [閉じる] …………… 「接続先設定」画面を閉じます。

2 設定が終了したら [登録] をクリックします。

3 [閉じる] をクリックし、「WAN 側設定 - マルチ PPPoE」画面に戻ります。

4 「WAN 側設定 - マルチ PPPoE」で [保存] をクリックし、設定を保存します。

・接続先をドメイン名で指定する場合

- 1 「WAN 側設定・マルチ PPPoE」の「接続先設定」で「ドメイン追加」をクリックします。

※画面は、「セッション2」で利用する接続先をドメイン名で指定する場合の入力例です。

項目名	内容
①ドメイン名	セッション2で通信する接続先のドメイン名を入力し、[追加] をクリックしてリストに登録します。 ※入力可能な文字は、半角で127文字（全角で63文字）までです。最大20個まで登録できます。登録した接続先を有効にするには、リストに表示されているドメイン名をクリックし、反転表示させてから、[登録] をクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー＋クリックで複数選択が可能です。

- [追加] …… 入力したドメイン名をリストに追加します。
- [全て選択] …… リストに表示されているドメイン名を全て選択します。
- [選択取消し] …… 選択状態を解除し、何も選択していない状態にします。
- [削除] …… リストで選択しているドメイン名を削除します。
- [全て削除] …… リストに表示されているドメイン名を全て削除します。
- [登録] …… 設定した内容を登録します。
- [ヘルプ] …… 設定内容についての説明を表示します。
- [閉じる] …… 「接続先設定」画面を閉じます。



- ・「.jp」のみ登録した場合は、「.jp」を含むすべてのドメインを登録したことになります。

(例) www.abcd.co.jp
www.abcd-jp.com

最後に「/」を入力すると文字列の終わりを示します。「.jp/」と登録すると、「www.abcd-jp.com」は該当しません。

- ・階層で接続先を登録する場合は以下のように登録してください。
 - ・.jp/ …… 「.jp」が最後に付くすべてのドメインが登録されます。
 - ・.co.jp/ …… 「.co.jp」が最後に付くすべてのドメインが登録されます。
 - ・.xxxx.co.jp/ …… 「.xxxx.co.jp」が最後に付くすべてのドメインが登録されます。
- ・フレッツ・スクウェアを接続先に登録する場合は「.flets/」を登録してください。

- 2 設定が終了したら [登録] をクリックします。
- 3 [閉じる] をクリックし、「WAN 側設定 - マルチ PPPoE」画面に戻ります。
- 4 「WAN 側設定 - マルチ PPPoE」で [保存] をクリックし、設定を保存します。

・接続するポートで指定する場合

- 1 「WAN 側設定・マルチ PPPoE」の「接続先設定」で「ポート追加」をクリックします。

※画面は、「セッション2」で利用する接続先をポート番号で指定する場合の入力例です。

項目名	内容
①ポート	<p>接続するポート番号（[開始ポート]－[終了ポート]）を入力し、[追加] をクリックしてリストに登録します。</p> <p>※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。</p> <p>最大20個まで登録できます。単独でポート番号を設定する場合は、開始ポート、終了ポート間に同じ数字を入力します。（例：35-35）登録した接続先を有効にするには、リストに表示されているポート番号をクリックし、反転表示させてから、[登録] をクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー＋クリックで複数選択が可能です。</p>

- [追加] …………… 入力したポートをリストに追加します。
- [全て選択] …… リストに表示されているポートを全て選択します。
- [選択取消し] … 選択状態を解除し、何も選択していない状態にします。
- [削除] …………… リストで選択しているポートを削除します。
- [全て削除] …… リストに表示されているポートを全て削除します。
- [登録] …………… 設定した内容を登録します。
- [ヘルプ] ……… 設定内容についての説明を表示します。
- [閉じる] ……… 「接続先設定」画面を閉じます。

- 2 設定が終了したら [登録] をクリックします。
- 3 [閉じる] をクリックし、「WAN 側設定 - マルチ PPPoE」画面に戻ります。
- 4 「WAN 側設定 - マルチ PPPoE」で [保存] をクリックし、設定を保存します。



フレッツ・グループアクセス（NTT 東日本）/フレッツ・グループ（NTT 西日本）のサービスを使用する場合、NetBios 関連のポート（135、137、138、139、445、3389）は、「NetBios 有効」（P.43 の①）にチェックを付けることで、設定できます。なお、これらのポート番号は、手動設定できません。手動で設定を行った場合や、正しく設定されていない場合には、いったん削除してから、「NetBios 有効」にチェックを付けて保存してください。

● PPPoE 接続の場合

- 1 メニューから [WAN 側設定] をクリックします。
- 2 「接続タイプ」で「PPPoE/Unnumbered IP」を選択し、[次へ] をクリックします。

WAN側設定 - PPPoE/Unnumbered IP

アカウント	PPPoE接続名: <input style="width: 100%;" type="text"/>	①
	ユーザー名: <input style="width: 100%;" type="text"/>	②
	パスワード: <input style="width: 100%;" type="password"/>	③
オプション	接続方法: 常時接続	④
	無通信タイム: <input style="width: 50px;" type="text"/> 分	⑤
IPアドレス	<input checked="" type="radio"/> 通常接続 <input type="radio"/> Unnumbered IP	⑥
DNS	<input checked="" type="radio"/> 自動取得 <input type="radio"/> 優先DNSサーバ: <input style="width: 20px;" type="text"/> . <input style="width: 20px;" type="text"/> . <input style="width: 20px;" type="text"/> . <input style="width: 20px;" type="text"/>	⑦

※画面は、PPPoE接続の場合の入力例です。

項目名	内容
① PPPoE 接続名	「PPPoE 設定」で表示される名称を登録することができます。入力可能な文字は、半角で 19 文字（全角で 9 文字）までです。
②ユーザー名	プロバイダより指定されたユーザー名（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。B フレッツやフレッツ・ADSL の場合、“@” から後ろもすべて入力します。 ※入力可能な文字は、半角で 60 文字までです。
③パスワード	プロバイダより指定されたパスワード（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。パスワードは画面上では「*」や「●」で表示されます。 ※入力可能な文字は、半角で 25 文字までです。
④接続方法	インターネットへの接続方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 常時接続：常にインターネットに接続します。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ・ トリガー接続：パソコンからインターネットへの接続要求があった場合に、自動的に PPPoE 接続を開始します。 ・ 手動接続：[状態表示] から [詳細] をクリックして表示される「詳細情報 - PPPoE」画面で [接続] をクリックすることで、PPPoE 接続を開始します。
⑤無通信タイム	④の「接続方法」で「トリガー接続」や「手動接続」を選択した場合、PPPoE接続で無通信状態になってから自動的にPPPoE 接続を切断するまでの時間を設定します。0～60分の間で指定してください。 ※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。 ※0分を設定すると自動では切断しません。「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は、「0」分になります。
⑥ IP アドレス	通常接続 通常の PPPoE 接続を行う場合に選択します。 ※ PPPoE 接続の場合、「Unnumbered IP」は選択しません。

項目名	内容
⑦ DNS	<p>自動取得 プロバイダよりDNSサーバを自動設定するような指示があった場合、または特に指示がなかった場合に選択します。 ※工場出荷時に選択されています。</p> <p>優先 DNS サーバ プロバイダから DNS サーバの IP アドレスを指示された場合に選択し、指定された IP アドレスを入力します。 ※入力可能な文字は、半角数字の 0～9 です。</p>

[戻る] …………… 「WAN側設定」画面に戻ります。
 [保存] …………… 設定した内容を保存します。
 [キャンセル] …… 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。
 [ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。

3 設定が終了したら [保存] をクリックします。

● Unnumbered IP 機能による PPPoE 接続の場合

- 1 メニューから [WAN 側設定] をクリックします。
- 2 「接続タイプ」で「PPPoE/Unnumbered IP」を選択し、[次へ] をクリックします。

※画面は、Unnumbered IP機能によるPPPoE接続の場合の入力例です。

項目名	内容
① PPPoE 接続名	「PPPoE 設定」で表示される名称を登録することができます。入力可能な文字は、半角で 19 文字（全角で 9 文字）までです。
② ユーザー名	プロバイダより指定されたユーザー名（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。「B フレッツ」や「フレッツ・ADSL」などの場合、“@” から後ろもすべて入力します。 ※入力可能な文字は、半角で 60 文字までです。

項目名	内容
③パスワード	<p>プロバイダより指定されたパスワード（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。パスワードは画面上では「*」や「●」で表示されます。</p> <p>※ 入力可能な文字は、半角で 25 文字までです。</p>
④接続方法	<p>インターネットへの接続方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常時接続：常にインターネットに接続します。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ・ トリガー接続：パソコンからインターネットへの接続要求があった場合に、自動的に PPPoE 接続を開始します。 ・ 手動接続：[状態表示] から [詳細] をクリックして表示される「詳細情報 - PPPoE」画面で [接続] をクリックすることで、PPPoE 接続を開始します。
⑤無通信タイム	<p>④の「接続方法」で「トリガー接続」を選択した場合、PPPoE 接続で無通信状態になってから自動的に PPPoE 接続を切断するまでの時間を設定します。0～60 分の間で指定してください。</p> <p>※ 入力可能な文字は、半角数字の 0～9 です。</p> <p>※ 0 分を設定すると自動では切断しません。「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は、「0」分になります。</p>
⑥ IP アドレス	<p>Unnumbered IP</p> <p>プロバイダから複数の WAN 側の IP アドレスを取得し、Unnumbered で PPPoE 接続する場合に選択します。</p> <p>※ Unnumbered IP 機能による PPPoE 接続の場合、「通常接続」は選択しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IP アドレス：プロバイダから指定された IP アドレスを入力します。 ※ 入力可能な文字は、半角数字の 0～9 です。 ・ サブネットマスク：プロバイダから指定されたサブネットマスクのアドレスを入力します。 ※ 入力可能な文字は、半角数字の 0～9 です。 ・ タイプ：メニューから、使用するタイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Unnumbered IP：複数のグローバル IP を使用するサービスを利用する際に使用します。ルータ IP とサブネットマスクは、本製品の IP アドレスとして同じアドレスが WAN 側 / LAN 側に設定されます。 グローバル IP を LAN 側（パソコン側）で使用するときには LAN 側でグローバル IP を固定で設定してください。 ・ Unnumbered IP + Private IP：複数のグローバル IP とプライベート IP を同時に使用することができます。Unnumbered IP 設定に対してルータ IP を設定することで本製品のグローバル IP を使って IP マスカレード機能を使用することができます。グローバル IP を LAN 側で使用する場合は、パソコン側でグローバル IP を固定で設定してください。
⑦ DNS	<p>自動取得</p> <p>プロバイダより DNS サーバを自動設定する指示があった場合、または特に指示がなかった場合に選択します。</p> <p>優先 DNS サーバ</p> <p>プロバイダから DNS サーバの IP アドレスを指示された場合に選択し、指定された IP アドレスを入力します。</p> <p>※ 入力可能な文字は、半角数字の 0～9 です。</p>

[戻る] …………… 「WAN側設定」画面に戻ります。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。

[キャンセル] …… 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。

[ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。



⑥の「IPアドレス」で「Unnumbered IP」を選択すると、WAN側とLAN側のIPが同じIPアドレスになるので、設定ユーティリティを開くためのIPアドレスが、⑥の「IPアドレス」で設定したIPアドレスに変更されます。

3 設定が終了したら [保存] をクリックします。



Unnumbered IPによる接続を行うと、リモート設定を利用しなくても、WAN側より本製品を設定することができます。セキュリティ上、パスワードの設定 (P.103) およびリモート設定 (P.85) で「リモート設定を使用する」にチェックを付けて、ポート番号の変更を行ってください。

・ PPPoE 機能でのご利用制限

○：利用可 ×：利用不可

	マルチPPPoE		PPPoE/Unnumbered IP
	セッション1	セッション2	
WAN側設定			
Unnumbered	×	×	○
Unnumbered + Private	×	×	○
接続方法	○	○	○
無通信タイマ	○	○	○
接続先設定>IPアドレス	×	○	×
接続先設定>ドメイン	×	○	×
接続先設定>ポート	×	○	×
接続先設定 (NetBIOS有効) ※1	×	○	×
フレッツ・グループアクセス/フレッツ・グループ			
端末型払い出し	×	○※6	×
LAN型払い出し (LAN TYPE)	×	○	×
状態表示			
ログ機能	○	○	○
E-Mail機能	○	○	○
Messenger系			
Windows® Messenger※2	○	×	○
MSN® Messenger※3	○	×	○
アドバンスドインターネット			
登録済アプリケーション	○	×	○
スペシャルアプリケーション	○	×	○
DMZ	○	○	○
バーチャルサーバ			
バーチャルサーバ	○	○	○
ダイナミックDNS			
ダイナミックDNS	○	○	○
アクセス制限			
アクセス制限	○	○	○
スケジュール設定	○	○	○
セキュリティ			
DoS	○	○	○
URLフィルタ	○	○	○
ICMP	○	○	○
IPsecパススルー※4	○	○	○
PPTPパススルー	○	○	○
L2TPパススルー	○	○	○
ログ機能			
DoSアタック攻撃	○	○	○
インターネット接続	○	○	○
アクセス制限	○	○	○
PCデータベース			
PCデータベース	○	○	○
ルーティング			
RIP	○	○	○
スタティックルーティング	○	○	○
リモート設定			
リモート接続	○	○	○
その他の機能			
UPnP※5	○※7	○※7	○
MTU手動設定	○	○	○

※1：フレッツ・グループ/フレッツ・グループアクセスを利用し、Windows でファイル共有をする場合にチェックを付けます。

※2：Windows Messenger 5.0 で動作確認しています。

※3：MSN Messenger 7.0 で動作確認しています。

※4：IPsecは、IP エンドポイントを指定する通信のみ可能です。

※5：ただし、WAN 側切断処理 (WANの切断機能を有効にする) は、Windows XPがゲートウェイアイコンを一つしか持たないためセッション1のみ有効です。

※6：DMZの設定が必要です。

※7：UPnPはセッション1、2のいずれかの排他利用になります。同時に使用できるパソコンは1台のみです。

● DHCP を利用する場合

- 1 メニューから [WAN 側設定] をクリックします。
- 2 「接続タイプ」で「IP 自動 (DHCP) / IP 固定」を選択し、[次へ] をクリックします。

※画面は、DHCPを利用する場合の入力例です。

項目名	内容
①ホスト名	プロバイダからホスト名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に、入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は半角で19文字（全角で9文字）までです。
②ドメイン名	プロバイダからドメイン名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は半角で50文字（全角で25文字）までです。
③IPアドレス	IPアドレス自動取得 (DHCP) DHCP機能を利用してIPアドレスを自動的に取得する場合に選択します。 ※「固定IPアドレス」は、DHCPを利用するときは選択しません。
④DNS	自動取得 プロバイダよりDNSサーバを自動設定するような指示があった場合、または特に指示がなかった場合に選択します。 優先DNSサーバ プロバイダからDNSサーバのIPアドレスを指示された場合に選択し、指定されたIPアドレスを入力します。 ※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。

[戻る] …………… [WAN側設定]画面に戻ります。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。

[キャンセル] …… 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。

[ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。

- 3 設定が終了したら [保存] をクリックします。

●固定 IP アドレスで接続する場合

- 1 メニューから [WAN 側設定] をクリックします。
- 2 「接続タイプ」で「IP 自動 (DHCP) / IP 固定」を選択し、[次へ] をクリックします。

※画面は、固定IPアドレスで接続する場合の入力例です。

項目名	内容
①ホスト名	プロバイダからホスト名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に、入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は半角で19文字（全角で9文字）までです。
②ドメイン名	プロバイダからドメイン名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は半角で50文字（全角で25文字）までです。
③IPアドレス	固定IPアドレス プロバイダから固定IPアドレスを割り当てられている場合（固定IPサービス等）に選択します。 ・ IPアドレス ：プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。 ・ サブネットマスク ：プロバイダから指定されたサブネットマスクのアドレスを入力します。 ・ ゲートウェイ ：プロバイダから指定されたゲートウェイのアドレスを入力します。 ※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。 ※「IPアドレス自動取得（DHCP）」は、固定IPアドレスを利用するときは選択しません。
④DNS	優先DNSサーバ プロバイダからDNSサーバのIPアドレスを指示された場合に選択し、指定されたIPアドレスを入力します。 ※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。 ※「自動取得」は選択できません。

[戻る] …………… 「WAN側設定」画面に戻ります。
 [保存] …………… 設定した内容を保存します。
 [キャンセル] …… 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。
 [ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。

3 設定が終了したら [保存] をクリックします。

■LAN側設定 ～パソコン(LAN)側の設定をする～

本製品のパソコン (LAN) 側の設定を表示します。

1 メニューから [LAN 側設定] をクリックします。

※画面は、動作モード (P.62)を「ルータ/アクセスポイント」に設定した場合の画面例です。

※画面は、動作モード (P.62)を「アクセスポイント」に設定した場合の画面例です。

項目名	内容
① IP アドレス	本製品のパソコン (LAN) 側に設定するIPアドレスを入力します。
②サブネットマスク	本製品のパソコン (LAN) 側に設定するサブネットマスクを入力します。
③開始 IP アドレス	DHCPサーバで本製品に接続するパソコンに自動的に割り当てるIPアドレスの開始アドレスを入力します。
④終了 IP アドレス	DHCPサーバで本製品に接続するパソコンに自動的に割り当てるIPアドレスの終了アドレスを入力します。
⑤ DHCP サーバ	チェックを付けると本製品のDHCPサーバ機能が有効になります。
⑥ゲートウェイ	ゲートウェイのアドレスを入力します。
⑦ DNS サーバ	DNS サーバのアドレスを入力します。

※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。



「動作モード」(P.62) をアクセスポイントモードに設定してから、「LAN 側設定」を変更する場合、⑥の「ゲートウェイ」と⑦の「DNS サーバ」の項目をご使用のネットワーク環境に合わせて必ず入力してください。ご使用のネットワーク環境にルータなどが存在しない場合は、本製品の IP アドレスを入力してください。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。

[キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。

[ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。

2 設定が終了したら [保存] をクリックします。



- [保存] をクリックすると、本製品に設定が反映されます。本製品の DHCP サーバ機能を利用している場合は、一度ユーティリティ画面を閉じ、パソコンを再起動させてください。パソコンの IP アドレスは、本製品の設定変更後の LAN の設定に合わせて、改めて割り当てられます。
- 本製品で設定できるのはクラス C のみです。

■ 無線LAN設定 ～無線LANの設定をする～

本製品に接続する無線LANのESSIDやチャンネルを設定し、さらにセキュリティやアクセス制限などの詳細な設定を行います。

1 メニューから[無線LAN設定]をクリックします。

※画面は、セキュリティ設定が「OFF」の場合の入力例です。

項目名	内容
①無線LAN	チェックを付けると、無線LANが無効になります。
②ESSID	無線LANに接続する機器を識別する名前です。接続するすべてのパソコン（無線LANアダプタ）に同じ名前を設定してください。 ※入力できる文字は、半角で32文字までです。
③チャンネル	使用する電波の周波数（無線チャンネル）の中から選択します。周辺の電波と混信するような場合に変更してみてください。
④802.11モード	通信モードを「Auto」、「802.11b」、「802.11g」から選択できます。 「Auto」に設定すると802.11b、802.11gを自動判定します。
⑤転送レート	パソコン（無線LANアダプタ）と本製品が通信するときの本製品の転送速度を変更することができます。
⑥セキュリティ	現在の暗号方式などが表示されています。変更するときは、[セキュリティ]をクリックします（P.57）。
⑦ステルスAP	「有効」にチェックを付けると、無線LANアダプタを持つパソコンから本製品のESSIDを検索されないようにできます。またESSIDを「ANY」や空白にしているパソコン（無線LANアダプタ）からのアクセスを拒否することができます。

項目名	内容
⑧ LAN アクセス制限	無線LANでネットワークアクセスできるパソコンを指定します。 すべての無線クライアントの接続を許可 パソコンを制限しません。 選択した無線クライアントのみ接続を許可 [クライアントの選択] をクリックして、リストの中から無線LAN接続を許可するパソコンを設定します (P.60)。
⑨ インターネットアクセス制限	外部のインターネットにアクセスできるパソコンを指定します。 すべての無線クライアントの接続を許可 パソコンを制限しません。 選択した無線クライアントのみ接続を許可 [クライアントの選択] をクリックして、リストの中からインターネット接続を許可するパソコンを設定します (P.61)。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。

[キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。

[ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。

2 設定が終了したら [保存] をクリックします。

●セキュリティの設定



- 無線接続のパソコンからセキュリティ方式の変更をした場合、[保存] をクリックしたあとに、「ページを表示できません」と表示されます。これは、設定が本製品に反映された結果、クライアントとの暗号方式が異なり、通信できなくなるためです。クライアント側のセキュリティ方式をそろえることにより、無線LAN通信が可能となります。
- 有線接続のパソコンからセキュリティ方式の変更をした場合、[保存] をクリック後、[終了] をクリックして「無線LAN設定」画面に戻っても、「セキュリティ」欄は変更前の表示となっていますが、本製品への設定は反映されています。メニューの「無線LAN設定」をクリックすると、更新された「無線LAN設定」画面が表示されます。

・セキュリティを設定しない場合

- メニューから [無線LAN設定] をクリックします。
- 「無線LAN設定」画面の [セキュリティ] をクリックします。
- 「セキュリティ方式」で「OFF」を選択します。



※画面は、セキュリティを設定しない場合の入力例です。

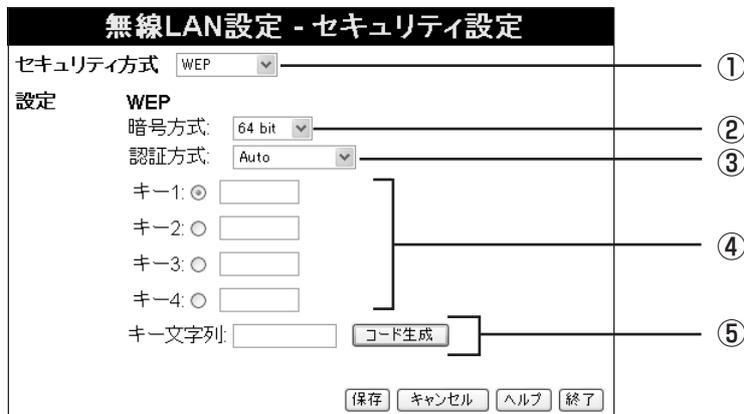
項目名	内容
①セキュリティ方式	OFF 暗号化せずに、無線 LAN 通信を行います。 ※セキュリティ方式を「OFF」にすると、通信内容を盗み見られたり、不正に侵入されたりする可能性が高くなります。暗号化することをお勧めします。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。
 [キャンセル] …… 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。
 [ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。
 [終了] …………… 「無線LAN設定」画面に戻ります。

- 4 設定が終了したら [保存] をクリックします。
- 5 [終了] をクリックし、「無線 LAN 設定」画面に戻ります。

• WEP方式で暗号化する場合

- 1 メニューから [無線 LAN 設定] をクリックします。
- 2 「無線 LAN 設定」の「セキュリティ」をクリックします。
- 3 「セキュリティ方式」で「WEP」を選択します。



※画面は、WEP方式で暗号化する場合の入力例です。

項目名	内容
①セキュリティ方式	WEP 通信内容を暗号化することにより、通信の解読を防ぎます。
②暗号方式	暗号キーのビット長を設定します。ビット長が大きいほど、セキュリティは強固になります。 64bit 暗号キーは 16 進数で 10 文字です。 128bit 暗号キーは 16 進数で 26 文字です。

項目名	内容
③認証方式	認証方式を「Open System」、「Shared Key」、「Auto」の中から選択します。 ※工場出荷時は「Auto」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
④キー 1～4	使用するキーを選択してください。⑤によって生成された暗号キー（16進数）が表示されます。手動で入力する場合は、16進数（半角の0～9とa～f）で入力してください。
⑤キー文字列	ASCII文字列（半角文字）を入力して、「[コード生成]」をクリックすると、③の認証方式により暗号化されたキーが④に生成されます。 64bit時はキー1～4に暗号化されたキーが、128bit時はキー1に暗号化されたキーが生成されます。 ※入力可能な文字は、半角で32文字までです。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。
 [キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。
 [ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。
 [終了] …………… 「無線LAN設定」画面に戻ります。

- 4 設定が終了したら [保存] をクリックします。
- 5 [終了] をクリックし、「無線LAN設定」画面に戻ります。

• WPA-PSK方式で暗号化する場合

- 1 メニューから [無線LAN設定] をクリックします。
- 2 「無線LAN設定」の「セキュリティ」をクリックします。
- 3 「セキュリティ方式」で「WPA-PSK」を選択します。

※画面は、WPA-PSK方式で暗号化する場合の入力例です。

項目名	内容
①セキュリティ方式	WPA-PSK WEP方式をより強化し、任意の一定間隔ごとに自動で暗号キーを変更する方式です。 本製品とパソコン(無線LANアダプタ)の両方に、事前に共有キー(PSK: Pre-Shared Key)と呼ばれる8～63文字のパスフレーズを設定しておきます。パソコン(無線LANアダプタ)のキーが本製品のキーと同一ならば接続が許可されます。
②共有キー	共有キーを設定します。 ※入力可能な文字は、半角で8～63文字までです。

項目名	内容
③更新間隔	暗号キーを変更する間隔を、30～1800秒の範囲で設定します。 ※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。
④暗号方式	TKIP 任意の一定間隔ごとに自動で暗号キーを変更する方式です。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。
 [キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。
 [ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。
 [終了] …………… 「無線LAN設定」画面に戻ります。

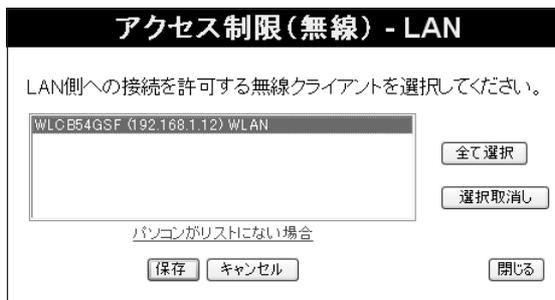
- 4 設定が終了したら [保存] をクリックします。
- 5 [終了] をクリックし、「無線LAN設定」画面に戻ります。

●アクセス制限

・「無線LANアクセス制限」で「選択したクライアントのみ接続を許可」する

無線LAN接続でLAN側のネットワークに接続できるパソコンを指定します。指定されていないパソコンは、無線LANでLAN側ネットワークに接続できません。

- 1 メニューから [無線LAN設定] をクリックします。
- 2 「無線LAN設定」画面の「LANアクセス制限」の「選択した無線クライアントのみ接続を許可」を選択します。
- 3 「無線LAN設定」画面の「LANアクセス制御」の [クライアントの選択] をクリックします。



※ 「LANアクセス制御」の [クライアントの選択] をクリックした場合の画面です。

※ パソコンがリストにない (DHCPクライアントでない) 場合、[詳細設定]-「PCデータベース」(P.81) で手動追加します。

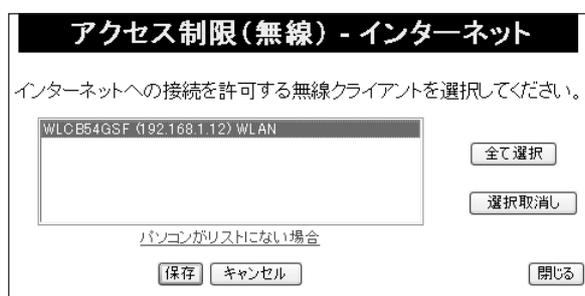
[全て選択] …… リストに表示されているパソコンをすべて選択します。
 [選択取消し] … 選択状態を解除し、何も選択していない状態にします。
 [保存] …………… 設定した内容を保存します。
 [キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。
 [閉じる] …………… 「無線LAN設定」画面に戻ります。

- 4 リストの中から無線LAN接続を許可するパソコンをクリックして、反転表示させます。
[Ctrl]キー+クリックで複数選択も可能です。
- 5 [保存]をクリックして設定を反映します。
- 6 [閉じる]をクリックし、「無線LAN設定」画面に戻ります。

•「インターネット アクセス制限」で「選択したクライアントのみ接続を許可」する

無線LANでインターネットに接続できるパソコンを指定します。指定されていないパソコンは、無線LANでインターネットに接続できません。

- 1 メニューから[無線LAN設定]をクリックします。
- 2 「無線LAN設定」画面の「インターネットアクセス制限」の「選択した無線クライアントのみ接続を許可」を選択します。
- 3 「インターネットアクセス制限」の[クライアントの選択]をクリックします。



※「インターネットアクセス制限」の[クライアントの選択]をクリックした場合の画面です。

※パソコンがリストにない(DHCPクライアントでない)場合、[詳細設定]-「PCデータベース」(P.81)で手動追加します。

[全て選択] …… リストに表示されているパソコンをすべて選択します。

[選択取消し] … 選択状態を解除し、何も選択していない状態にします。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。

[キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。

[閉じる] …………… 「無線LAN設定」画面に戻ります。

- 4 リストの中からインターネット接続を許可するパソコンをクリックして、反転表示させます。
[Ctrl]キー+クリックで複数選択が可能です。
- 5 [保存]をクリックして設定を反映します。
- 6 [閉じる]をクリックし、「無線LAN設定」画面に戻ります。

■パスワード設定 ～本製品の設定変更を制限する～

本製品の設定ユーティリティにアクセスする際のログイン名とパスワードを設定します。ログイン名とパスワードを設定すると、設定ユーティリティを起動する際にログイン名とパスワードの入力が必要になります。セキュリティ上、パスワードの設定をお勧めします。パスワードの変更手順については、「PART5 トラブルや疑問があったら」「本製品のログイン名(ユーザー名)、パスワードを変更したい」(P.103)をご覧ください。



- ・パスワードを忘れると、設定ユーティリティで設定を変更できなくなりますので、ご注意ください。
- ・なお、背面の初期化スイッチを使用し、本製品を工場出荷時の状態に戻すことにより、ログイン名は“root”、パスワードはなしになります。〈「本製品を工場出荷時の状態に戻したい(初期化)」(P.108)〉
※初期化をすると、設定していた情報は消去されますので、再び設定する場合は情報を保存してから初期化を行ってください。

■動作モード設定 ～ルータ機能を設定する～

本製品のルータとしての機能を設定します。

- 1 メニューから[動作モード設定]をクリックします。



項目名	内容
①動作モード	本製品のルータとしての機能を設定します。 ルータ/アクセスポイント ルータとして機能させます。また、デフォルトでDHCPサーバとして機能します。 アクセスポイント ルータとしては機能せず、アクセスポイントとして機能させます。DHCPサーバ機能は、「LAN側設定」(P.54)の「DHCPサーバ」にチェックを付けないと機能しません。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。

[ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。

- 2 設定が終了したら、[保存]をクリックして設定を反映します。

■状態表示 ～現在の接続状態を表示する～

インターネットへの接続状態や本製品のシステム情報などを表示します。利用する接続方式によって表示される画面が異なります。

1 メニューから[状態表示]をクリックします。

・ PPPoE 接続の場合（マルチ PPPoE 接続の場合）

状態表示	
WAN側	接続タイプ: PPPoE ①
	モデムの状態: ON ②
	接続状態: 接続中 ③
	WAN側 IPアドレス: 219.160.130.199 ④
	セッション2: 222.224.155.32
	<input type="button" value="再読み込み"/> <input type="button" value="詳細"/>
LAN側	LAN側 IPアドレス: 192.168.1.1 ⑤
	サブネットマスク: 255.255.255.0 ⑥
	DHCPサーバ: ON ⑦
システム	デバイス名: XXXXXXXXX ⑧
	ファームウェアバージョン: Version X.XX <input type="button" value="ファームウェア更新"/> ⑨
	<input type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="システムデータ"/> <input type="button" value="リセット機能"/>
	「設定保存」で保存を行った設定を復元させる場合は、ファームウェア更新を押して保存した設定ファイルを読み込みます。
	<input type="button" value="ログ機能"/> <input type="button" value="E-Mail機能"/> <input type="button" value="ヘルプ"/>

・ DHCP を利用する場合（固定 IP アドレスで接続する場合）

状態表示	
WAN側	接続タイプ: DHCP/固定 ①
	モデムの状態: ON ②
	接続状態: 接続中 ③
	WAN側 IPアドレス: 192.168.1.1 ④
	<input type="button" value="再読み込み"/> <input type="button" value="詳細"/>
LAN側	LAN側 IPアドレス: 192.168.1.1 ⑤
	サブネットマスク: 255.255.255.0 ⑥
	DHCPサーバ: ON ⑦
システム	デバイス名: XXXXXXXXX ⑧
	ファームウェアバージョン: Version X.XX <input type="button" value="ファームウェア更新"/> ⑨
	<input type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="システムデータ"/> <input type="button" value="リセット機能"/>
	「設定保存」で保存を行った設定ファイルを使用してルータの設定を復元させる場合は、「ファームウェア更新」を押して保存した設定ファイルを読み込みます。
	<input type="button" value="ログ機能"/> <input type="button" value="E-Mail機能"/> <input type="button" value="ヘルプ"/>

3

設定ユーティリティを見てみよう

項目名	内容
①接続タイプ	現在、使用されている接続タイプを表示します。 ・ PPPoE :接続タイプがマルチ PPPoE か PPPoE / Unnumbered IP です。 ・ DHCP / 固定 :接続タイプが IP 自動 (DHCP) / IP 固定です。
②モデムの状態	現時点での本製品のWANポートと回線終端装置(モデムなど)の機器との接続状態を表示します。 ・ ON :接続されています。 ・ OFF :未接続です。

項目名	内容
③接続状態	現時点での接続状態を表示します。 ・ 接続中 ：正常に動作しています。 ・ 未接続 ：WAN 側のネットワークと通信できていません。
④ WAN 側 IP アドレス	本製品の WAN 側の IP アドレスを表示します。 ※マルチ PPPoE 設定の場合、「WAN 側 IP アドレス」（セッション 1）の下にセッション 2 の IP アドレスが表示されます。
⑤ LAN 側 IP アドレス	本製品の LAN 側の IP アドレスを表示します。
⑥サブネットマスク	本製品の LAN 側のサブネットマスクを表示します。
⑦ DHCP サーバ	本製品の DHCP サーバ機能の状態を表示します。 ・ ON :DHCP 機能が働きます。 ・ OFF :DHCP 機能が働きません。
⑧デバイス名	本製品のデバイス名を表示します。デバイス名は「WGPXXXXXX」で表示されます。「XXXXXX」は本製品の LAN 側の MAC アドレスの下 6 桁の数値です。
⑨ファームウェアバージョン	本製品のファームウェアのバージョンを表示します。

〈ボタンについて〉

状態表示

WAN側	接続タイプ: PPPoE		
	モデムの状態: ON		
	接続状態: 接続中		
	WAN側 IPアドレス:		
	セッション2:		
		再読み込み	①
		詳細	②
LAN側	LAN側 IPアドレス: 192.168.1.1		
	サブネットマスク: 255.255.255.0		
	DHCPサーバ: ON		
システム	デバイス名: XXXXXXXXX		
	ファームウェアバージョン: Version X.XX	ファームウェア更新	③
		設定保存	④
		システムデータ	⑤
		リセット機能	⑥
「設定保存」で保存を行った設定ファイルを使用してルータの設定を復元させる場合は、「ファームウェア更新」を押して保存した設定ファイルを読み込みます。			
		ログ機能	⑦
		E-Mail機能	⑧
		ヘルプ	

ボタン名	機能
①再読み込み	最新の接続状態を表示します。
②詳細	接続状態の詳細を表示します（P.65）。
③ファームウェア更新	「ファームウェア更新」画面を表示します。ファームウェアの更新の方法は、「PART5 トラブルや疑問があったら」「最新のファームウェアを入手してアップデートしたい」（P.103）をご覧ください。

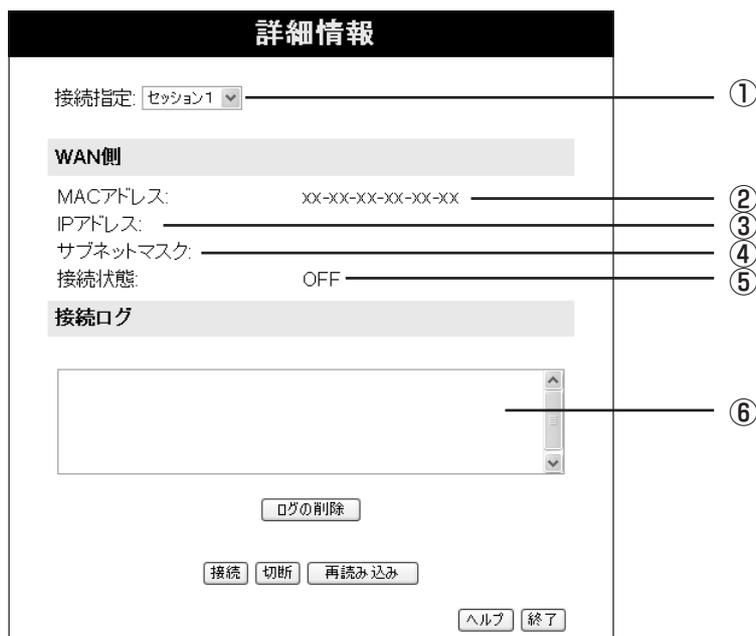
ボタン名	機能
④設定保存	現在の設定内容を保存します。設定変更後に通信できなくなったときなどに保存したバックアップファイルを使用して、設定内容を元に戻します。次の手順で設定を保存します。 ① [設定保存] をクリックします。 ② 「ファイルのダウンロード」画面の [保存] をクリックします。 ③ 「名前を付けて保存」画面で保存先とファイル名を指定して [保存] をクリックします。 バックアップファイルを使用して設定内容を元に戻す方法は、PART5の「最新のファームウェアを入手してアップデートしたい」(P.103) とほぼ同じです。手順4で保存したバックアップファイルを選択してください。
⑤リセット機能	本製品を再起動、または工場出荷時の状態に戻します。詳しくは、「PART5 トラブルや疑問があったら」の「本製品を再起動したい」(P.107) または「本製品を工場出荷時の状態に戻したい (初期化)」(P.108) をご覧ください。
⑥システムデータ	システム情報を表示します。
⑦ログ機能	ログ機能の設定を行います (P.68)。
⑧ E-Mail 機能	E-Mail 機能の設定を行います (P.69)。

● 「詳細情報」画面

インターネットへの接続状態の詳細情報を表示します。

- 1 メニューから [状態表示] をクリックします。
- 2 「状態表示」画面の [詳細] をクリックします。利用する接続方式によって、表示される画面が異なります。

・ PPPoE 接続の場合



項目名	内容
② IP アドレス	本製品のWAN側のIPアドレスを表示します。
③ サブネットマスク	本製品のWAN側のIPアドレスに使用するサブネットマスクを表示します。
④ ゲートウェイ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するゲートウェイを表示します。
⑤ DNS サーバ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するDNSサーバのアドレスを表示します。
⑥ DHCP クライアント	WAN側のDHCPクライアント機能の状態を表示します。 ON :DHCPを利用しています。
⑦ リース取得	IPアドレスを取得した日時を表示します。
⑧ 残りリース時間	IPアドレスが解放されるまでの残り時間を表示します。

[書き換え] …… DHCPクライアント機能の状態をONに設定している場合に、現在取得しているIPアドレスを開放して、新しいIPアドレスを取得します。

[再読み込み] …… 最新の情報を表示します。

[ヘルプ] …… 設定内容についての説明を表示します。

[終了] …… 「状態表示」画面に戻ります。

・固定IPアドレスで接続する場合

詳細情報	
WAN側	
MACアドレス: xx-xx-xx-xx-xx-xx	①
IPアドレス: 12.34.56.78	②
サブネットマスク: 255.255.255.0	③
ゲートウェイ: 12.34.56.1	④
DNSサーバ: 12.34.56.98	⑤
DHCPクライアント: OFF	⑥
ヘルプ 終了	

項目名	内容
① MAC アドレス	本製品のWAN側のMACアドレスを表示します。 ※LAN側のMACアドレスは「状態表示」画面の[システムデータ]をクリックして表示される画面で確認できます。
② IP アドレス	本製品のWAN側のIPアドレスを表示します。
③ サブネットマスク	本製品のWAN側のIPアドレスに使用するサブネットマスクを表示します。
④ ゲートウェイ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するゲートウェイを表示します。
⑤ DNS サーバ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するDNSサーバのアドレスを表示します。
⑥ DHCP クライアント	WAN側のDHCPクライアント機能の状態を表示します。 OFF :固定IPアドレスが設定されています。

[ヘルプ] …… 設定内容についての説明を表示します。

[終了] …… 「状態表示」画面に戻ります。

● 「システムデータ」画面

本製品のシステム、WAN、LANの設定状況を画面で確認することができます。

- 1 メニューから[状態表示]をクリックします。
- 2 「状態表示」画面の[システムデータ]をクリックします。

● 「ログ機能」画面

本製品では、インターネット接続やアクセス制限などのログを残すことができます。

- 1 メニューから [状態表示] をクリックします。
- 2 「状態表示」画面の [ログ機能] をクリックします。

項目名	内容
①接続指定	ログ機能を表示するセッションを「セッション1」と「セッション2」から選択します。 ※マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示される項目です。
②インターネット接続ログ	チェックを付けるとインターネット接続に関するログを残します。[ログ情報] をクリックすると現在のログを表示します。[削除] をクリックするとログが削除されます。
③アクセス制限ログ	チェックを付けるとアクセス制限機能によってブロックされた情報をログに残します。[ログ情報] をクリックすると現在のログを表示します。[削除] をクリックするとログが削除されます。
④DoS (Denial of Service) アタック検出口グ	チェックを付けると DoS (Denial of Service) アタックを検出したときにログを残します。[ログ情報] をクリックすると現在のログを表示します。[削除] をクリックするとログが削除されます。

※ログ情報は、それぞれ最大 100 行です。100 行を超えると、古いものから順に削除されます。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。
 [キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。
 [ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。
 [終了] …………… 「状態表示」画面に戻ります。

- 3 設定を変更したときは、[保存] をクリックして設定を反映します。
 ※ログ情報の参照のみの場合は、[保存] をクリックする必要はありません。
- 4 [終了] をクリックして、「状態表示」画面に戻ります。

● 「E-Mail 機能」 画面

本製品には、E-Mail によるログ情報の配信機能があります。本機能を使用することで DoS (Denial of Service) アタックが検出された時に管理者に対してメールで通知することができます。

- 1 メニューから [状態表示] をクリックします。
- 2 「状態表示」画面の [E-Mail 機能] をクリックします。

項目名	内容
① DoS アタック検出時にログを送信する	チェックを付けると (DoS (Denial of Service) アタックを検出したときに、ログをメールで送信します。
② インターネット接続ログ	チェックを付けると、インターネット接続に関するログを、④の「送信」で設定した送信方法でメールを送信します。
③ アクセス制限ログ	チェックを付けると、アクセス制限機能によってブロックされた情報を記録したログを、④の「送信」で設定した送信方法でメールを送信します。
④ 送信	ログ情報を送信するタイミングを選択します。ログが一杯になったときに送信する場合は「a」を選択します。曜日と時間を決めて送信する場合は「b」を選択して曜日と時間を指定します。 ※ログ情報は、最大 100 行です。100 行を超えると古いものから順に削除されます。 ※b を指定した場合でもログ情報がいっぱいになると、設定よりも前に送信されます。
⑤ 送信先 E-Mail アドレス	ログ情報の送信先 (E-Mail アドレス) を設定します。 ※入力可能な文字は、半角で 32 文字までです。
⑥ 件名	「E-Mail ログ送信」を有効にした場合、E-Mail 送信時の件名を入力します。 ※入力可能な文字は、半角で 29 文字までです。
⑦ 送信用 (SMTP) サーバ	プロバイダから指定されたメール送信用 (SMTP) サーバのホスト名か IP アドレスを設定します。 ※ホスト名を指定する場合、入力可能な文字は、半角で 50 文字までです。
⑧ ポート番号	送信用 (SMTP) サーバに接続する際に使用するポート番号を設定します。 ※ポート番号は 1 ~ 65534 の半角数字を入力してください。

- [保存] …………… 設定した内容を保存します。
- [キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。
- [ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。
- [終了] …………… 「状態表示」画面に戻ります。

- 3 設定が終了したら、[保存] をクリックして設定を反映します。
- 4 [終了] をクリックして、「状態表示」画面に戻ります。

■詳細設定 ～より高度な機能を設定する～

ネットワークアプリケーションを利用する際のポート設定やセキュリティの設定、バーチャルサーバの設定など、本製品のより高度な機能を設定することができます。

■アドバンスドインターネット ～ネットワークアプリケーションを利用できるようにする～

ネットワークゲームなど、ファイアウォールによって、着信データの接続先が不明になってしまうアプリケーションを利用する際のポート設定を行います。おもなアプリケーションについては、あらかじめ入力/出力ポートが設定してあります。

- 1 メニューから [詳細設定] - 「アドバンスドインターネット」 をクリックします。

※マルチ PPPoE 設定をしている場合の画面例です。

項目名	内容
①使用アプリケーション	使用するアプリケーションを選択します。ここに表示されるのは、入力/出力ポートが設定済みのアプリケーションです。
②接続先	アプリケーションを利用するパソコンを選択します。利用したいパソコンがリストにない場合は、「PC データベース」(P.81) で登録してください。
③スペシャルアプリケーション	「登録済アプリケーション」の一覧にないアプリケーションを利用する場合や、アプリケーションが正しく動作しない場合は、[スペシャルアプリケーション] をクリックして、新しく設定します。
④ PPPoE 設定	DMZ 設定する場合のアカウント (接続先) を選択します。 ※マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示される項目です。

項目名	内 容
⑤ DMZ	<p>DMZ 機能を有効にします。「登録済アプリケーション」や「スペシャルアプリケーション」で設定してもアプリケーションが動作しない場合にはDMZ 機能を使用します。アプリケーションを利用するパソコンを選択して、「DMZ を使用する」にチェックを付けます。</p> <p>※DMZを設定したパソコンは、本製品のセキュリティ機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ機能は必要な場合のみ有効にしてご使用ください。</p> <p>※マルチ PPPoE 接続の場合は、アカウントごとに設定することができます。</p> <p>※解除するときはチェックを外します。</p>

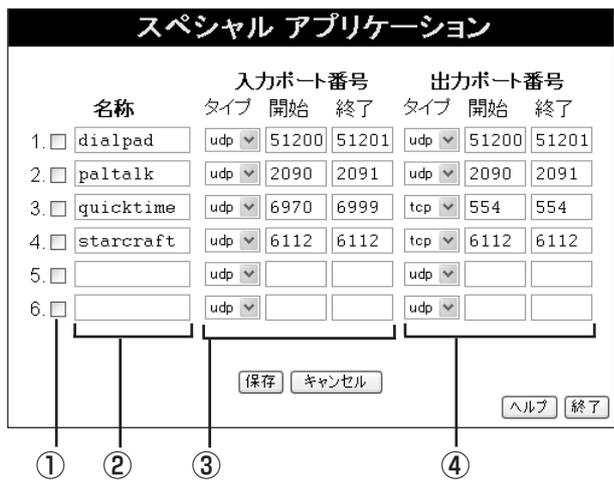
[保存] …………… 設定した内容を保存します。
 [キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。
 [ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。

- 設定が終了したら、[保存] をクリックして設定を反映します。
 ※設定するパソコンごとに、手順2を繰り返します。

・「スペシャルアプリケーション」画面

「アドバンスドインターネット」画面の「登録済アプリケーション」の一覧にないアプリケーションを利用する場合や、アプリケーションが正しく動作しない場合には、個別に設定することができます。

- メニューから [詳細設定] - 「アドバンスドインターネット」をクリックします。
- 「アドバンスドインターネット」画面で [スペシャルアプリケーション] をクリックします。



項目名		内容
①チェックボックス		利用するアプリケーションにチェックを付けます。
②名称		ネットワークアプリケーションの名前を任意で入力します。 ※入力可能な文字は、半角で12文字（全角で6文字）までです。半角の大文字は小文字に自動的に変換されます。
③入力ポート番号	タイプ	入力ポートのプロトコルタイプを選択します。
	開始～終了	パソコンがデータを受信する際に使用するポート番号の範囲を入力します。 ※ポート番号には1～65534の半角数字を入力してください。
④出力ポート番号	タイプ	出力ポートのプロトコルタイプを選択します。
	開始～終了	パソコンがデータを送信する際に使用するポート番号の範囲を入力します。 ※ポート番号には1～65534の半角数字を入力してください。

- [保存] …………… 設定した内容を保存します。
 [キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。
 [ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。
 [終了] …………… 「アドバンスドインターネット」画面に戻ります。

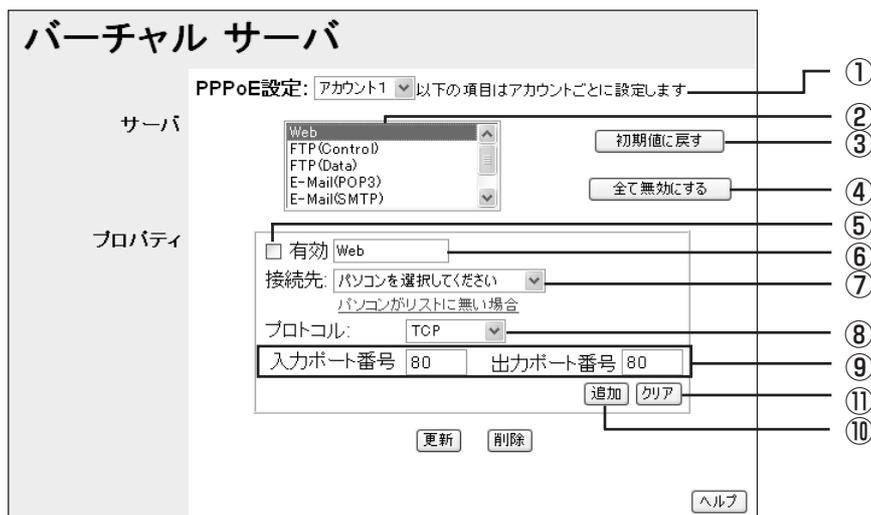
-  ・アプリケーションのポート等の設定については、アプリケーションの開発元にお問い合わせください。
 ・同じスペシャルアプリケーションを複数台のパソコンで使用することはできません。

- 3 設定が終了したら、[保存] をクリックして設定を反映します。
- 4 [終了] をクリックして、「アドバンスドインターネット」画面に戻ります。

■バーチャルサーバ ～インターネット上にサーバを公開する～

インターネット（WAN側）から本製品のLAN上のパソコンにアクセスできるようにします。外部にサーバを公開することができます。

- 1 メニューから [詳細設定] - 「バーチャルサーバ」 をクリックします。



※マルチPPPoE設定をしている場合の画面例です。

項目名	内容
① PPPoE 設定	バーチャルサーバを公開するためのアカウントを選択します。 ※マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示される項目です。
②サーバ	利用したいサーバを選択します。
③初期値に戻す	バーチャルサーバ設定を工場出荷時の値（全て無効）に戻します。 ※追加した全てのサーバの設定も削除されます。
④全て無効にする	一覧に表示されている全てのバーチャルサーバの⑤「有効」のチェックを外します。
⑤有効	チェックを付けると、選択したサーバが有効になります。 ※有効にするときは、必ず⑦「接続先」を選択します。
⑥サーバ名	選択したサーバ名が表示されます。[追加]を行うときは、任意の名称に変更します。 ※入力可能な文字は、半角で16文字（全角で8文字）までです。
⑦接続先	バーチャルサーバにするパソコンを選択します。利用したいパソコンがリストにない場合は、「PC データベース」(P.81) で登録してください。
⑧プロトコル	開放するプロトコルのタイプを選択します。
⑨入力/出力ポート番号	インターネット側からサーバに接続するためのポート番号（入力ポート番号）とサーバソフトが使用するポート番号（出力ポート番号）を入力します。通常は同一のポート番号になります。 ※ポート番号には1～65534の半角数字を入力してください。
⑩追加	入力したバーチャルサーバをリストに追加します。 ※登録済みのサーバ名と同じサーバ名では追加はできません。 ※登録済みのポート番号では追加はできません。
⑪クリア	プロパティに入力した内容をクリアします。

[更新] …………… 選択したバーチャルサーバの設定内容を更新します。

[削除] …………… 選択したバーチャルサーバを削除します。

[ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。

- 2 必要な項目を設定後、[更新] または [追加]、[削除] をクリックして、設定を反映します。
※ 詳細は、「外部にサーバを公開するには」「バーチャルサーバを使用する」(P.92)をご覧ください。



登録可能なサーバ数は40です。

■ダイナミック DNS (DDNS) ～バーチャルサーバにドメイン名でアクセスできるようにする～

インターネット上からIPアドレスではなくドメイン名を指定してLAN内のバーチャルサーバに接続できるようにします。PPPoEやDHCPのようなIPアドレスが固定されないサービスでも、LAN内のバーチャルサーバにアクセスすることができます。

ダイナミック DNS は、以下の手順で設定します。

- 1 無料または有料サービスを提供している DDNS サイトで登録手続きをします。本製品からは DynDNS と Ivy Network を登録することができます。(2005年6月現在) 登録が完了すると、ユーザー登録確認メールが、E-Mail で送られてきます。
- 2 メニューから [詳細設定] - 「ダイナミック DNS」をクリックし、登録した DDNS ユーザー名とパスワード、使用したいドメイン名を入力します。

※マルチ PPPoE 設定をしている場合の画面例です。

項目名	内容
① PPPoE 設定	ダイナミックDNS機能を利用してバーチャルサーバを公開するためのアカウント（接続先）を選択します。 ※マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示される項目です。
② DDNS 登録サイト	DDNS は有料と無料の 2 つがリンクされています。DDNS サイトとしてこちらで登録できます。
③ DDNS サービス	登録したダイナミック DNS のサービス名を選択します。
④ ユーザー名	②の DDNS サイトで登録したユーザー名を入力してください。 ※入力可能な文字は、半角で 15 文字までです。
⑤ パスワード	②の DDNS サイトで登録したパスワードを入力してください。 ※入力可能な文字は、半角で 15 文字までです。入力したパスワードは画面上では「●」や「*」などで表示されます。入力ミスのないようご注意ください。

項目名	内容
⑥ドメイン名	②のDDNSサイトで登録した希望のドメイン名を入力してください。 ※一度取得したドメイン名は本製品からの変更はできません。ドメイン名を変更する場合は、各 DDNS サイトで変更等を行い、その後新たに登録をしておしてください。 ※使用可能な文字は、左側の入力欄は半角で 24 文字まで、中央の入力欄は半角で 16 文字まで、右側の入力欄は半角で 4 文字までで入力してください。
⑦ DDNS ステータス	③の DDNS サーバからのメッセージを表示します。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。

[キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。

[ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。

- 3 [保存] をクリックし、「状態表示」から「リセット機能」を選択して本製品を再起動します。本製品は、[保存] をクリックした時点で、使用している IP アドレスを DDNS サイトへ登録します。
「DDNS ステータス」欄で、IP アドレスが登録できたかどうか確認してください。



- DDNS サイトへの登録は、お客様の自己責任で行ってください。登録に関して弊社では一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- DDNS サイトによっては、定期的に更新をしないと登録が消されてしまうことがあります。更新は、本製品の WAN 側が接続された時に行われます。更新期間の詳細は、DDNS サイトをご覧ください。

■アクセス制限 ～パソコンのアクセスを制限する～

パソコン (LAN) 側に接続されているパソコンからインターネット (WAN) 側へのアクセスを制御します。アクセス制限は、グループごとに設定します。

- 1 メニューから [詳細設定] → 「アクセス制限」をクリックします。

※マルチPPPoE設定をしている場合の画面例です。

項目名	内容
①グループ選択	アクセス制限をするグループを選択します。 ※工場出荷時は「グループ0」になっています。
②メンバー登録	グループ0以外のグループのメンバーを編集できます。
③PPPoE設定	インターネット側(WAN側)へアクセスするアカウントを選択します。 ※マルチPPPoE接続の場合のみ表示される項目です。
④アクセス制限	アクセスを制限するかどうかを選択します。 ・なし：アクセスを制限しません。 ・全てのサービス：「サービス」に登録済みの全てのサービスのアクセスを制限します。 ・選択したサービス：「サービス」で選択したサービスのみ、アクセスを制限します。
⑤スケジュール設定	スケジュール内容を設定したいときにクリックします。曜日ごとにアクセス制限をする時間帯を設定できます(P.77)。
⑥スケジュール	アクセス制限するスケジュールを選択します。「なし」を選択すると常にアクセス制限が有効になります。
⑦サービスの編集	アクセス制限するサービスを設定したいときにクリックします。サービスの追加や削除ができます(P.78)。
⑧サービス	アクセス制限をしたいサービスを選択します。「Ctrl」キー＋クリックで複数選択が可能です。
⑨ログ情報	アクセス制限ログの情報を確認したいときにクリックします。
⑩ログの削除	アクセス制限ログの情報を削除したいときにクリックします。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。

[キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。

[ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。

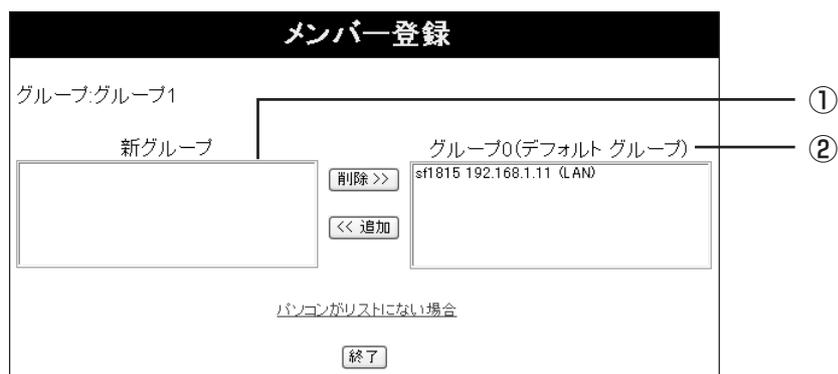
2 設定が終了したら、[保存] をクリックして設定を反映します。

・「メンバー登録」画面

アクセス制限をするグループを作成します。

1 メニューから [詳細設定] - 「アクセス制限」 をクリックします。

2 「アクセス制限」画面で「グループ選択」のメニューから「グループ0」以外のグループを選択し、[メンバー登録] をクリックします。



項目名	内容
①新グループ	選択したグループのメンバーを表示します。新しくグループを作成したときは、空欄になっています。
②グループ0	デフォルトメンバーを表示します。本製品に接続されているすべてのパソコンが表示されます。

[削除] …………… 選択したメンバーを新グループから削除します。
 [追加] …………… 選択したメンバーを新グループに追加します。
 [終了] …………… 「アクセス制限」画面に戻ります。

- 3 新グループのメンバーにしたいパソコンを「グループ0」から選択して、[追加] をクリックして設定を反映します。「Ctrl」キー＋クリックで複数選択が可能です。
- 4 新グループのメンバーから外したいパソコンを「新グループ」から選択して、[削除] をクリックして設定を反映します。「Ctrl」キー＋クリックで複数選択が可能です。
- 5 設定が終了したら、[終了] をクリックして「アクセス制限」画面に戻ります。

 ・グループ0に表示されているパソコンは、本製品が認識しているパソコンの一覧ですので、新グループに追加しても、一覧から削除されません。また、1つのパソコンを異なるグループ（グループ0を除く）に重複して登録することはできません。
 ・登録可能なパソコンは最大50台です。

・「スケジュール設定」画面

アクセス制限をするスケジュールを設定します。スケジュールは、曜日単位で設定します。

- 1 メニューから [詳細設定] - 「アクセス制限」 をクリックします。
- 2 「アクセス制限」画面で [スケジュール設定] をクリックします。

スケジュール設定

24時間表記で入力してください 1日中 制限をするとき: 00:00 - 24:00
 1日中 制限をしないとき: 空欄

曜日	スケジュール1		スケジュール2	
	開始	終了	開始	終了
月曜	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
火曜	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
水曜	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
木曜	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
金曜	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
土曜	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
日曜	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

曜日	曜日ごとにスケジュールを設定します。
スケジュール1、2	スケジュール2を使用しない場合は、空白で設定してください。
開始	24時間表記で開始時間を入力してください。
終了	24時間表記で終了時間を入力してください。

※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。
 [キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。
 [ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。
 [終了] …………… 「アクセス制限」画面に戻ります。

- 3 設定が終了したら、[保存] をクリックして設定を反映します。
- 4 [終了] をクリックして「アクセス制限」画面に戻ります。

・「サービス」画面

アクセス制限をするサービスの追加、削除を行います。

- 1 メニューから「詳細設定」→「アクセス制限」をクリックします。
- 2 「アクセス制限」画面で「サービスの編集」をクリックします

項目名	内容
①登録済みサービス	登録済みのサービスの一覧を表示します。削除したいサービスを選択してください。[削除] をクリックすると、選択したサービスが削除されます。 ※初期状態で登録済みのサービスは削除できません。
②サービス名	追加登録するサービス名を入力します。 ※入力可能な文字は、半角で 12 文字までです。 ※追加登録したサービス名は、サービス名の先頭に「*」が付きます。
③タイプ	追加登録するサービスのプロトコルを選択します。
④開始 / 終了 ポート番号	サービスが使用するポート番号の開始～終了を入力します。 ※入力可能な文字は、半角数字の 0～9 です。
⑤ ICMP タイプ	「タイプ」で「ICMP」を選択した場合に入力します。 ※入力可能な文字は、半角数字の 0～9 です。

[削除] …………… 選択した登録済みサービスを削除します。
 [追加] …………… 入力したサービスを追加登録します。
 [キャンセル] …… 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。
 [ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。
 [終了] …………… 「アクセス制限」画面に戻ります。

- 3 削除するときは、「登録済みサービス」から削除したいサービスを選択して、[削除] をクリックして設定を反映します。「Ctrl」キー＋クリックで複数選択が可能です。
- 4 追加するときは、「サービスの追加」の各項目を入力し、[追加] をクリックして設定を反映します。



- ・アクセス制限したいサービスの使用するポートがひとつだけの場合は、「開始ポート番号」と「終了ポート番号」に同じポート番号を入力します。
- ・登録済みのサービス数は 40 です。サービスの追加可能数は 30 です。

5 設定が終了したら、[終了] をクリックして「アクセス制限」画面に戻ります。



「アクセス制限」画面に戻っても、「サービス」欄は変更前の表示となっていますが、本製品への設定は行われています。サブメニューの「アクセス制限」をクリックすると、更新された「アクセス制限」画面が表示されます。

■セキュリティ ～外部からの不正なアクセスを防ぐ～

本製品のセキュリティ機能の設定を行います。

1 メニューから [詳細設定] → 「セキュリティ」をクリックします。

※ マルチPPPoE設定をしている場合の画面例です。

項目名	内容
① PPPoE 設定	セキュリティ機能を設定するアカウント（接続先）を選択します。 ※マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示される項目です。
② DoS (Denial of Service)ファイアウォールを使用する	有効にすると、DoS (Denial of Service) アタックへの防御ができます。
③しきい値	使用しているインターネットの帯域を選択します。
④ URL フィルタを使用する	有効にすると、指定した URL への接続を制限します。 ※工場出荷時は「有効」になっていますが、「URL フィルタの設定」には何も登録されていないため、URL のフィルタリングはされません。
⑤ URL フィルタの設定	URL フィルタを設定する画面を表示します。
⑥ ICMP に返答する	本製品にpingコマンドが送信された場合に返答するかどうかを選択します。

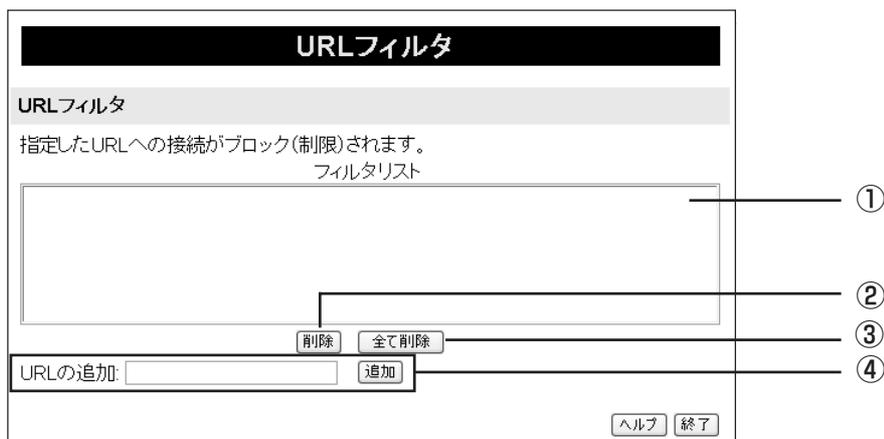
項目名	内容
⑦ IPsec を許可する	IPsec を使用した VPN (Virtual Private Networking) の通信 (IPsec のパススルー) を可能にするかどうかを選択します。
⑧ PPTP を許可する	PPTP を使用した VPN (Virtual Private Networking) の通信 (PPTP のパススルー) を可能にするかどうかを選択します。
⑨ L2TP を許可する	L2TP を使用した VPN (Virtual Private Networking) の通信 (L2TP のパススルー) を可能にするかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する (L2TP のパススルーが可能)」になっています。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。
 [キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。
 [ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。

2 設定が終了したら、[保存] をクリックして設定を反映します。

・「URL フィルタ」画面

- 1 メニューから [詳細設定] - 「セキュリティ」 をクリックします。
- 2 「セキュリティ」画面で [URL フィルタの設定] をクリックします。



項目名	内容
① フィルタリスト	接続を制限する URL のリストが表示されます。
② 削除	選択した URL を削除します。「Ctrl」+クリックで複数選択が可能です。
③ 全て削除	フィルタリスト (①) に登録されている URL を全て削除します。
④ 追加	接続を制限したい URL を入力し、[追加] をクリックすると、フィルタリスト (①) に URL が追加されます。 文字列 (例: violence) を入力すると、その文字列を含む URL がアクセス制限されます。 ※入力可能な文字は、半角で 72 文字 (全角で 36 文字) までです。

[ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。
 [終了] …………… 「セキュリティ」画面に戻ります。



- 登録可能な URL の数は 50 です。
- URL を登録した場合、「http://」を省略してフィルタリストに表示します。

3 設定が終了したら、[終了] をクリックして「セキュリティ」画面に戻ります。

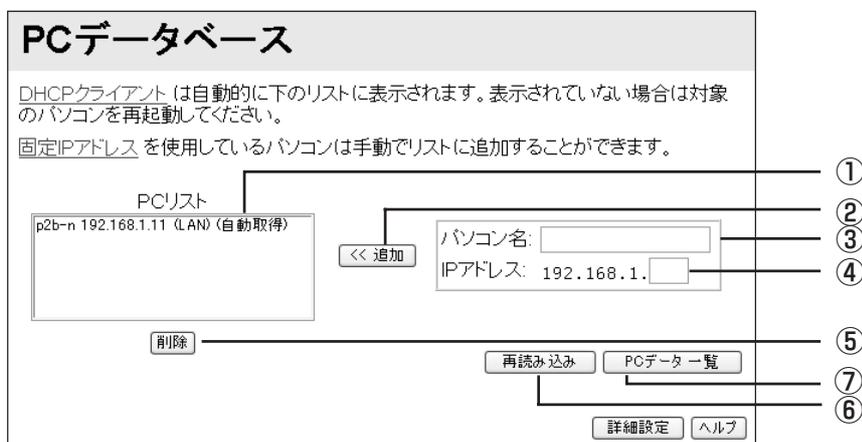
■ PC データベース ～接続しているパソコンを表示する～

本製品に接続しているパソコンの一覧を表示します。LAN 上のパソコンや固定 IP アドレスの情報を管理できます。

「DHCPクライアント」のパソコンは、一覧に自動的に追加されます。固定 IP アドレスを使用しているパソコンは手動で追加します。

バーチャル サーバや DMZ などを固定 IP アドレスのパソコンで設定する際は、かならず PC リストに手動で登録してください。

- 1 メニューから [詳細設定] - 「PC データベース」をクリックします。



3

設定ユーティリティを見てみよう

項目名	内容
① PC リスト	現在、接続されているパソコンもしくはネットワーク機器を表示します。 ※DHCPクライアントは、自動的にPCリストに表示されます。表示されていない場合は、対象のパソコンを再起動してください。 固定IPアドレスを使用しているパソコンは、手動でリストに追加します。 ※パソコンを本製品から外して [再読み込み] をクリックしても、PC リストは更新されません。PC リストを更新する場合は、本製品を再起動するか電源を入れ直してください。
②追加	パソコン名 (③) と IP アドレス (④) を入力したパソコンを PC リスト (①) に追加します。
③パソコン名	PCリストに追加するパソコンのコンピュータ名を入力します(任意の名前)。 ※ 入力可能な文字は半角で 15 文字 (全角で 7 文字) までです。
④ IP アドレス	PC リストに追加するパソコンの IP アドレスを入力します。 ※入力可能な文字は、半角数字の 0～9 です。
⑤削除	選択したパソコンをPCリストから削除します。「Ctrl」キー+クリックで複数選択が可能です。

項目名	内容
⑥再読み込み	PC リストの表示を更新します。
⑦ PC データ一覧	PC リストの詳細を表示します。

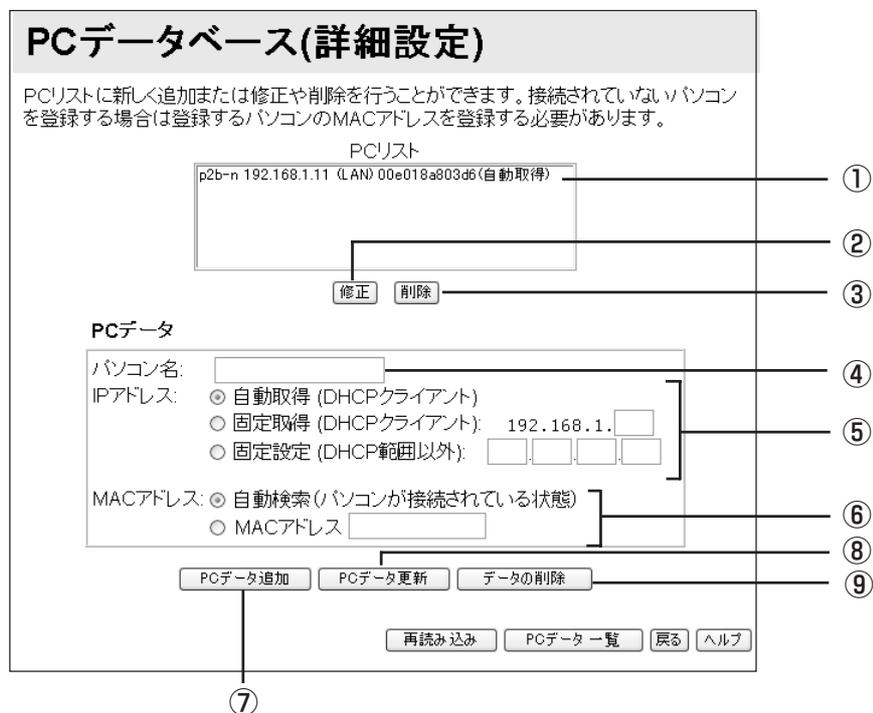
[詳細設定] …… PCデータベースの詳細設定を行います(P.82)。

[ヘルプ] …… 設定内容についての説明を表示します。

・「PC データベース (詳細設定)」画面

接続されているパソコンのデータの詳細設定ができます。

- 1 メニューから [詳細設定] - 「PC データベース」をクリックします。
- 2 「PC データベース」画面で [詳細設定] をクリックします。



項目名	内容
① PC リスト	接続されているパソコンの一覧を表示します。 ※パソコンを本製品から外して [再読み込み] をクリックしても、PC リストは更新されません。PC リストを更新する場合は、本製品を再起動してください (P.107)。
②修正	PC リストから設定を変更したいパソコンを選択し [修正] をクリックすると PC データにパソコンのデータが表示されます。
③削除	PC リストから削除したいパソコンを選択し [削除] をクリックすると PC リストからパソコンが削除されます。「Ctrl」キー+クリックで複数選択が可能です。
④パソコン名	パソコンのコンピュータ名を入力します (任意の名前)。 ※入力可能な文字は半角で 15 文字 (全角で 7 文字) までです。

項目名	内容
⑤ IP アドレス	<p>自動取得 (DHCP クライアント) パソコン側でIPアドレスを自動取得する設定にしている場合に選択します。IPアドレスは本製品が自動的に割り当てます。</p> <p>固定取得 (DHCP クライアント) パソコン側でIPアドレスを自動取得する設定にしている場合に選択します。IPアドレスは本製品が自動的に割り当てますが、ここで指定したIPアドレスが割り当てられます。 ※指定できるIPアドレスは「LAN (LAN側の設定)」(P.54)で設定しているIPアドレスの範囲内になります。</p> <p>固定設定 (DHCP 範囲以外) パソコン側で固定IPアドレスを設定している場合に選択します。</p>
⑥ MAC アドレス	<p>自動検索 パソコンがLANに接続されている場合に、本製品が自動的にパソコンのMACアドレスを検索する設定にする場合に選択します。</p> <p>MAC アドレス パソコンのMACアドレスを直接設定する場合に選択して、MACアドレスを半角で入力します。</p>
⑦ PC データ追加	PC データを入力したパソコンをPCリストに追加します。
⑧ PC データ更新	選択したパソコンのデータベースを更新します。
⑨データの削除	選択したパソコンのデータベースを削除します。

[再読み込み] …… PCデータベース(詳細設定)の表示を更新します。

[PCデータ一覧] …… PCリストの一覧を表示します。

[戻る] …… 「PCデータベース」画面に戻ります。

[ヘルプ] …… 設定内容についての説明を表示します。



「PCデータ一覧」に登録可能なパソコン数は50です。

3 設定が終了したら、[戻る] をクリックします。

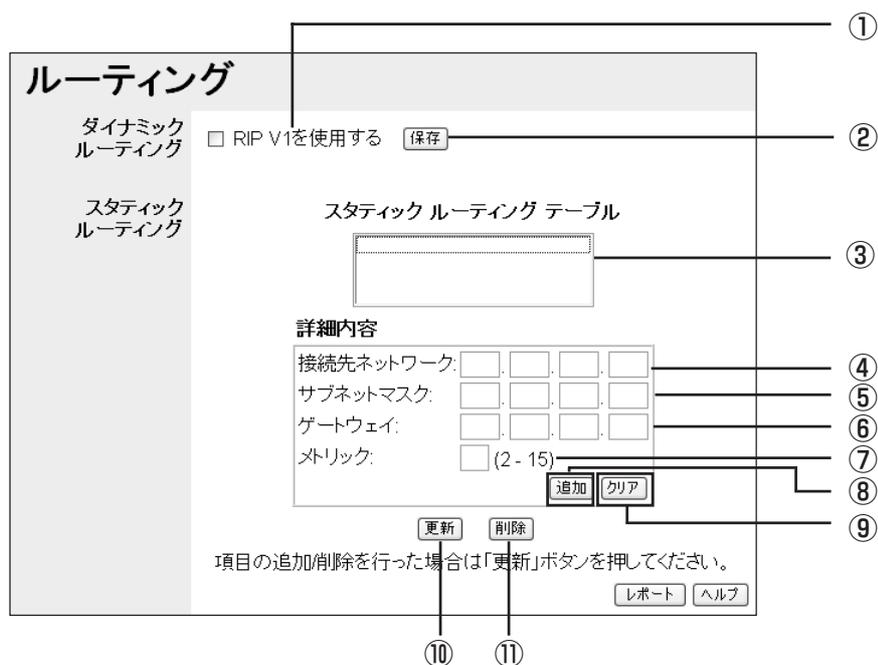
■ルーティング ～ルーティングテーブルを設定する～

LAN 上に他のルータまたはゲートウェイがある場合は、ルーティングの設定が必要です。通常は、RIP を使用することをお勧めします。



スタティック ルーティングテーブルを使用する際は、ルーティングの機能について理解する必要があります。詳しくは、ネットワーク管理者に確認してください。

- 1 メニューから [詳細設定] - 「ルーティング」 をクリックします。



項目名	内容
① RIP V1 を使用する	本製品で RIP を有効にするかどうかを選択します。 ※本製品では RIP V1 のみをサポートしています。
②保存	RIP の設定を保存します (スタティックルーティングテーブルには変更はありません)。
③スタティック ルーティングテーブル	設定されているスタティックルーティングテーブルの一覧を表示します。
④接続先ネットワーク	スタティックルーティングテーブルを設定する際の接続先ネットワークの IP アドレスを入力します。 ※入力可能な文字は、半角数字の 0～9 です。
⑤サブネットマスク	スタティックルーティングテーブルを設定する際の接続先ネットワークのサブネットマスクを入力します。 ※入力可能な文字は、半角数字の 0～9 です。
⑥ゲートウェイ	スタティックルーティングテーブルを設定する際の接続先と通信するために使用するゲートウェイの IP アドレスを入力します。 ※入力可能な文字は、半角数字の 0～9 です。

項目名	内容
⑦メトリック	接続先ネットワークにデータが届くまでに通過するルータの数です。2～15の間で設定してください。 ※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。
⑧追加	「詳細内容」欄の入力内容をスタティックルーティングテーブルに追加します。
⑨クリア	「詳細内容」欄の入力内容をクリアします。
⑩更新	選択したスタティックルーティングテーブルを「詳細内容」欄に入力した内容に更新します。
⑪削除	選択したスタティックルーティングテーブルを削除します。

[レポート] …… 設定されているすべてのルーティングテーブルを表示します。

[ヘルプ] …… 設定内容についての説明を表示します。



- 本製品の RIP 機能は、LAN 側のみとなります。
- 登録可能なルーティング数は 20 です。

※ 設定のしかたの詳細は、「その他のルーティング設定例」(P.96) をご覧ください。

■リモート設定 ～インターネット上から本製品の設定をする～

本製品をインターネット経由で設定できるようにします。

- 1 メニューから [詳細設定] - 「リモート設定」をクリックします。

リモート設定

PPPoE設定: アカウント1 ▼ 以下の項目はアカウントごとに設定します ①

リモート設定 本製品をインターネット経由で設定することができます。

リモート設定を使用する ②

ポート番号: 8080 (1 - 65534) ③

本製品に接続するためのIPアドレス: 222.148.80.95 ④

保存 キャンセル ヘルプ

※マルチPPPoE設定をしている場合の画面です。

項目名	内容
① PPPoE 設定	リモート設定を行うアカウント（接続先）を選択します。 ※マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示される項目です。
② リモート設定を使用する	インターネット経由で本製品の設定を可能にするか選択します。
③ ポート番号	インターネット経由で本製品にアクセスする際のポート番号を指定します。1～65534の範囲でポート番号を入力してください。 ※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。

項目名	内容
④本製品に接続するためのIPアドレス	インターネット経由で本製品の設定をする際に指定するIPアドレス（WAN側に割り当てられたもの）が表示されます。 ※本製品に接続するためのIPアドレスは、本製品のWAN側IPアドレスになります。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。

[キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。

[ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。

2 設定が終了したら、[保存] をクリックして設定を反映します。



インターネット経由で接続する際は、下記のようにIPアドレスの後ろにポート番号を指定します。

http:// 本製品に接続するためのIPアドレス:ポート番号



- ・ダイナミックIPアドレスを使用している場合、本製品に接続するためのIPアドレスが常に変更されてしまいます。接続する前に、本製品のWAN側IPアドレスを確認してください。
- ・「リモート設定を使用する」を有効に設定した場合、第三者からの不正アクセスやインターネット上への情報の漏洩などが考えられます。リモート設定を使用していないときは、「無効」に設定することをお勧めします。有効に設定した場合は、本製品へのログイン名やパスワードを工場出荷時のままにせず、変更設定することをお勧めします。
- ・Unnumbered IPによる接続を行うと、WAN側より本製品の設定ができます。セキュリティ上、「リモート設定を使用する」にチェックを付けて、ポート番号の変更を行ってください。

■その他各種設定

・マルチ PPPoE 接続以外の場合

1 メニューから [詳細設定] → 「その他各種設定」 をクリックします。

その他各種設定

時間設定

自動設定 ①
 手動設定

ダイレクトPPPoE ダイレクトPPPoEを許可する ②

IPv6ブリッジ IPv6ブリッジを有効にする ③

UPnP UPnPを有効にする ④
 UPnPを使って本製品の設定を変更する
 WAN側の切断機能を有効にする

MTU MTUを変更する: (1 - 1500) バイト ⑤
PPPoE接続時のみ使用できます

バックアップDNS ⑥
 バックアップDNSサーバ1:
 バックアップDNSサーバ2:
このDNSはWAN側設定で指定したDNSが無効の場合にのみ使用されます。

項目名	内容
①時間設定	本製品の内蔵時計を設定します。 自動設定 NTPサーバに接続し、自動的に時刻を設定します。 手動設定 手動で設定するときを選択します。 ※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。
②ダイレクト PPPoE	ダイレクト PPPoE (パソコンから直接 PPPoE 接続する) を使用するか選択します。
③ IPv6 ブリッジ	IPv6 ブリッジ (IPv6 プロトコルでの通信を透過する) を使用するか選択します。 ※ネットワーク環境が IPv6 に対応している必要があります。
④ UPnP	UPnP(Universal Plug and Play)機能によって自動的にLANに接続された装置を検出し認識させるかを設定します。 UPnP を有効にする UPnP 機能を使用するか選択します。 ※マルチ PPPoE 接続時は、表示されません。 ・ UPnP を使って本製品の設定を変更する UPnP機能を使用して、本製品の設定を変更するか選択します。 ※マルチ PPPoE 接続時は、表示されません。 ・ WAN 側の切断機能を有効にする UPnP機能を使用してWAN(インターネット)を切断するか選択します。
⑤ MTU を変更する	MTUの値を変更します。PPPoE接続の場合のみ、設定できます。通常はリモートサーバから自動的に設定されます。プロバイダから指示があったときのみ変更してください。 1～1500の間で設定してください。 ※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。
⑥バックアップ DNS	DNS (ドメインネーム サーバ) の IP アドレスを入力します。優先 DNS サーバが利用できない場合に、ここで入力した DNS サーバが使用されます。プロバイダに指定された場合に入力してください。指定されていない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角数字の0～9です。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。

[キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。

[ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。

2 設定が終了したら、[保存] をクリックして設定を反映します。

・マルチ PPPoE 接続の場合

1 メニューから [詳細設定] - 「その他各種設定」 をクリックします。

その他各種設定

時間設定 自動設定
 手動設定

ダイレクトPPPoE ダイレクトPPPoEを許可する

IPv6ブリッジ IPv6ブリッジを有効にする

UPnP アプリケーションで WAN側 IP を選択する
 WAN側IPのセッションを選択する

PPPoE設定: アカウント1
以下の項目はアカウントごとに設定します

UPnPを使用する
 WAN側の切断機能を有効にする

MTU MTUを変更する: 1454 (1 - 1500) バイト
PPPoE接続時のみ使用できます

バックアップDNS バックアップDNSサーバ1: [][][][]
 バックアップDNSサーバ2: [][][][]
このDNSはWAN側設定で指定したDNSが無効の場合にのみ使用されます。

[保存] [キャンセル] [ヘルプ]

項目名	内容
① UPnP	<p>UPnP(Universal Plug and Play)機能によって自動的にLANに接続された装置を検出し認識させるかを設定します。</p> <p>※以下、マルチ PPPoE 接続時のみに表示される項目です。</p> <p>アプリケーションで WAN 側 IP を選択する アプリケーションで、WAN 側 IP を選択する場合に選択します。</p> <p>WAN 側 IP のセッションを選択する UPnP 機能を使用するセッションを選択する場合に選択し、以下の項目をアカウントごとに設定します。</p> <p>PPPoE 設定 UPnP 設定するアカウントを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ UPnP を使用する UPnP 機能を使用するか選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ アカウント 1、2 の両方でチェックを付けた場合、アカウント 1 のみ有効になります。 ・ アカウント 2 のみ UPnP 機能を使用したい場合は、アカウント 1 のチェックを外し、アカウント 2 でチェックを付けてください。 ・ WAN 側の切断機能を有効にする UPnP 機能を使用して WAN(インターネット)を切断するか選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ マルチ PPPoE 接続時は、セッション 1 のアカウントに対してのみ有効です。

[保存] …………… 設定した内容を保存します。
 [キャンセル] … 設定内容を保存する前に限り、設定内容を変更する前の状態に戻します。
 [ヘルプ] …………… 設定内容についての説明を表示します。

 マルチ PPPoE 画面のその他の項目の説明は、P.87 と同じです。

2 設定が終了したら、[保存] をクリックして設定を反映します。

ネットワークゲームや音声／ビデオチャットなど、ネットワーク上から各パソコンに直接アクセスする必要がある場合は、本製品の設定を変更する必要があります。このPARTでは、本製品をより便利に活用していただくための設定方法について説明します。

ネットワークゲームをするには

ネットワークゲームをするには、ゲームサーバとデータの送受信を行うポートを、UPnP設定やスペシャルアプリケーション設定などで本製品に設定する必要があります。



回線業者によっては、ネットワークゲームに対応していない場合がありますので、ご注意ください。

■UPnPに対応したネットワークゲームの場合

本製品はUPnPに対応していますので、UPnPに対応したネットワークゲームであれば、自動的に本製品の設定が行われます。設定ユーティリティで次の設定を行います。

- 1 [詳細設定]-「その他各種設定」(P.86) をクリックします。
- 2 マルチ PPPoE 接続時は、「UPnP」の「WAN 側 IP のセッションを選択する」を選択して、「PPPoE 設定」で使用するアカウントを選択し、「UPnP を使用する」にチェックを入れます。マルチ PPPoE 接続時以外は、「UPnP を有効にする」と「UPnP を使って本製品の設定を変更する」にチェックを入れます。



- Windows にて、ユニバーサル プラグ アンド プレイ (UPnP) に関するセキュリティの脆弱性が発見されています。ご利用になる前に、Windows の修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法は、Microsoft にお問い合わせください。
- UPnP がサポートされている OS は、Windows XP / Me のみです。

■UPnPに対応していないネットワークゲームの場合

UPnPに対応していないネットワークゲームの場合は、次のいずれかの方法で設定します。

●ネットワークゲームが使用するポート番号が分かる場合

使用するポート番号、タイプが分かっている場合は、設定ユーティリティで次の設定を行います。

- 1 [詳細設定] - 「アドバンスド インターネット」 をクリックします。
※マルチ PPPoE 接続時は、セッション 1 のアカウントのみ使用できます。
- 2 [スペシャルアプリケーション] をクリックします。
- 3 「名称」 にアプリケーション名を入力します。
- 4 使用するサーバに合わせて、「タイプ」 にプロトコルを選択します。
- 5 使用するサーバに合わせて「入力ポート番号」と「出力ポート番号」の「開始」と「終了」にポート番号を入力します。
- 6 「チェックボックス」 にチェックを入れ、[保存] をクリックします。
- 7 [終了] をクリックして、「アドバンスド インターネット」 画面に戻ります。
- 8 [保存] をクリックします。



- ・ネットワークゲームが使用するポート番号、タイプ（プロトコルのタイプ）については、各ゲームの製造元にお問い合わせください。
- ・詳細は「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」 「アドバンスド インターネット」 (P.70) をご覧ください。

●ネットワークゲームが使用するポート番号が分からない、または毎回変更される場合

DMZ 機能を使います。設定ユーティリティで次の設定を行います。

- 1 [詳細設定] - 「アドバンスド インターネット」 (P.70) をクリックします。
※マルチ PPPoE 接続時は、「PPPoE 設定」 で、使用するアカウントを選択してください。
- 2 「DMZ を使用する」 にチェックを入れ、ネットワークゲームをするパソコンを選択します。
- 3 [保存] をクリックします。



DMZ機能の対象となっているパソコンは、本製品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

音声／ビデオチャットなどのツールを使うには

ここでは、代表的なソフトとして、Windows Messenger、MSN Messenger を利用する場合の設定を説明しています。本製品は、Microsoft Windows Messenger*¹、およびMSN Messenger*²に対応しています。各アプリケーションの使い方は、ヘルプやホームページをご覧ください。

* 1 : Windows Messenger Ver 5.0での動作を確認しております。

* 2 : MSN Messenger Ver 7.0での動作を確認しております。

■Windows Messenger、MSN Messenger

本製品はUPnPに対応していますので、Windows Messenger、MSN Messenger を利用する際は、自動的に本製品の設定が行われます。

- 1 設定ユーティリティの [詳細設定] - 「その他各種設定」をクリックして、画面を開きます。
- 2 マルチPPPoE接続の場合は、「アプリケーションでWAN側IPを選択する」にチェックを入れ、「PPPoE設定」でUPnPを設定するアカウントを選択し、「UPnPを使用する」にチェックを入れます。
- 3 マルチPPPoE接続以外の場合は、「UPnPを有効にする」、「UPnPを使って本製品の設定を変更する」にチェックを入れます。
- 4 設定が終了したら [保存] をクリックします。

詳細は「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」「その他各種設定」(P.86)をご覧ください。



注意 1台のパソコンでのみ使用できます。

外部にサーバを公開するには

■バーチャルサーバを使用する

バーチャルサーバ機能を利用して外部にサーバを公開する場合の設定例です。

- 1 [詳細設定] - 「バーチャルサーバ」をクリックします。
※マルチ PPPoE 接続時は、「PPPoE 設定」で、使用するアカウントを選択してください。
- 2 利用するサーバを選択します。
- 3 「プロパティ」の「有効」にチェックを入れます。
- 4 サーバとして公開するパソコンを「接続先」のリストから選択します。
- 5 [更新] をクリックして、設定を反映します。

リスト内に利用したいサーバがない場合は、以下のようにしてサーバを追加します。

- 1 [詳細設定] - 「バーチャルサーバ」をクリックします。
- 2 任意のサーバ名を入力します。
- 3 プロトコル、ポート番号を使用するサーバに合わせて入力します。
- 4 [追加] をクリックします。
- 5 ステータス LED が消灯したことを確認し、「サーバ」のリスト内に3で入力したサーバ名があることを確認してください。



「有効」にチェックを入れて、サーバとして公開するパソコンを「接続先」のリストから選択して [追加] をクリックすると、追加と更新が行えます。

項目の詳細は、「PART3 設定ユーティリティをしてみよう」 「バーチャルサーバ」 (P.72) をご覧ください。

■ダイナミックDNSを使用してドメイン名でアクセスする

インターネット側からドメイン名を使用して、バーチャルサーバなどに接続する場合の設定例です。

- 1 [詳細設定] - 「ダイナミック DNS」をクリックします。
※マルチ PPPoE 接続時は、「PPPoE 設定」で、使用するアカウントを選択してください。
- 2 「DynDNS.org」(無料サービス、一部有料) または 「IvyNetWork」(有料サービス) の「こちら」をクリックして、登録を行います。登録が完了すると、ユーザー登録確認メールが、E-Mail で送られてきます。
- 3 本製品の「ダイナミック DNS」画面に戻り、E-mail の内容を確認して、「ログイン名」、「ログインパスワード」および「ドメイン名」を入力します。
- 4 [保存] をクリックして、設定を反映します。

項目の詳細は「PART3 設定ユーティリティをしてみよう」 「ダイナミック DNS」 (P.74) をご覧ください。

マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには

プロバイダと、フレッツ・スクウェア／フレッツ・グループアクセス／フレッツ・グループを利用する場合の設定例です。

■プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する

通常はプロバイダに接続し、「flets」のドメイン名が含まれた URL が入力されたときに「フレッツ・スクウェア」に自動的に接続します。

例：通常のプロバイダへの接続設定を「セッション1のアカウント1」に、「フレッツ・スクウェア」への接続設定を「セッション2のアカウント2」に設定する場合

- 1 通常のプロバイダの設定を行います。[WAN側設定] をクリックし、「接続タイプ」で「マルチ PPPoE」を選択して、[次へ] をクリックします。
- 2 [WAN側設定－マルチ PPPoE] の「PPPoE 設定」で [アカウント1] をクリックします。
- 3 「セッション選択」接続指定は「セッション1」を選択し、「ユーザー名」、「パスワード」にプロバイダから通知された「ユーザー名」「パスワード」を入力し、「オプション」、「DNS」の各設定を行い、[保存] をクリックし、[戻る] をクリックします。
- 4 次にフレッツ・スクウェアの設定を行います。「マルチ PPPoE 設定」で [アカウント2] をクリックします。
- 5 「セッション選択」は「セッション2」を選択し、「ユーザー名」「パスワード」は、それぞれ以下の表の内容で入力します。「DNS」は「自動取得」を選択します。



「セッション2」を選択すると、「接続先設定」の設定ができるようになります。

	NTT 東日本のエリアのお客様	NTT 西日本のエリアのお客様
ユーザー名	guest@flets	flets@flets
パスワード	guest	flets

(2005年6月現在)

- 6 「接続先設定」の [ドメイン追加] をクリックすると、「接続先設定」画面が表示されます。
- 7 「ドメイン名」に「.flets/」を入力し、[追加] をクリックすると、リストに登録されます。
- 8 リストに登録された「.flets/」が反転表示になっていることを確認して [保存] をクリックし、設定内容を保存します。
- 9 [閉じる] をクリックし、マルチ PPPoE の設定画面に戻ります。
- 10 [保存] をクリックし、設定内容を反映します。

項目の詳細は、「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」「マルチ PPPoE 接続の場合」(P.39)をご覧ください。

■プロバイダとフレッツ・グループアクセス(NTT東日本)／フレッツ・グループ(NTT西日本)のLAN型払い出しに接続する

通常はプロバイダに接続し、フレッツ・グループアクセス (NTT 東日本) ／フレッツ・グループ (NTT西日本) のLAN型払い出しを利用して、それぞれのパソコンのファイル共有などが必要な場合に、フレッツ・グループアクセス (NTT 東日本) ／フレッツ・グループ (NTT 西日本) に自動的に接続されます。フレッツ・グループアクセス (NTT 東日本) ／フレッツ・グループ (NTT 西日本) を利用するには、「セッション2」に設定を行うことで利用可能になります。

例：通常のプロバイダへの接続設定を「セッション1のアカウント1」に、グループアクセス (NTT 東日本) ／フレッツ・グループ (NTT 西日本) への接続設定を「セッション2のアカウント2」に設定する場合

- 1 通常のプロバイダの設定を行います。前ページの「プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する」の手順1～3を行います。
- 2 フレッツ・グループアクセス (NTT 東日本) ／フレッツ・グループ (NTT 西日本) のLAN型払い出しの設定を行います。
「PPPoE 設定」で「アカウント2」をクリックします。
- 3 「セッション選択」は「セッション2」を選択し、グループ管理者から通知された「ユーザー名」、「パスワード」を入力します。



「セッション2」を選択すると、「LANTYPE」、「接続先設定」の設定ができるようになります。

- 4 オプションは、任意の「接続方法」を選択します。
- 5 「LAN TYPE」の「有効」にチェックを入れ、グループ管理者から通知されている、「IPアドレス」、「サブネットマスク」をそれぞれ入力します。
- 6 「DNS」を「自動取得」にします。
- 7 「接続先設定」の「IPアドレス追加」をクリックすると、「接続先設定」画面が表示されます。
- 8 「IPアドレス」にグループ管理者から通知された接続相手のIPアドレスを入力し、「追加」をクリックすると、リストに登録されます。



接続先が複数ある場合はすべての接続先を登録してください。接続先設定は、20個まで登録できます。

- 9 リストに登録された「IPアドレス」を反転表示にして、「保存」をクリックし、設定内容を反映させます。
- 10 「閉じる」をクリックし、マルチPPPoEの設定画面に戻ります。
- 11 「接続先設定」の「NetBios 有効」にチェックを入れます。
- 12 「保存」をクリックし、設定内容を反映させます。

項目の詳細は、「PART3 設定ユーティリティをしてみよう」 「マルチPPPoE接続の場合」 (P.39) をご覧ください。



- IPアドレス範囲として複数のIPアドレスが割り当てられていて、それぞれのパソコンに固定IPアドレスを割り当てる場合は、パソコンのネットワーク設定 (IPアドレス、ゲートウェイ、DNSなど) が必要です。
- NetBiosを使用してコンピュータを指定する場合は、WINSサーバまたはLMHOSTSが必要です。

複数固定IPサービスを利用するには(Unnumbered利用)

各プロバイダが提供する複数固定IPアドレスサービスを利用することにより、プロバイダから割り当てられた複数のグローバル固定IPアドレスを本製品および本製品に接続されたパソコンにそれぞれ設定して、サーバ公開などが可能になります。

例：本製品の元の設定…IPアドレスが「192.168.1.1」サブネットマスクが「255.255.255.0」で、設定するパソコンのIPアドレスを「XXX.〇〇〇.□□□.115」と設定する場合

項目名	プロバイダからの情報
IPアドレス	XXX.〇〇〇.□□□.113～XXX.〇〇〇.□□□.120
サブネットマスク	255.255.255.◆◆◆
DNSサーバ	12.34.56.12

- 1 [WAN側設定] をクリックし、「接続タイプ」から「PPPoE/Unnumbered IP」を選択し、[次へ] をクリックして、画面を表示させます。
- 2 アカウントの、「PPPoE 接続名」、「ユーザー名」、「パスワード」を入力します。
- 3 IPアドレスは「Unnumbered IP」のラジオボタンをクリックし、以下のように設定します。
 - ・IPアドレス → 「XXX.〇〇〇.□□□.114」と入力します。
(プロバイダから割り当てられた2番目のIPアドレスを入力します。)
 - ・サブネットマスク → 「255.255.255.◆◆◆」と入力します。
 - ・タイプ → 「Unnumbered IP」を選択します。
- 4 優先DNSサーバのラジオボタンをクリックして、「12.34.56.12」と入力します。
- 5 [保存] をクリックします。
- 6 設定するパソコンの固定IPアドレスを以下のように変更します。
 - ・IPアドレス → 「XXX.〇〇〇.□□□.115」(設定したいIPアドレス)
 - ・サブネットマスク → 「255.255.255.◆◆◆」
 - ・デフォルトゲートウェイ → 「XXX.〇〇〇.□□□.114」(ルータのIPアドレスと同じ)



パソコンのネットワーク設定の方法は各OSの取扱説明書をご覧ください。

- 7 本製品の設定画面を再度見る場合は、ブラウザ画面で入力する数値を、「WAN側設定」で設定した「XXX.〇〇〇.□□□.114」を入力します。

項目の詳細は、「PART3 設定ユーティリティを見よう」 「Unnumbered IP機能によるPPPoE接続の場合」(P.48) をご覧ください。



注意

- ・Unnumberedを利用する場合は、LAN側に接続されているパソコンのIPアドレスを固定IPアドレスに設定する必要があります。
- ・Unnumberedを利用する場合は、マルチPPPoE接続を使用することができません。

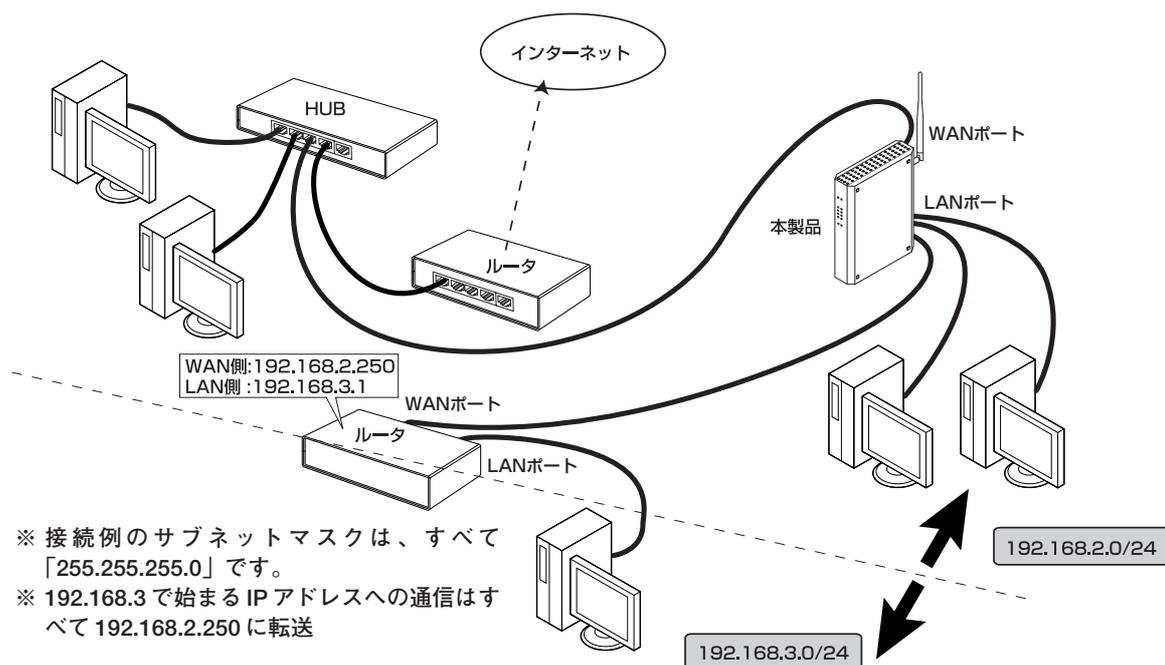
その他のルーティング設定例

ここでは本製品の下位にルータを追加する場合を説明します。

■ スタティックルートの設定

隣接するルータが RIP に対応していない場合は、手動で通信経路を指定します。

例：「ネットワーク・アドレス：192.168.3.0、サブネットマスク：255.255.255.0」というネットワークを追加する。



- 1 設定画面から [詳細設定] - 「ルーティング」画面を開き、以下の設定を行います。

ルーティング

ダイナミックルーティング RIP V1を使用する

スタティックルーティング

スタティック ルーティング テーブル

1) 192.168.3.0

ここに追加設定が表示されます

詳細内容

接続先ネットワーク:	192	168	3	0
サブネットマスク:	255	255	255	0
ゲートウェイ:	192	168	2	250
メトリック:	2 (2 - 15)			

① ② ③ ④

ここをクリックして追加

項目の追加/削除を行った場合は「更新」ボタンを押してください。

- ① 「接続先ネットワーク」は、通信の宛先となるネットワークのアドレスを入力してください。
(例:192.168.3.0)
 - ② 「サブネットマスク」は、「接続先ネットワーク」欄に入力したアドレスのどこまでがネットワークアドレスであるかを表す数値です。
(例:255.255.255.0)
 - ③ 「ゲートウェイ」は、「接続先ネットワーク」欄と「サブネットマスク」欄で指定した宛先への経路となる、下位に追加するルータのWAN側IPアドレスを入力してください。
(例:192.168.2.250)
 - ④ 「メトリック」は、本製品に接続されているパソコンから下位のルータに接続されているパソコンにデータが届くまでの間にあるルータの数（本製品を含む）を入力します。
(例:2を入力)
- 3 「追加」をクリックしてしばらくすると、「スタティックルーティングテーブル」リストに設定が追加されます。



「追加」や「削除」をした後は「更新」をクリックしてください。

項目の詳細は、「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」「ルーティング」(P.84)をご覧ください。

■ RIPの設定

LAN側に他のルータが存在する場合は、そのルーティング経路を本製品に設定する必要があります。本製品はダイナミックルーティングプロトコルであるRIP機能に対応していますので、隣接するルータとRIPによって、自動的に経路の情報を交換することができます。



- ・隣接するルータがRIPに対応していないときは、手動でルート設定をする必要があります。「スタティックルートの設定」(前ページ)。
- ・本製品のRIP機能はLAN側のみに設定できます。
- ・本製品はRIP V1のみに対応しています。

- 1 設定画面から「詳細設定」-「ルーティング」をクリックし、「RIP V1を使用する」にチェックを入れます。

チェックを入れます

「保存」をクリックします

- 2 「保存」をクリックします。

項目の詳細は、「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」「ルーティング」(P.84)をご覧ください。

本製品を使っていて「困ったな」「うまく動かない…」と思ったとき、疑問があったときは、このPARTで解決方法を探してください。

解決のステップ

1. 取扱説明書や契約書を確認する。管理者に確認する



それでも解決しないときは…

2. このPARTのQ&Aを確認する

【トラブルは？】

- インターネットに接続できない
 - ①プロバイダとの契約や回線工事は完了していますか？
 - ②電源は入っていますか？
 - ③回線終端装置（モデムなど）⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？
 - ④ケーブル（回線終端装置（モデムなど）⇔本製品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？
 - ⑤その他の接続は大丈夫ですか？
 - ⑥パソコンのネットワークアダプタは正しく動作していますか？
 - ⑦パソコンのネットワーク設定は正しく行われていますか？
 - ⑧プロバイダからの入力事項を正しく設定しましたか？
 - ⑨Webブラウザの設定は正しいですか？
- パソコン同士が繋がらない
 - ・ファイルやプリンタが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？
- 本製品の設定ユーティリティが起動しない
- 本製品の設定ユーティリティにログインできない
- ファームウェアのアップデートに失敗した

【疑問は？】

- パソコンのIPアドレスを調べたい
- 本製品のパスワードを変更したい
- 最新のファームウェアを入手してアップデートしたい
- 本製品の設定のバックアップを取る。元にもどす
- 本製品を再起動する
- 本製品を工場出荷時の状態にもどす



それでも解決しないときは…

3. お取扱相談センタに問い合わせる

取扱説明書や契約書を再確認する／管理者に確認する

本書以外にもプロバイダ契約時の設定取扱説明書、回線終端装置（モデムなど）の取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書をお手元にご用意ください。ネットワークにつながらない原因は複雑なため、本製品の設定が正しくても、他の設定が間違っていたり、外部の装置の問題で正しくつながらないこともあります。下記の「インターネットに接続できない」の項目をすべて確認してもつながらない場合は、プロバイダ、パソコンのメーカーなどに問い合わせしてみてください。なお、企業でお使いの方はネットワークの設定がオフィスによって決められていることがあります。接続できない場合はネットワーク管理部門や部内のネットワーク管理者などに確認してください。

Q&A

■インターネットに接続できない

以下の項目については、順番に確認し、□にチェックを付けてください。

- ①プロバイダとの契約や回線工事は完了していますか？
 - 回線適合調査でサービス可能と認定され、回線工事は完了したか
 - プロバイダの工事は完了したか
- ②電源は入っていますか？

各接続機器の電源LEDがついているか、またはACアダプタなどが外れていないかを確認してください。

 - 回線終端装置（モデムなど）に電源が入っているか（ACアダプタが外れていないか）
 - 本製品に電源が入っているか（ACアダプタが外れていないか）
- ③回線終端装置（モデムなど）⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？
 - 回線終端装置（モデムなど）とケーブル（電話回線用モジュラケーブル、同軸ケーブル、光ケーブル）が正しく接続されているか

詳しい接続については、回線終端装置（モデムなど）に付属の取扱説明書をお読みください。
- ④ケーブル（回線終端装置（モデムなど）⇔本製品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？
 - 本製品と回線終端装置（モデムなど）はLANケーブルで正しく接続されているか

本製品と回線終端装置（モデムなど）が正常に接続されているとWAN LEDが点灯します。点灯していない場合は、ケーブルを差し直すなどしてみてください。また、回線終端装置（モデムなど）にMDI/MDI-Xを切り替えるスイッチがあれば切り替えてみてください。

 - 本製品とパソコンはLANケーブルで正しく接続されているか

パソコンと本製品が正常に接続されている場合は、パソコンに電源が入っていると本製品の前面にある各LANポートの通信状態LEDが点灯します（100BASE-TX時は100M LEDも点灯）。パソコンにLANボードまたはLANカードがきちんと挿入されているか、LANポートに正しくケーブルが接続されているかも再度確認してください。
- ⑤その他の接続は大丈夫ですか？

フレッツ・ADSLの場合

 - スプリッタの出力ポートの接続は正しいか（電話用とADSLモデム用があります）

ADSLモデム、スプリッタの取扱説明書をご覧になり確認してください。

⑥パソコンのネットワークアダプタは正しく動作していますか？

- パソコンのネットワークアダプタのドライバの設定は正しいか
各OSの「システムのプロパティ」内の「デバイスマネージャ」で、ネットワークアダプタが正常に動作していることを再度確認してください。
「システムのプロパティ」の表示のしかたは、各OSのヘルプまたはご使用のLANアダプタの取扱説明書をご覧ください。

⑦パソコンのネットワーク設定は正しく行われていますか？

- パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか
「簡単ルーター接続ソフト」の最初の画面で「取扱説明書」をクリックして、「手動セットアップ」の項をご覧ください。パソコンのTCP/IPが正しく設定されていることを再度確認してください。
- 割り当てられた固定IPアドレスなどが設定されているか
プロバイダから複数の固定IPアドレスを割り当てられている場合は、下記の手順でそれぞれのパソコンのネットワーク設定を行ってください。

・ Windows XP の場合

「簡単ルーター接続ソフト」の最初の画面で「取扱説明書」をクリックして、「手動セットアップ」－「Windows XP」の手順5で、「次のIPアドレスを使う」を選択して、割り当てられた「IPアドレス」「サブネットマスク」「ゲートウェイ」を設定してください。

・ Windows 2000 の場合

「簡単ルーター接続ソフト」の最初の画面で「取扱説明書」をクリックして、「手動セットアップ」－「Windows 2000」の手順5で、「次のIPアドレスを使う」を選択して、割り当てられた「IPアドレス」「サブネットマスク」「ゲートウェイ」を設定してください。

・ Windows Me / 98SE の場合

「簡単ルーター接続ソフト」の最初の画面で「取扱説明書」をクリックして、「手動セットアップ」－「Windows Me」または「Windows 98SE」の手順4で、「IPアドレスを指定」を選択して、割り当てられた「IPアドレス」「サブネットマスク」を設定し、「ゲートウェイ」タブをクリックして、割り当てられた「ゲートウェイ」を設定します。

⑧プロバイダからの設定事項を正しく入力しましたか？

- 契約時の設定事項を本製品およびパソコンに正しく入力したか
「PART2 ネットワークに接続しよう」「ルータの設定をする」(P.28)で行ったプロバイダからの設定事項をすべて設定ユーティリティに正しく入力しないとインターネットには接続できません。パスワードは入力を間違っても画面上で確かめることができませんので、再度入力をやり直してみてください。大文字／小文字が区別される場合もありますので注意してください。

⑨ Web ブラウザの設定は正しいですか？

- Web ブラウザの設定項目は正しいか
Webブラウザの設定についてはプロバイダ契約時の取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書やOSのヘルプなどをご覧ください。
Windows 98SEをお使いの場合、はじめてインターネットに接続すると、インターネット接続ウィザードが表示されます。その場合、次の手順で設定してください。

- 1 「インターネット接続を手動で設定するか、ローカルエリアネットワーク (LAN) を使って接続します」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 2 「ローカルエリアネットワーク (LAN) を使って接続します」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 3 「プロキシサーバーの自動検出」のチェックボックスをクリックしてチェックを外します。
- 4 「インターネットメールアカウントの設定」画面で「いいえ」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 5 「完了」をクリックします。

パソコンをダイヤルアップ環境で利用されていた方は、お使いのOSによってはWebブラウザの設定を変更する必要があります。プロバイダ契約時の取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書やOSのヘルプなどをご覧ください。

■パソコン同士が繋がらない

- ・ファイルやプリンタが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？

パソコンのネットワーク共有サービスの設定を行う

本製品のLANポートに接続されたパソコン同士がデータのやり取りをするには、共有ネットワークの設定が必要です。複数台のパソコンでデータのやり取りをする場合、WindowsではMicrosoftネットワーク共有サービスを使ったワークグループ接続（ピアツーピア接続）が一般的です。設定方法については、各OSのヘルプをご覧ください。

■本製品の設定ユーティリティが起動しない

- ・パソコンのネットワーク設定は正しくできていますか？

パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか

「簡単ルーター接続ソフト」の最初の画面で [取扱説明書] をクリックして、[手動セットアップ] の項をご覧ください。パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか再度確認してください。

- ・プロキシサーバを使う設定になっていませんか？

Webブラウザのプロキシサーバの設定は正しいか

「簡単ルーター接続ソフト」の最初の画面で [取扱説明書] をクリックして、[手動セットアップ] の項をご覧ください。Webブラウザでプロキシサーバを使用しない設定にしてください。

- ・すでにBフレッツ／フレッツ・ADSLに接続していた場合は

これまでパソコンにADSLモデムなどを直接接続して、Bフレッツ／フレッツ・ADSLに接続していた場合は、次の点を確認してみてください。

Windows XPで、PPPoE接続の設定がされていませんか？

Windows XPの「コントロールパネル」－「ネットワーク接続」で、「広帯域」の接続が作成されていると、ルータの設定ができません。「広帯域」の接続を削除してください。

「フレッツ接続ツール」を使用していませんか？

NTTより配布されている「フレッツ接続ツール」を使用して、Bフレッツ／フレッツ・ADSLに接続するように設定されていると、ルータの設定ができません。「フレッツ接続ツール」を削除してください。

■本製品の設定ユーティリティにログインできない

- ・別のパソコンがログインしていませんか？

別のパソコンがログインしていないか確認してください。別のパソコンがログアウトしたら、もう一度ログインしなおしてください。

- ・パスワードを忘れた

本製品を工場出荷時の状態に戻してください。パスワードがクリアされます。本製品を工場出荷時の状態に戻す方法は、このPARTの「本製品を工場出荷時の状態に戻したい（初期化）」(P.108) をご覧ください。パスワードを設定したい場合は、このPARTの「本製品のログイン名（ユーザー名）、パスワードを変更したい」(P.103) をご覧になり、再設定してください。



本製品を工場出荷時の状態に戻すと、パスワードだけでなく、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいますので、再設定が必要です。ご注意ください。

■ファームウェアのアップデートに失敗した

本製品を工場出荷時の状態に戻してから、再度、ファームウェアのアップデートを行ってください。本製品を工場出荷時の状態に戻す方法は、このPARTの「本製品を工場出荷時の状態に戻したい(初期化)」(P.108)をご覧ください。



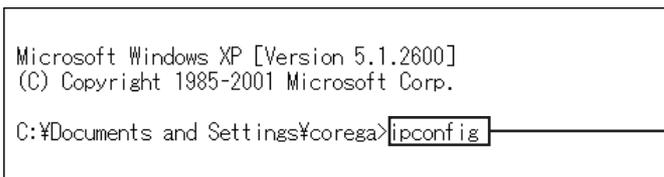
本製品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいますので、再設定が必要です。ご注意ください。

■パソコンのIPアドレスを調べたい

本製品よりパソコンに割り当てられたIPアドレスを調べる場合は、次の方法で行ってください。

● Windows XP / 2000 の場合

- 1 [スタート] - 「すべてのプログラム」(Windows 2000の場合は「プログラム」) - 「アクセサリ」 - 「コマンドプロンプト」をクリックします。
- 2 キーボードから「ipconfig」と入力して、「Enter」キーを押します。パソコンのIPアドレスが表示されます。



「ipconfig」と入力します
※画面例

「C:\¥Documents and Settings¥corega」の部分は、パソコンの使用環境によって表示が異なります。

- 3 IPアドレスを確認します。



IPアドレスが表示されます
※正しく表示されない場合は、「ipconfig /renew」と入力して、「Enter」キーを押します(■は半角スペースを入力します)。

● Windows Me / 98SE の場合

- 1 [スタート] - 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 2 「名前」の欄に「winipcfg」と入力して、[OK] をクリックします。
- 3 パソコンで使用しているネットワークアダプタを選択します。パソコンのIPアドレスが表示されます。正しく表示されない場合は、[解放] をクリックした後、[すべて書き換え] をクリックしてください。



①ご使用のネットワークアダプタを選択します
※実際に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。

②確認します

■本製品のログイン名(ユーザー名)、パスワードを変更したい

本製品のログイン名 (ユーザー名)、パスワードは、次の手順で変更できます。

- 1 設定ユーティリティを起動し、[パスワード設定] をクリックします。

パスワード設定

ログイン 本製品へのログイン名とパスワードを設定します。

ログイン名:

新しいパスワード:

パスワードの確認:

- ① ログイン名 (工場出荷時は「root」) を入力します
- ② 新しく設定するパスワードを入力します
- ③ 確認のため②で入力したパスワードを再度入力します
- ④ [保存] をクリックします



- ・工場出荷時の状態では、パスワードは設定されていません。
- ・入力したパスワードは、画面上では「●」または「*」で表示されます。入力ミスのないように注意してください。
- ・「”」および「“」以降に入力した文字は、保存されません。
※入力可能な文字は、ログイン名は半角で19文字まで、パスワードは半角で9文字までです。
- ・ログイン名およびパスワードで空白を設定すると、認証を行わずに設定ユーティリティにアクセスすることができますが、セキュリティが弱くなりますので、ご注意ください。

■最新のファームウェアを入手してアップデートしたい

本製品の機能強化のため、予告なくファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアは <http://www.ntt-west.co.jp/kiki> から入手してください。



- ・更新するファームウェアのバージョンによっては、更新前のお客様が設定されたデータが反映できない場合があります。
- ・ファームウェアをアップデートする前に、本製品の設定内容をメモしておいてください。
- ・ファームウェアのアップデート中は、他の操作を行ったり、本製品の電源を切ったりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗したり、本製品の故障の原因となる場合があります。
- ・ファームウェアの更新は、アップデートに用いるパソコンと本製品を有線で接続するか、無線で接続する場合はアップデートに用いるパソコンと本製品を近付けるなどして、通信の安定した状態で行ってください。

ここでは例として「C:¥corega」(Cドライブのcoregaフォルダ) に「firm.bin」を保存した場合で説明します。

- 1 設定ユーティリティを起動し、[詳細設定] をクリックします。

2 [ファームウェア更新] をクリックします。

状態表示

WAN側	接続タイプ:	PPPoE
	モデムの状態:	ON
	接続状態:	接続中
	WAN側 IPアドレス:	219.160.130.199
	セッション2:	222.224.155.32

LAN側	LAN側 IPアドレス:	192.168.1.1
	サブネットマスク:	255.255.255.0
	DHCPサーバ:	ON

システム	デバイス名:	XXXXXXXXXX
	ファームウェアバージョン:	Version X.XX

「設定保存」で保存を行った設定ファイルを使用してルータの設定を復元させる場合は、「ファームウェア更新」を押して保存した設定ファイルを読み込みます。

クリックします

3 [参照] をクリックします。

ファームウェア更新

ファームウェア更新用のファイルは、あらかじめLAN上のパソコンに保存しておく必要があります。

パスワード:

ファームウェア ファイル:

クリックします

4 [C:\corega] 内の「firm.bin」を選択し、[開く] をクリックします。

ファイルの選択

ファイルの場所: corega

最近使ったファイル

デスクトップ

マイドキュメント

マイコンピュータ

マイネットワーク

firm.bin

ファイル名(N): firm.bin

ファイルの種類(T): すべてのファイル (*.*)

① 「firm.bin」を選択します

② [開く] をクリックします

5 パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してから [更新] をクリックします。

ファームウェア更新

ファームウェア更新用のファイルは、あらかじめLAN上のパソコンに保存しておく必要があります。

パスワード:

ファームウェア ファイル: C:\corega#firm.bin

① パスワードを設定している場合はパスワードを入力します

※ 工場出荷時は設定されていません。

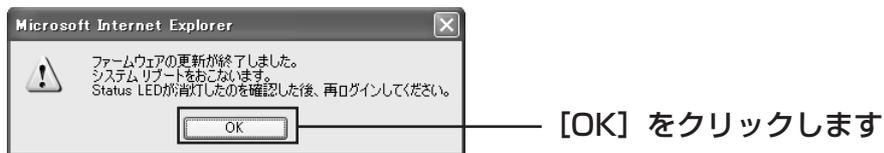
② [更新] をクリックします

- 6 次のダイアログボックスが表示されたら [OK] をクリックします。ファームウェアの更新処理が開始されます。



ファームウェアのアップデート中は、ユーティリティを強制的に終了させないでください。故障の原因になる恐れがあります。

- 7 次のダイアログボックスが表示されたら本体前面のステータス LEDが消灯していることを確認し [OK] をクリックします。



- 8 「ウィンドウは、表示中の Web ページにより閉じられようとしています。このウィンドウを閉じますか？」と表示されたら [はい] をクリックします。

- 9 本製品を再起動してください。詳しくは「本製品を再起動したい」(P.107) をご覧ください。

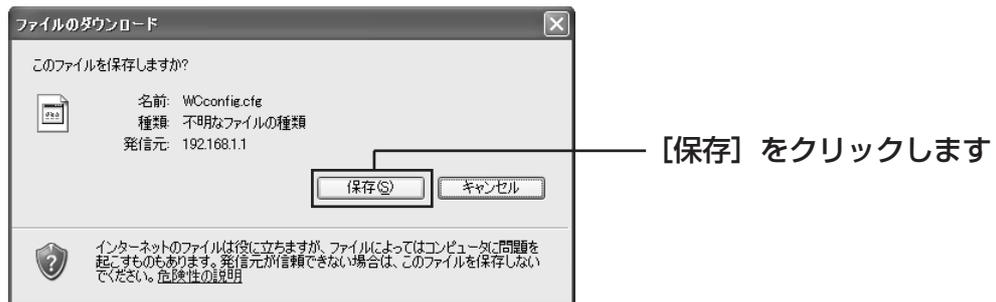
以上で、ファームウェアの更新は終了です。

■本製品の設定を保存したい／元に戻したい

現在の設定内容を保存し、何らかの原因で設定内容が壊れたりした場合に、保存しておいたバックアップファイルを使用して、設定を元に戻すことができます。

●設定を保存する

- 1 設定ユーティリティを起動し、[状態表示] をクリックします。
- 2 [設定保存] をクリックします。
- 3 下の画面が表示されたら、[保存] をクリックします。



- 4 「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されますので、保存先を指定して [保存] をクリックします。



ファイル名は任意につけることができます。

●設定を元に戻す

「最新のファームウェアを入手してアップデートしたい」(P.103) と手順は同じです。手順4のファイルを選択するとき、上記「設定を保存する」で保存したファイルを選択してください。

■本製品を再起動したい

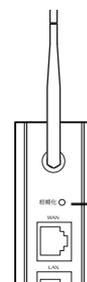
設定を変更した場合には、本製品を再起動して設定内容を反映させてください。



再起動終了時のLEDの動作は、「無線LAN」が「有効」に設定されている場合の動作です。「無線LAN」を「無効」にしている場合は、無線LEDは点灯しません。

●初期化スイッチを使う

- 1 本製品の電源が入っている状態で、ゼムクリップなど堅くて先の細いものを使用し、本製品背面にある初期化スイッチを約3秒程押します。ステータスLEDが点灯します。
- 2 LEDがすべて消灯して、電源LED、接続されているLAN側の100M LEDと通信状態LED、無線LED、WAN LEDが再度点灯したら、再起動の終了です。



初期化スイッチ

〈背面〉

●設定ユーティリティを使って再起動する

- 1 設定ユーティリティを起動し、[状態表示] をクリックします。
- 2 [リセット機能] をクリックします。

状態表示	
WAN側	接続タイプ: PPPoE
	モデムの状態: ON
	接続状態: 接続中
	セッション2: <input type="button" value="再読み込み"/> <input type="button" value="詳細"/>
LAN側	LAN側 IPアドレス: 192.168.1.1
	サブネットマスク: 255.255.255.0
	DHCPサーバ: ON
システム	デバイス名: XXXXXXXX
	ファームウェアバージョン: Version X.XX <input type="button" value="ファームウェア更新"/>
<input type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="システムデータ"/> <input type="button" value="リセット機能"/>	
<small>「設定保存」で保存を行った設定ファイルを使用してルータの設定を復元させる場合は、「ファームウェア更新」を押して保存した設定ファイルを読み込みます。</small>	
<input type="button" value="ログ機能"/> <input type="button" value="E-Mail機能"/> <input type="button" value="ヘルプ"/>	

[リセット機能] をクリックします

- 3 「システムリブート」の [実行] をクリックします。

リセット機能	
再起動	<input type="button" value="実行"/>
本製品の再起動を行うため、すべてのネットワーク接続が一時的に切断されます。	
工場出荷時の状態に戻す	<input type="button" value="実行"/>
本製品の設定内容がすべて工場出荷時の状態に戻ります。 登録されている接続情報は消去されます	
<input type="button" value="終了"/>	

[実行] をクリックします

「システムリブートをおこないます。」と表示されますので、[OK] をクリックします。ステータスLEDが点灯します。

LEDがすべて消灯して、電源LED、接続されているLAN側の100M LEDと通信状態LED、無線LED、WAN LEDが再度点灯したら、再起動の終了です。

■本製品を工場出荷時の状態に戻したい(初期化)

本製品を工場出荷時の状態に戻すと今まで設定した情報が初期値になります。重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに書き残したり「本製品の設定を保存したい／元に戻したい」(P.106)にしたがって、設定を保存し、後で再設定できるようにしておいてください。工場出荷時の状態に戻すには、次の2つの方法があります。

●初期化スイッチを使う

- 1 本製品の電源が入っていない状態で本製品背面の初期化スイッチを押しながら、ACアダプタをコンセントに差し込み、電源を入れます。初期化スイッチはゼムクリップなど堅くて先の細いもので押してください。
- 2 そのまま40秒以上初期化スイッチを押し続けて、初期化スイッチを離します。
- 3 LEDがすべて消灯して、電源LED、接続されているLAN側の100M LEDと通信状態LED、無線LED、WAN LEDが再度点灯したら、工場出荷時の状態に戻ります。

●設定ユーティリティを使って初期化する

- 1 設定ユーティリティを起動し、[状態表示] をクリックします。
- 2 [リセット機能] をクリックします。

状態表示	
WAN側	接続タイプ: PPPoE
	モデムの状態: ON
	接続状態: 接続中
	WAN側 IPアドレス:
	セッション2:
<input type="button" value="再読み込み"/> <input type="button" value="詳細"/>	
LAN側	LAN側 IPアドレス: 192.168.1.1
	サブネットマスク: 255.255.255.0
	DHCPサーバ: ON
システム	デバイス名: XXXXXXXXX
	ファームウェアバージョン: Version X.XX <input type="button" value="ファームウェア更新"/>
<input type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="システムデータ"/> <input type="button" value="リセット機能"/>	
「設定保存」で保存を行った設定ファイルを使用してルータの設定を復元させる場合は、「ファームウェア更新」を押して保存した設定ファイルを読み込みます。	
<input type="button" value="ログ機能"/> <input type="button" value="E-Mail機能"/> <input type="button" value="ヘルプ"/>	

- 3 「工場出荷時の状態に戻す」の[実行] をクリックします。

リセット機能	
再起動	
本製品の再起動を行うため、すべてのネットワーク接続が一時的に切断されます。	<input type="button" value="実行"/>
工場出荷時の状態に戻す	
本製品の設定内容がすべて工場出荷時の状態に戻ります。 登録されている接続情報は消去されます	<input type="button" value="実行"/>
	<input type="button" value="終了"/>

「工場出荷時の状態に戻します。」と表示されたら [OK] をクリックします。

LEDがすべて消灯して、電源LED、接続されているLAN側の100M LEDと通信状態LED、無線LED、WAN LEDが再度点灯したら、工場出荷時の状態に戻ります。

【廃棄（または譲渡、返却）される場合の留意事項】

本製品は、お客様固有のデータを登録または保持可能な製品です。本製品内のデータ流出などによる不測の損害を回避するために、本製品を廃棄（または譲渡、返却）される際には、本製品を初期化することにより、本製品内に登録または保持されたデータを必ずを消去していただきますようお願いいたします。

それでも解決しなかったら…

以上のことをしても解決しなかったときは、お取扱相談センタにお問い合わせください。問い合わせ先は、添付の「NTT 通信機器お取扱相談センタ」シールをご覧ください。

製品仕様書

CG-WLBARGSF

W A N 仕 様	サポート規格	IEEE802.3u(100BASE-TX)/IEEE 802.3(10BASE-T)
	インタフェース	
	コネクタ	RJ-45 × 1
	規 格	100BASE-TX/10BASE-T Full Duplex/Half Duplex オートネゴシエーション
	MDI/MDI-X 切換	自動認識
	アクセス方式	CSMA/CD
	伝送速度	100 Mbps/10 Mbps
L A N 仕 様	サポート規格	IEEE802.3u(100BASE-TX)/IEEE 802.3(10BASE-T) / IEEE802.3x(Flow Control)
	インタフェース	
	コネクタ	RJ-45 × 4
	規 格	100BASE-TX/10BASE-T Full Duplex/Half Duplex オートネゴシエーション
	MDI/MDI-X 切換	全ポート自動認識
	アクセス方式	CSMA/CD
	スイッチング方式	ストア & フォワード
	伝送速度	100 Mbps / 10 Mbps
電 源 部	最大消費電力	5.4 W
	定格入力電圧	DC12V
	定格入力電流	1 A
無 線 部	国際規格	IEEE802.11g, IEEE802.11b, IEEE802.11
	国内規格	ARIB STD-T66
	周波数帯域（中心周波数表示） / チャンネル	IEEE802.11g : 2.412 ~ 2.472 GHz/1 ~ 13 ch IEEE802.11b : 2.412 ~ 2.472 GHz/1 ~ 13 ch
	伝送方式	直接拡散型スペクトラム拡散方式(DS-SS) 直交周波数分割多重変調方式(OFDM)
	アクセス制御方式	CSMA/CA
	伝送速度	IEEE802.11g : 6/9/12/18/24/36/48/54 Mbps IEEE802.11b : 1/2/5.5/11 Mbps
	セキュリティ	ESSID 方式 < IEEE802.11:ID(文字列)による識別 > WEP < 64/128 bit > WPA 方式 < PSK(パーソナル) > TKIP < WPA の設定内に含む >
	アンテナ形状 / アンテナ方式	ダイポールアンテナ
	通信モード	Infrastructure モード
環 境 条 件	動作時温度 / 湿度	0 ~ 40 °C/90 % 以下(結露なきこと)
	保管時温度 / 湿度	- 20 ~ 60 °C/95 % 以下(結露なきこと)
取得承認	VCCI クラス B、技術基準適合認証品	
外形寸法(本体のみ)	102(W) × 32(D) × 156(H) mm	
質量(本体のみ)	220g (アンテナおよび AC アダプタを含まず)	

CG-WLCB54GSF

PC インタフェース		PC Card Standard(Card Bus) Type II 準拠
無線部	サポート規格	国際規格 : IEEE 802.11、IEEE802.11b、IEEE802.11g 国内規格 : ARIB STD-T66
	転送方式	直接拡散型スペクトラム拡散方式(DS-SS) 直交周波数分割多重変調方式(OFDM)
	アクセス制御方式	CSMA/CA
	転送レート	IEEE802.11g : 6/9/12/18/24/36/48/54 Mbps IEEE802.11b : 1/2/5.5/11 Mbps
	セキュリティ	WEP <64/128/152 bit> WPA 方式 <EAP(エンタープライズ:IEEE802.1x 認証)> WPA方式 <PSK(パーソナル)> TKIP <WPAの設定内に含む> AES 802.1x-WEP <WEP static 非対応>
	アンテナ形状 / アンテナ形式	PCB アンテナ / ダイバシティ
	周波数帯域(中心周波数表示) / チャンネル	IEEE802.11g : 2.412 ~ 2.472 GHz (1 ~ 13 ch) IEEE802.11b : 2.412 ~ 2.472 GHz (1 ~ 13 ch)
	通信モード	Infrastructure / Ad-Hoc
	ローミング	サポート
	電源部	動作電圧
	最大消費電力	1.8 W
環境条件	動作時温度 / 湿度	0 ~ 40 °C / 90 % 以下(結露なきこと)
	保管時温度 / 湿度	- 20 ~ 60 °C / 95 % 以下(結露なきこと)
外形寸法		54(W) × 119(D) × 6(H) mm(アンテナ部含む) (突起部 54(W) × 34(D) × 6(H) mm)
質量		40g

工場出荷時の設定

CG-WLBARGSF

管理者設定	
ユーザー名	root
パスワード	(設定なし)
ネットワーク設定	
IPアドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0

ワイヤレス基本設定	
ESSID	corega
暗号化	無効
周波数帯域	Auto(802.11 b/g-2.4 GHz)
チャンネル	6

CG-WLCB54GSF

基本設定	
通信モード	Infrastructureのみ
周波数帯域	802.11 b/g-2.4 GHz
ESSID	corega
暗号化	無効
eXtended Range	無効

MAC アドレスについて

ご契約されているプロバイダやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、回線終端装置（モデムなど）に直接接続するネットワーク機器（本製品も含むパソコンなど）のMAC アドレスをプロバイダに対して事前申請してください。

本製品のWAN 側のMAC アドレスは本体左側面に記入されています。

LAN 側のMAC アドレスについては、設定ユーティリティの [状態表示] - [システムデータ] をクリックして表示される画面で確認できます。

本製品のお問い合わせについて

本製品のお取扱方法に関するご相談は、NTT 通信機器お取扱相談センターへお問い合わせください。

NTT通信機器お取扱相談センター

お問い合わせ先  トークニーナ
0120-109217

おことわり

- ・本書は、株式会社コレガが作成したもので、すべての権利を株式会社コレガが保有しています。株式会社コレガに無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- ・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- ・改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- ・本製品の仕様またはそのご使用により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©2005 株式会社コレガ

corega は、株式会社コレガの登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Mac OS は、Apple Computer, Inc の米国およびその他の国における登録商標です。

フレッツは、東日本電信電話株式会社および西日本電信電話株式会社の登録商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

2005 年 6 月 初版

2005 年 10 月 第二版

MEMO

